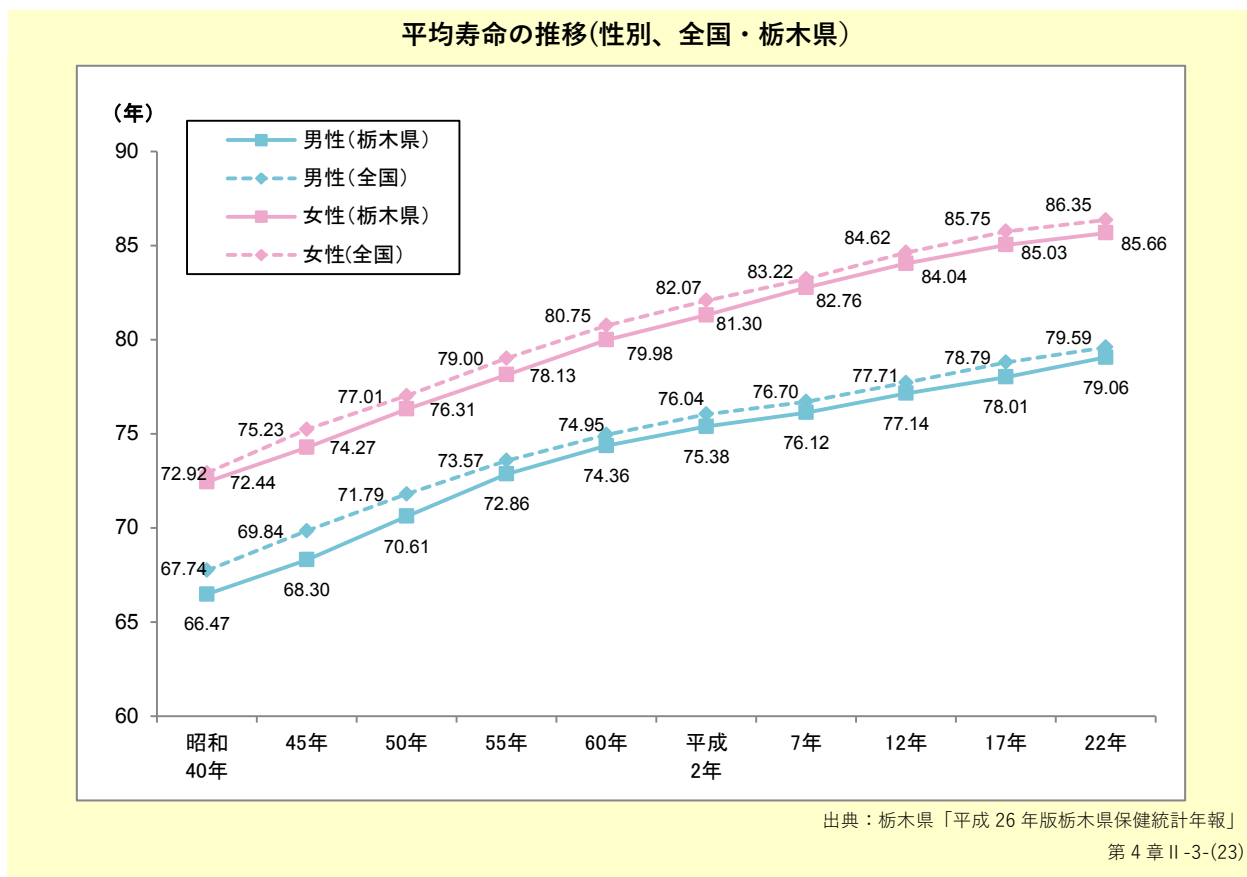


## 第 2 章 県民の健康状態

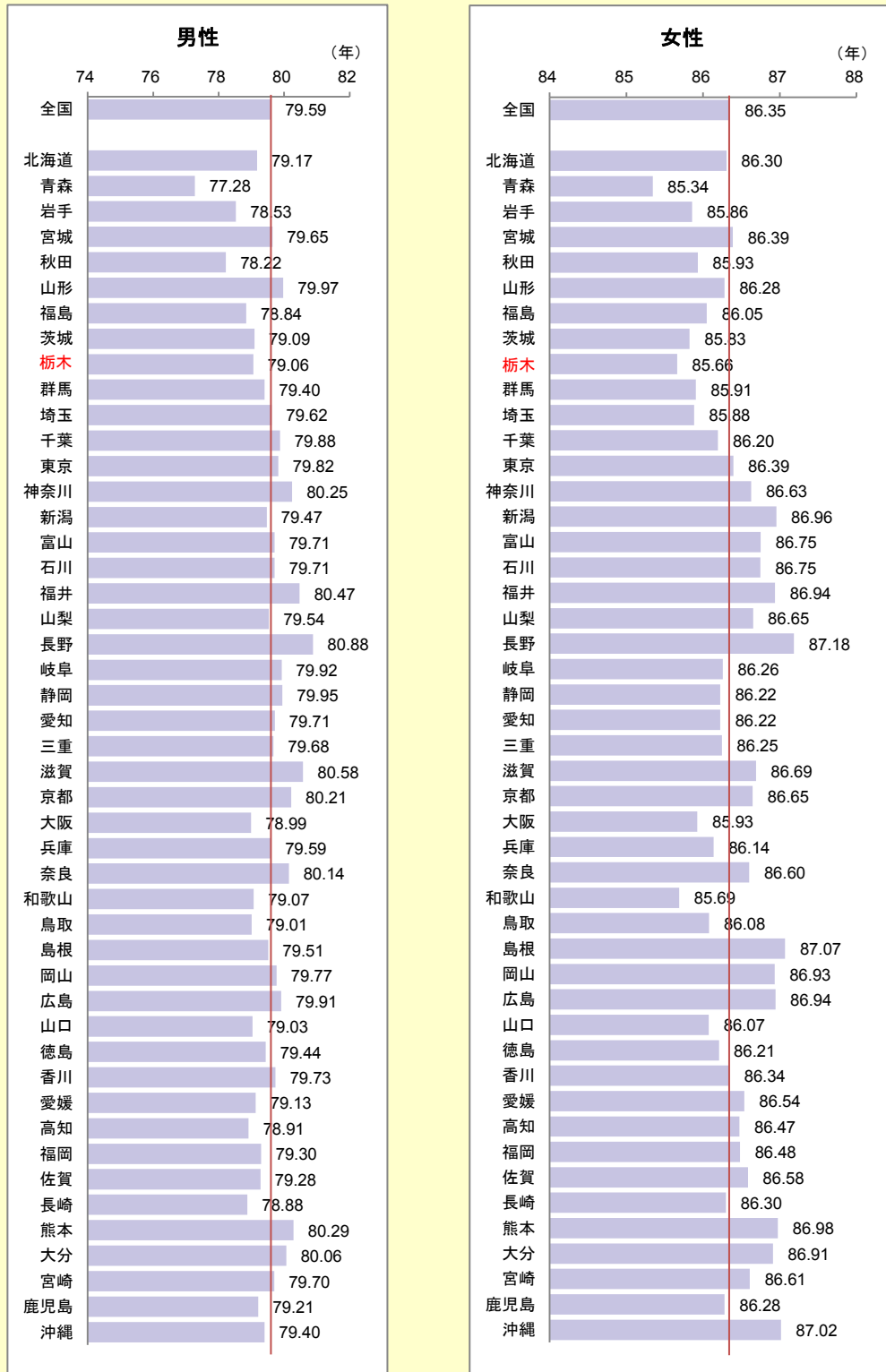
## 第1節 平均寿命と死因

### 1 平均寿命

栃木県の男女別平均寿命は、男女ともに年々延伸傾向にある。平均寿命は、男性 79.06 年、女性 85.66 年（平成 22 年）で、全国と比較すると男性が 38 位、女性が 46 位（いずれも期間が長い方から）である。

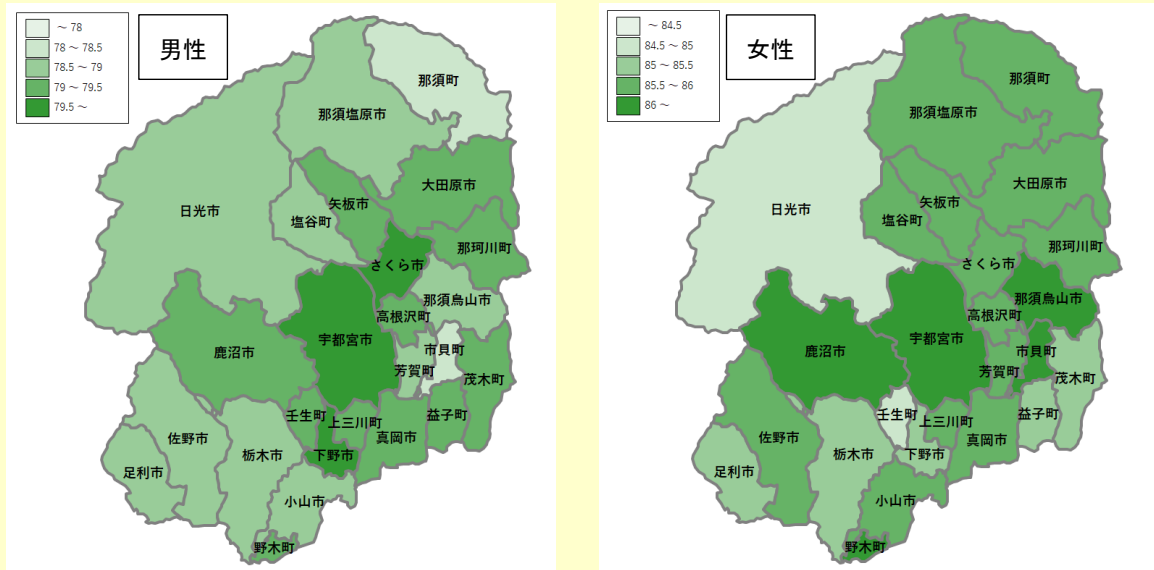


平均寿命（平成 22 年、性別、都道府県別）



出典：栃木県「平成 27 年版栃木県保健統計年報」

### 平均寿命（性別、市町別）

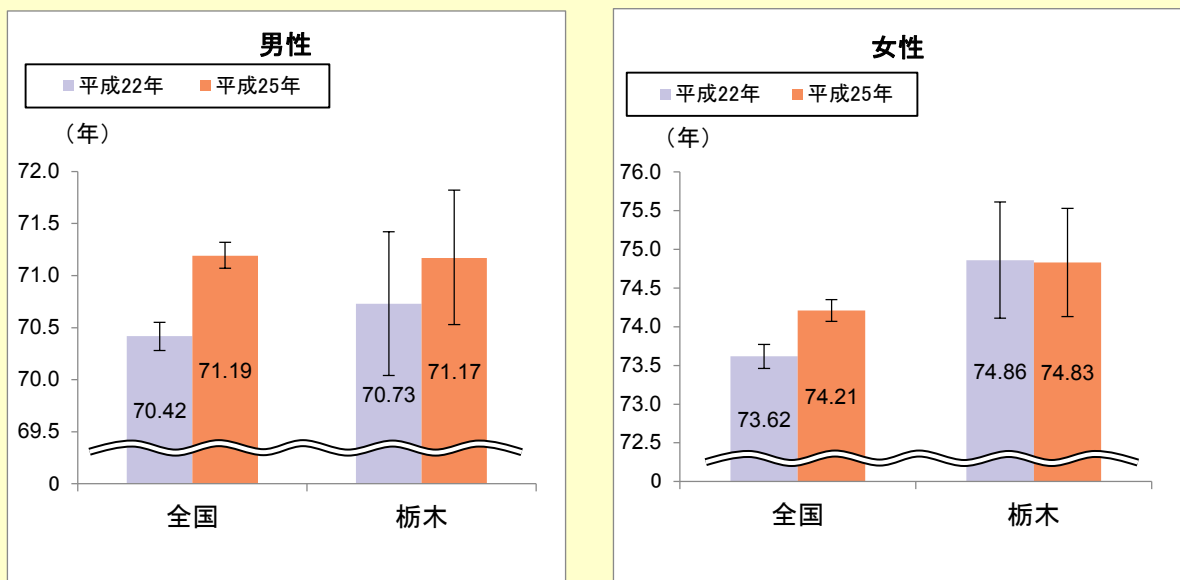


出典：厚生労働省「平成 22 年市区町村別生命表」  
第 4 章 II -3-(25)

## 2 健康寿命

健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）は、男性 71.17 年、女性 74.83 年（平成 25 年）である。男性は平成 22 年から延び、女性は横ばいである。

### 健康寿命（性別、全国・栃木県）

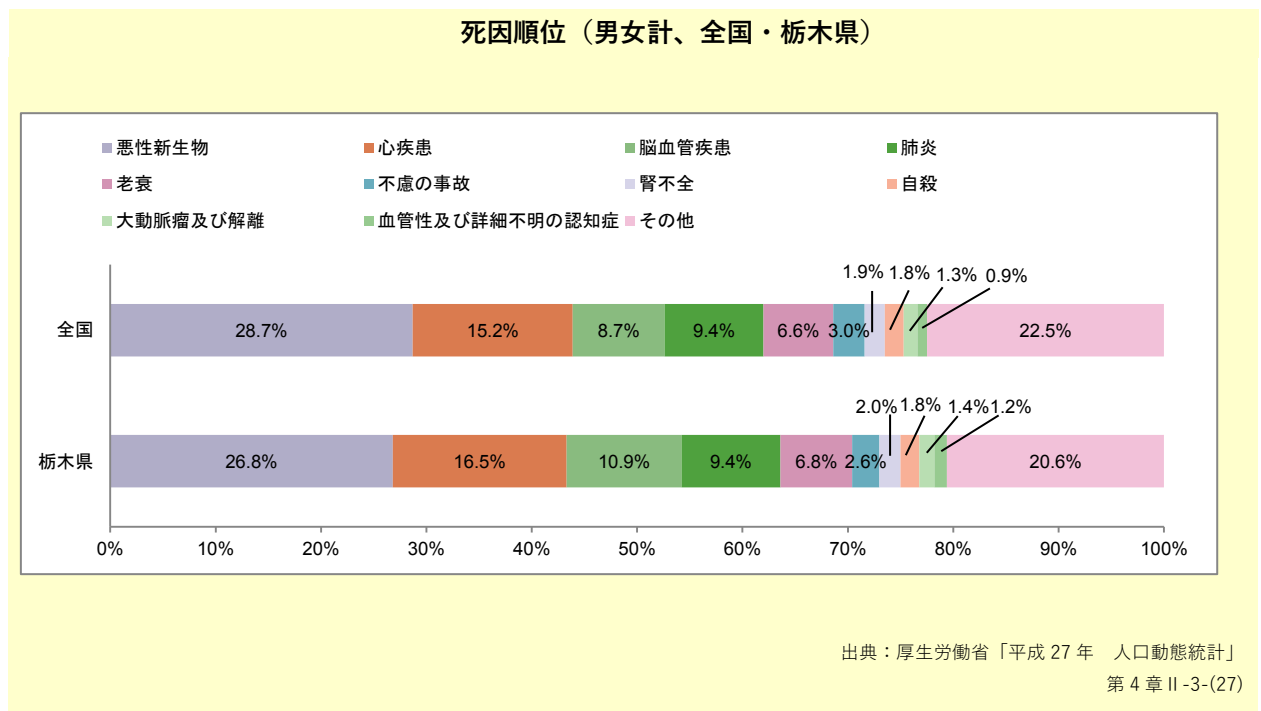


出典：厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」（平成 27 年）  
第 4 章 II -3-(26)

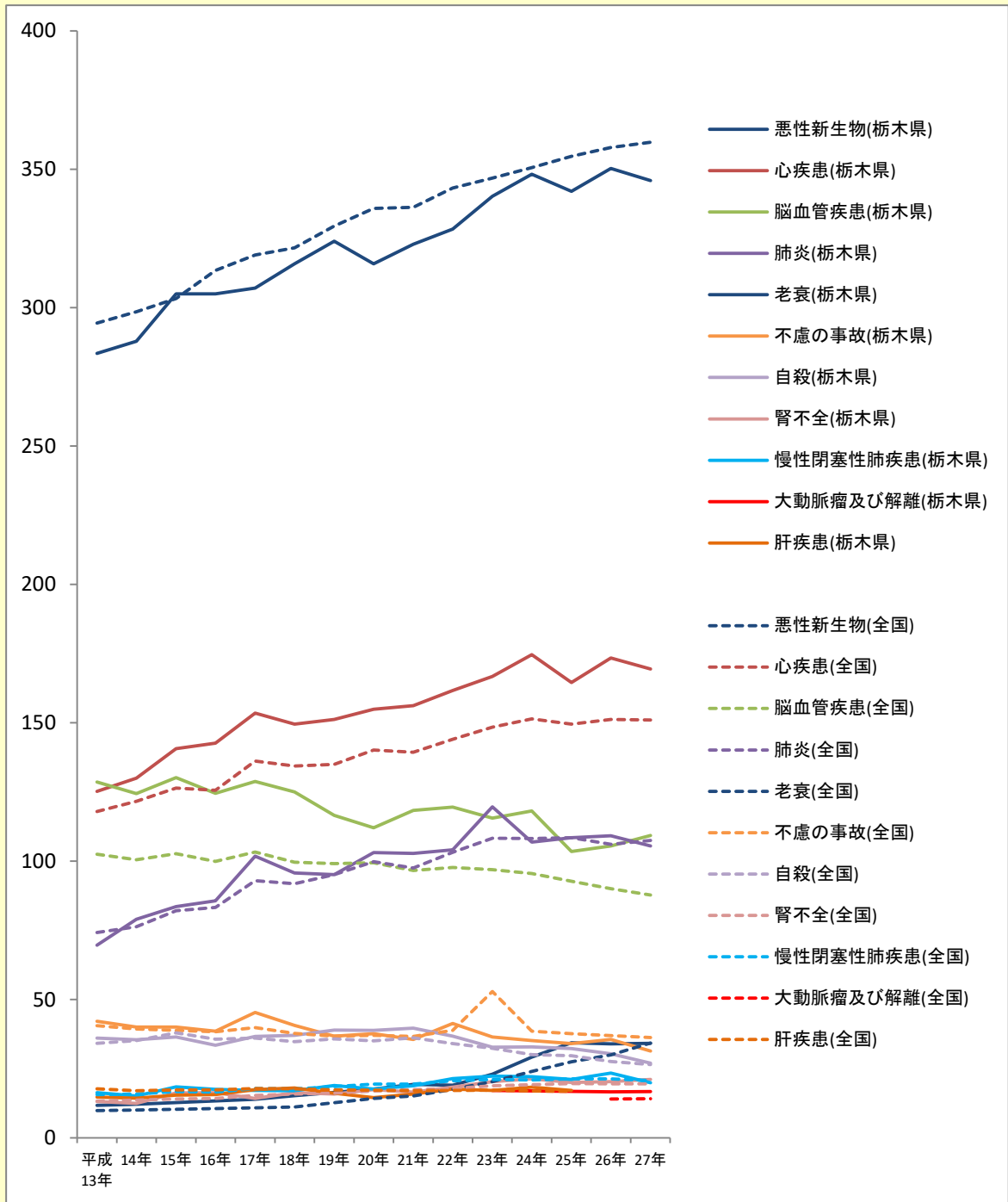
上記算定値は推定値であり、真の値は 95% の信頼度で信頼区間（グラフ中的一部分）に含まれているものとみなされる。

### 3 死因順位

栃木県の死因順位はがん（悪性新生物）、心疾患、脳血管疾患の順に高い。



死因別死亡率（人口10万対）の推移（男性、全国・栃木県）

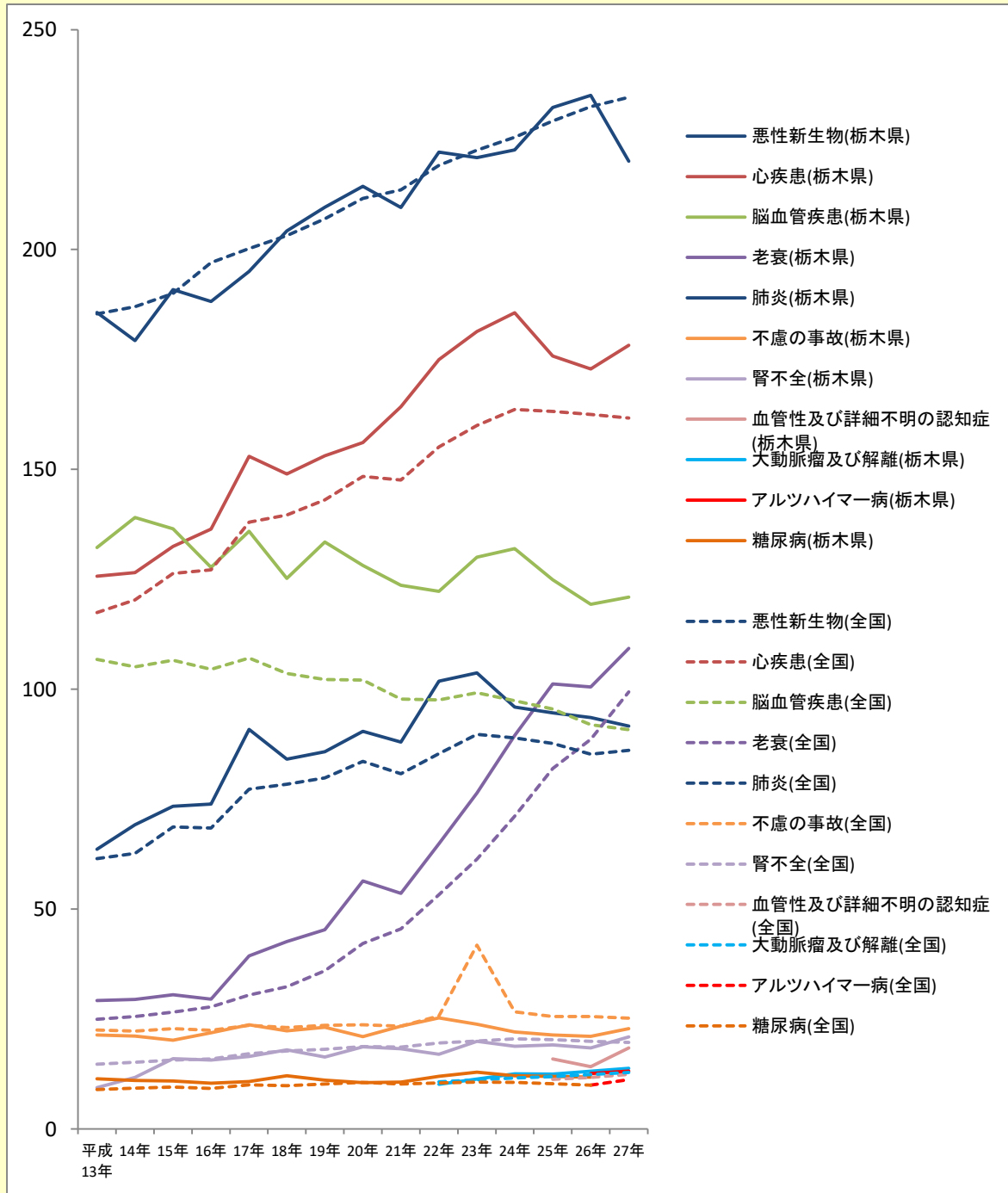


出典：厚生労働省「人口動態統計」（平成13～27年）

第4章II-3-(28)

平成25～27年のいずれかの年において死因別死亡率上位10位の11死因について作図を行ったため、一部区間が描画されていない場合がある。

死因別死亡率（人口10万対）の推移（女性、全国・栃木）



出典：厚生労働省「人口動態統計」（平成13～27年）

第4章II-3-(28)

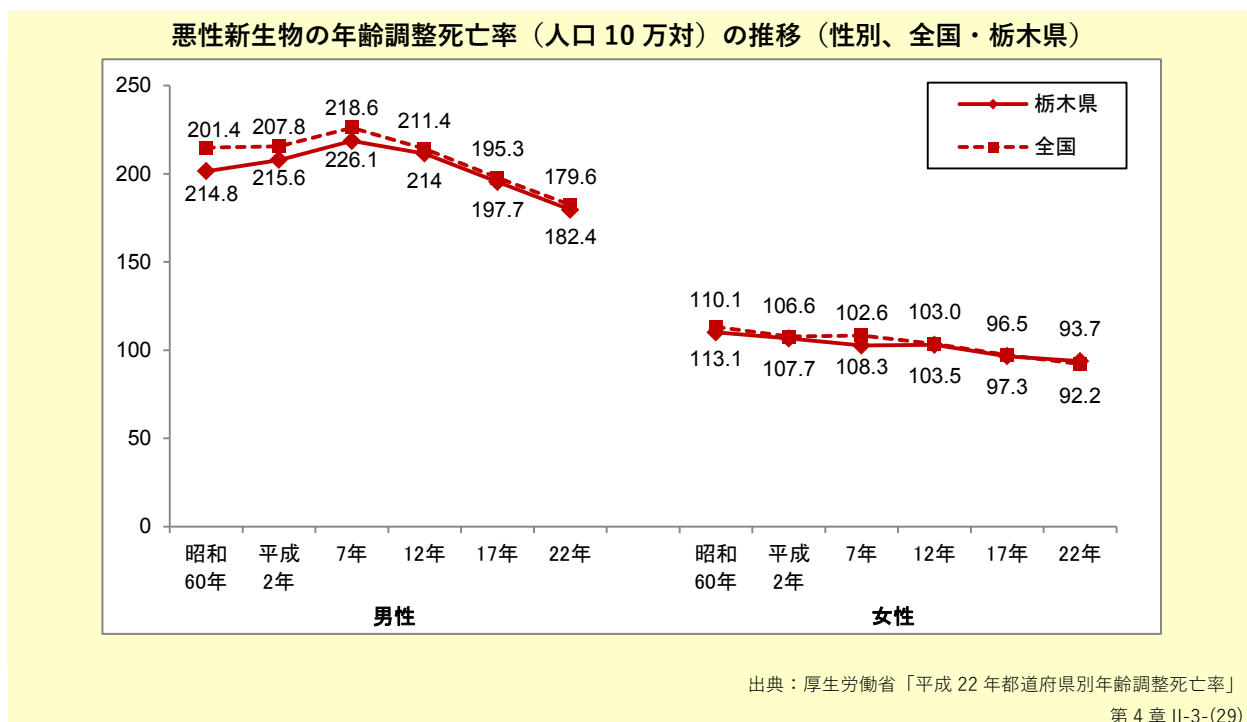
平成25～27年のいずれかの年において死因別死亡率上位10位の11死因について作図を行ったため、一部区間が描画されていない場合がある。

## 第2節 疾患別の状況

### 1 がん（悪性新生物）の状況

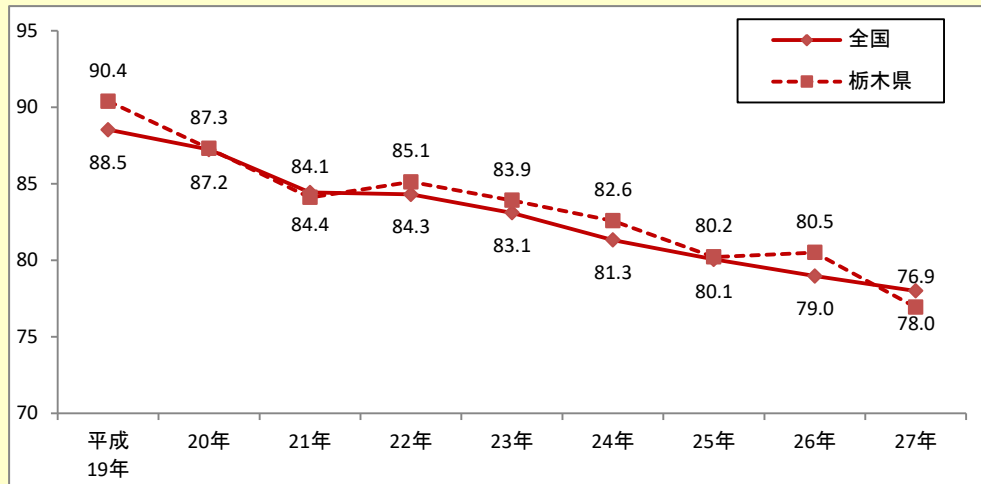
栃木県の悪性新生物（全部位、男女計）については年齢調整死亡率（人口10万対）が減少傾向にあり、年齢調整罹患率（人口10万対）が増加傾向にある。また、5年生存率（平成18-20年診断）は、6割を超えている。

#### (1) 罹患・死亡の状況



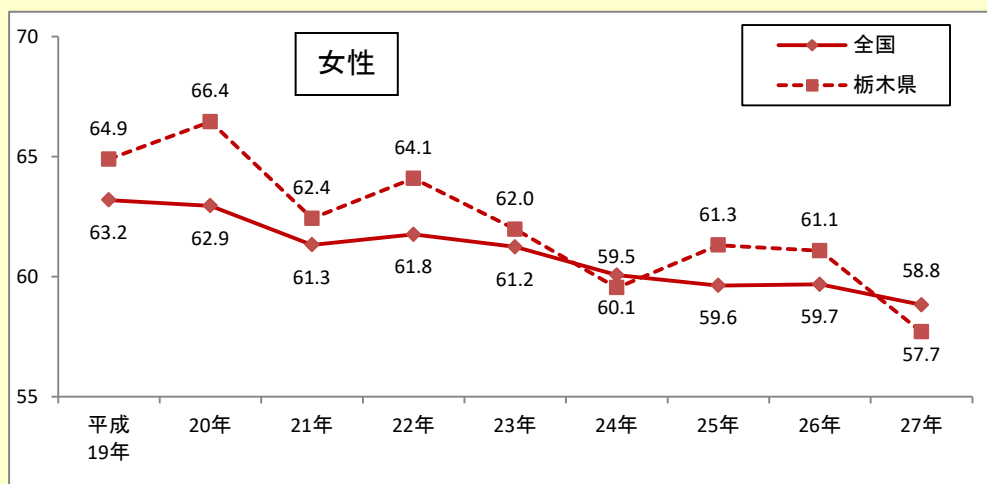
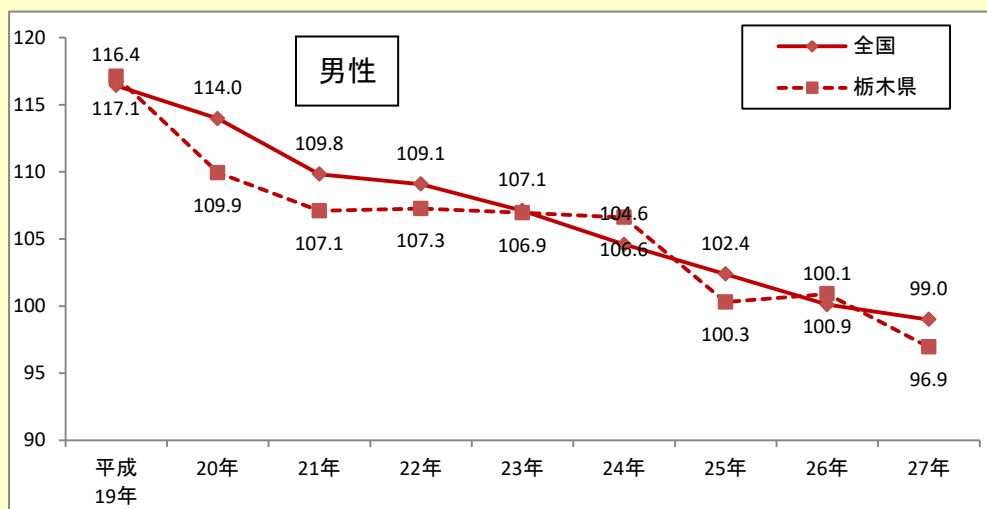


悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（75歳未満、全部位、男女計、全国・栃木県）



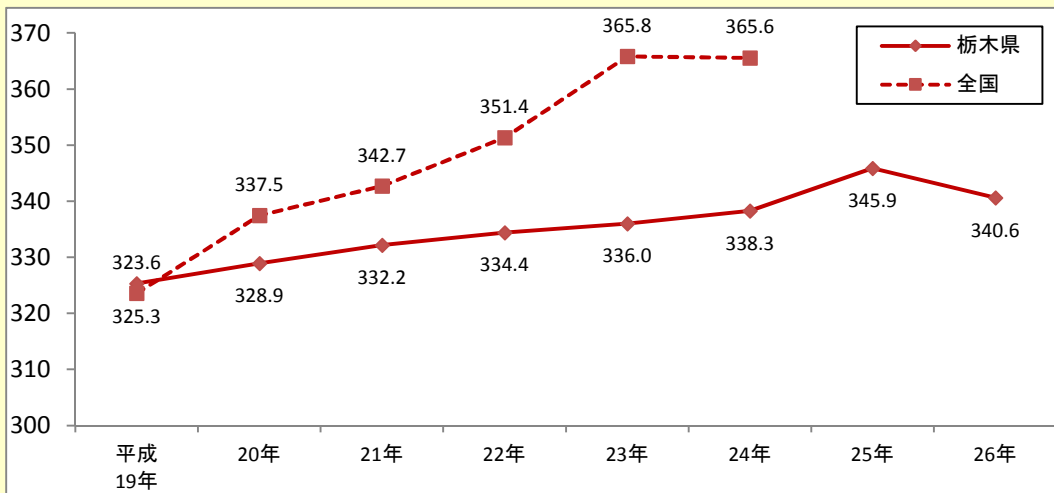
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」  
第4章II-3-(30)

悪性新生物の年齢調整死亡率（人口10万対）の推移（75歳未満、全部位、性別、全国・栃木県）



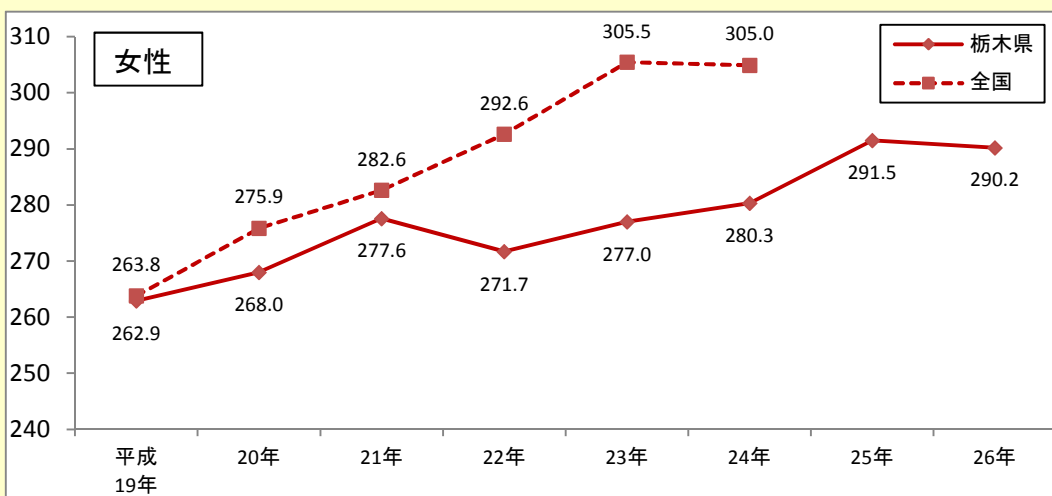
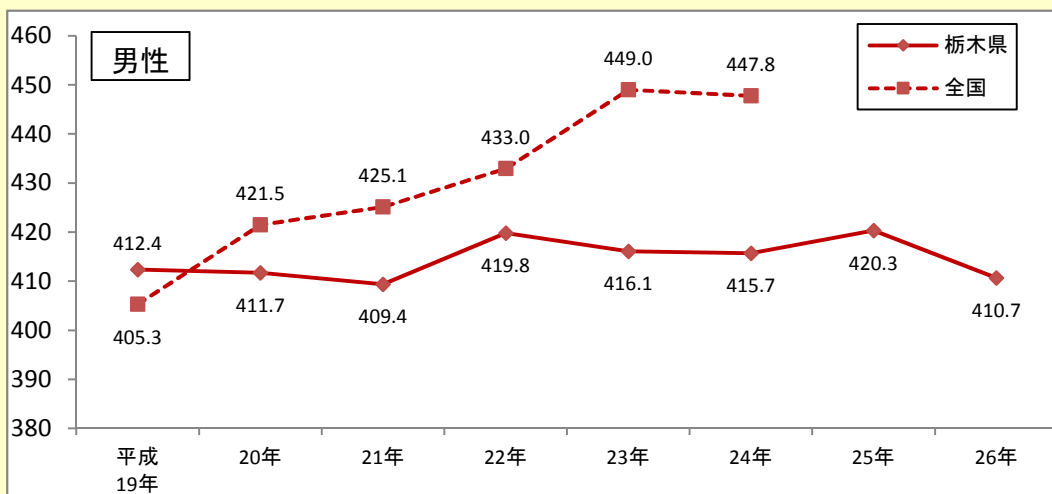
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」  
第4章II-3-(30)

悪性新生物の年齢調整罹患率（人口10万対）の推移（全部位、男女計、全国・栃木県）



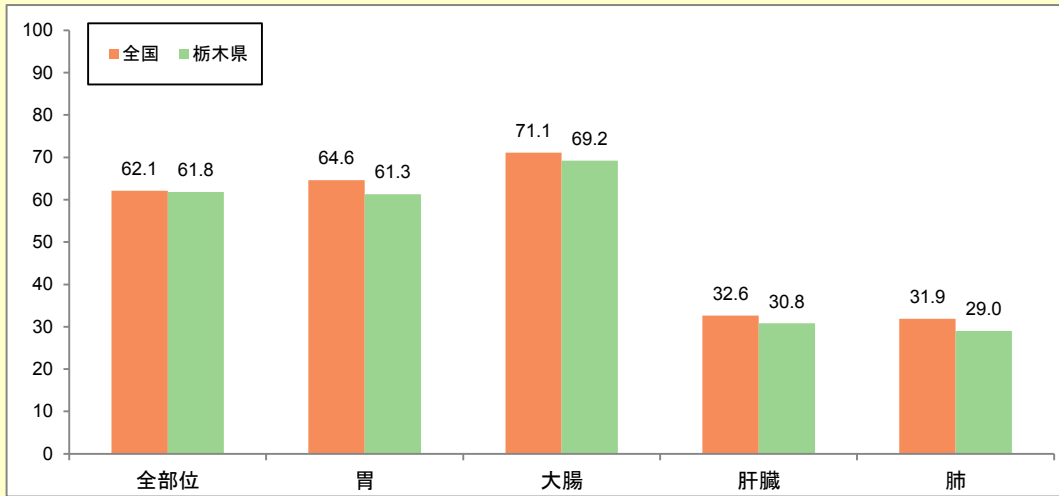
出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」、栃木県「栃木県のがん2014」  
第4章 II-3-(31)

悪性新生物の年齢調整罹患率（人口10万対）の推移（全部位、性別、全国・栃木県）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」、栃木県「栃木県のがん2014」  
第4章 II-3-(31)

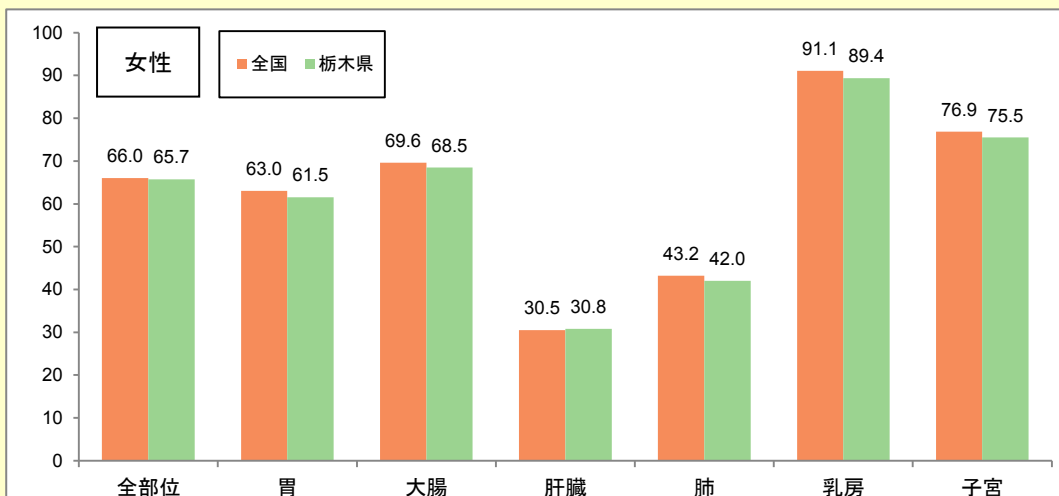
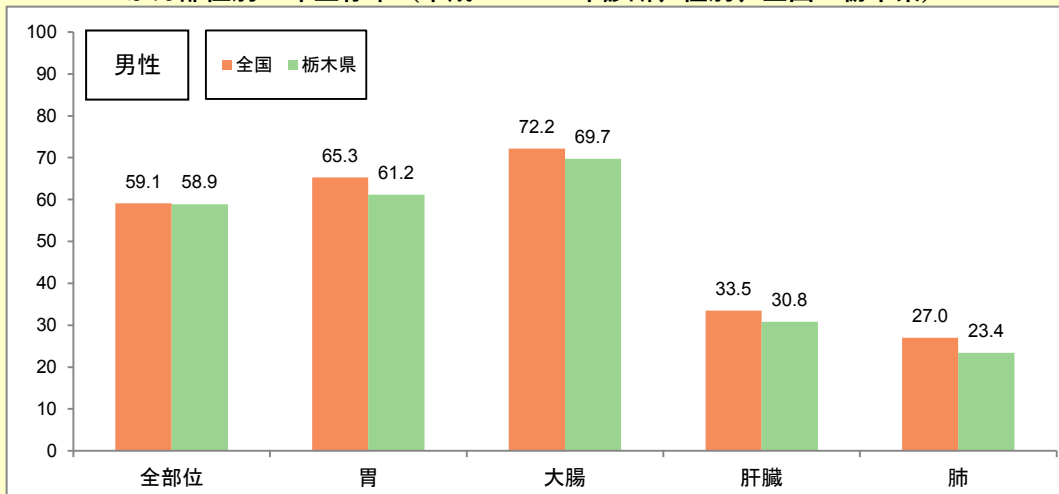
がん部位別 5 年生存率（平成 18～20 年診断、男女計、全国・栃木県）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

第 4 章 II-3-(32)

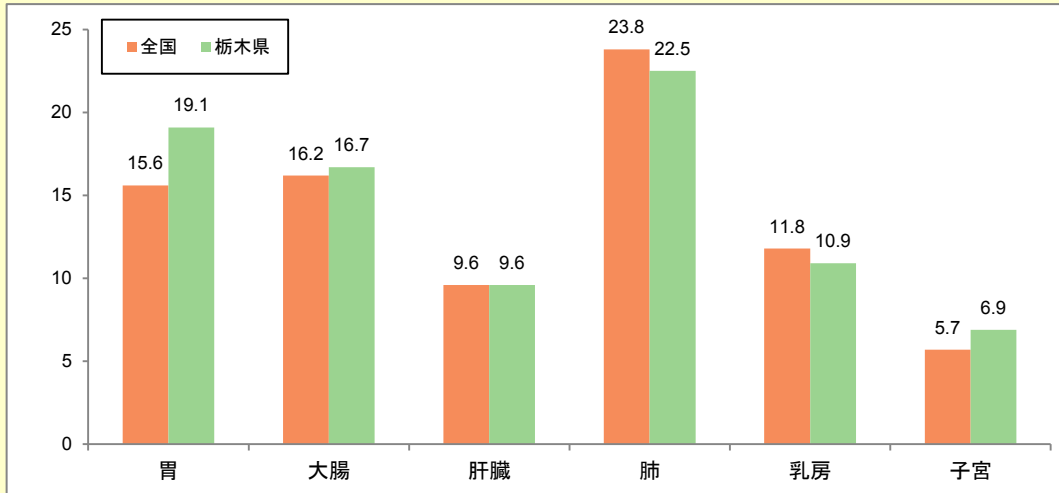
がん部位別 5 年生存率（平成 18～20 年診断、性別、全国・栃木県）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

第 4 章 II-3-(32)

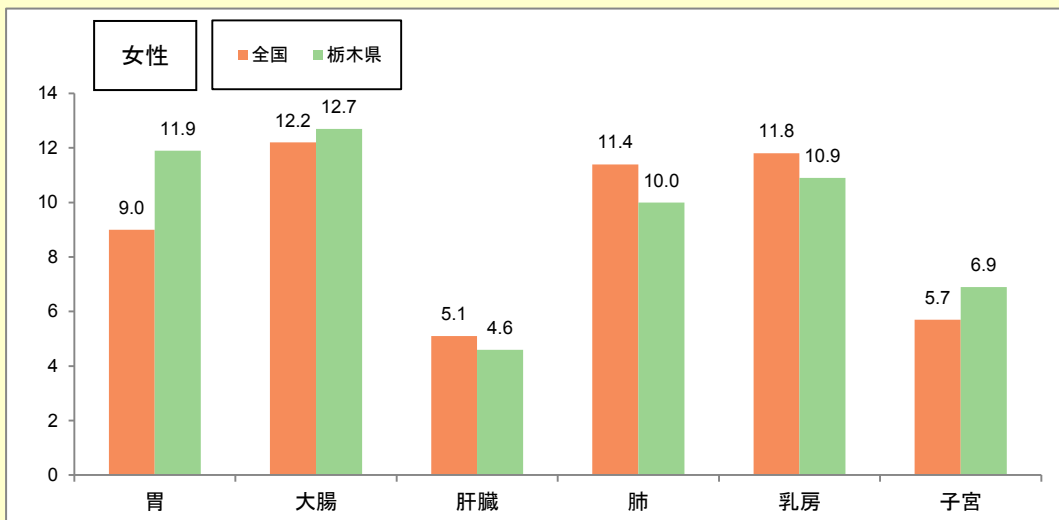
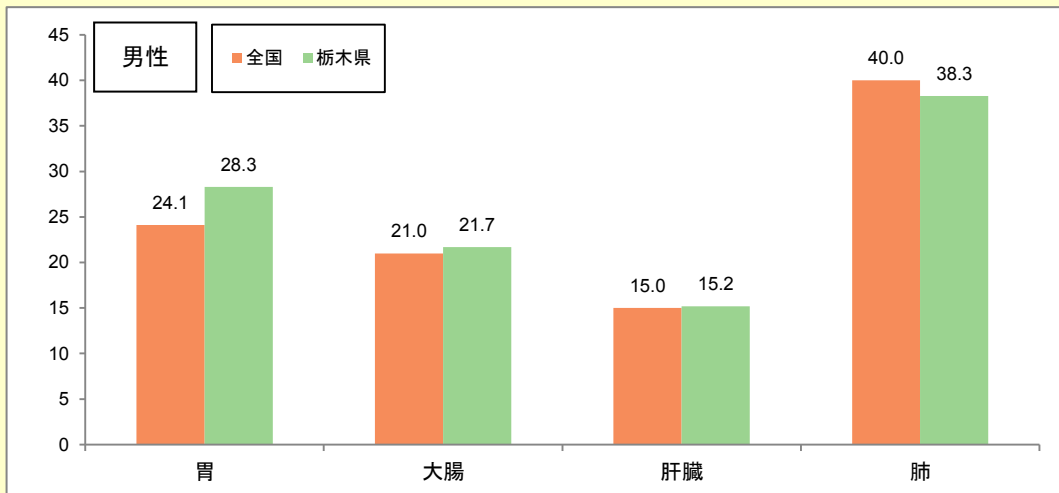
がん部位別年齢調整死亡率（平成 26 年、男女計、全国・栃木県）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

第 4 章 II-3-(33)

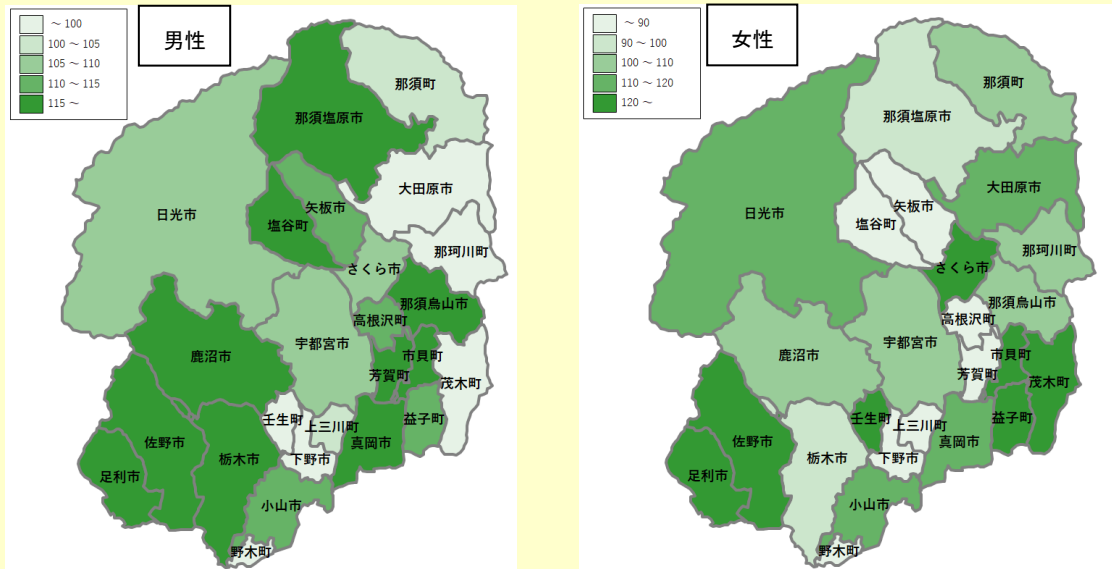
がん部位別年齢調整死亡率（平成 26 年、性別、全国・栃木県）



出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」

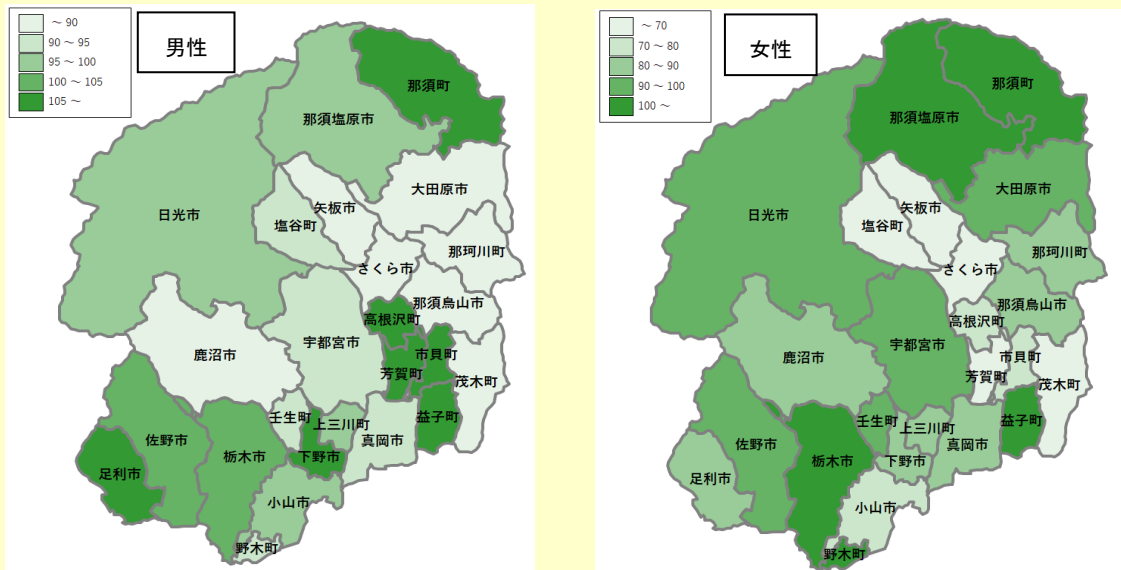
第 4 章 II-3-(33)

悪性新生物（胃）の標準化死亡比（性別、市町別）



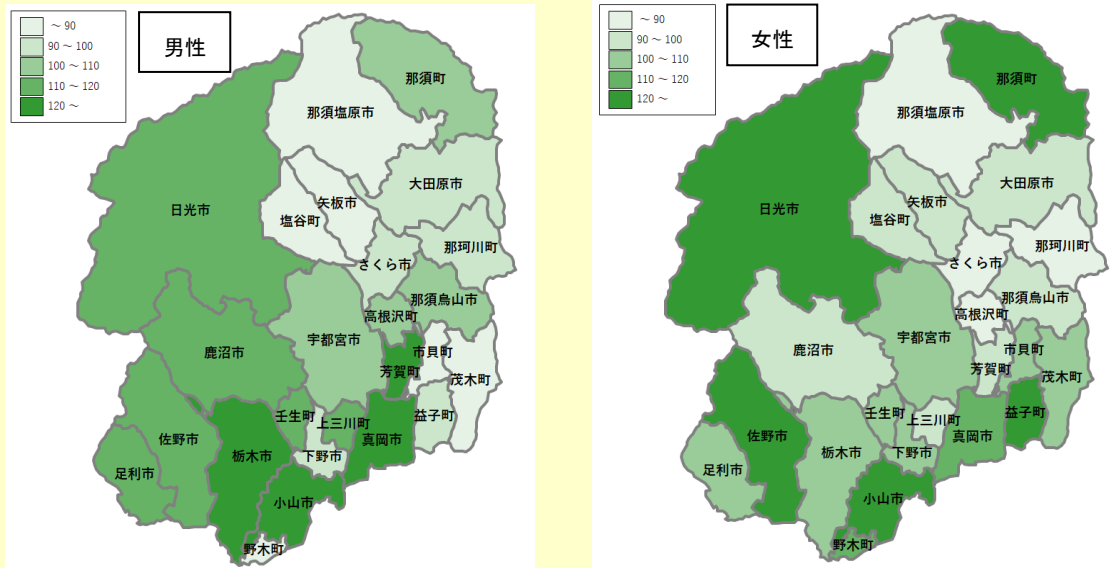
出典：厚生労働省「平成 20～24 年人口動態保健所・市町村別統計」  
第 4 章 II-3-(34)

悪性新生物（気管、気管支及び肺）の標準化死亡比（性別、市町別）



出典：厚生労働省「平成 20～24 年人口動態保健所・市町村別統計」  
第 4 章 II-3-(35)

### 悪性新生物（大腸）の標準化死亡比（性別、市町別）

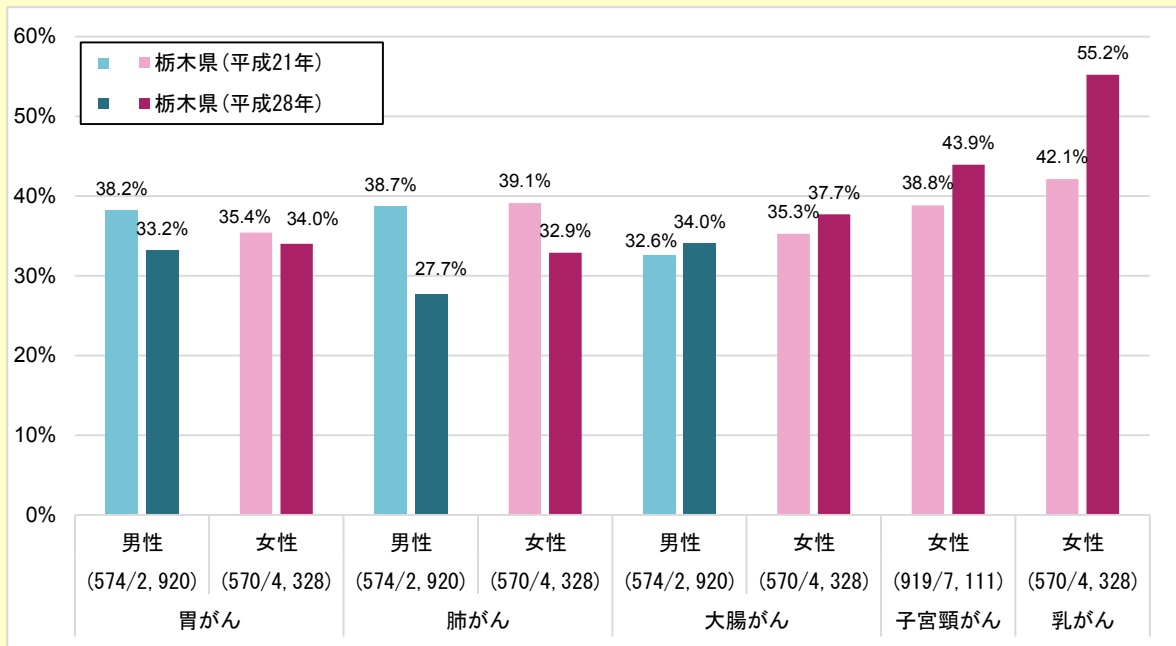


出典：厚生労働省「平成20～24年人口動態保健所・市町村別統計」  
第4章II-3-(36)

## (2) がん検診の受診状況

40歳以上（子宮頸がんは20歳以上）の者の過去1年間（子宮頸がん、乳がんは過去2年間）にがん検診を受診した者の割合は、胃がん、肺がんは平成21年度を下回っているが、大腸がん、子宮頸がん、乳がんは上回っている。

### がん検診を受診した者の割合（40歳～64歳※子宮頸がんは20歳～64歳）



出典：栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章I-3-(4)・II-2-(4)

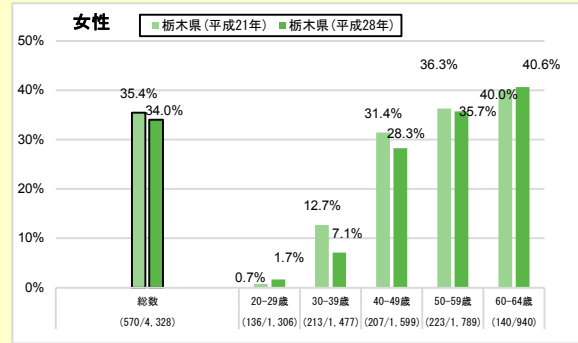
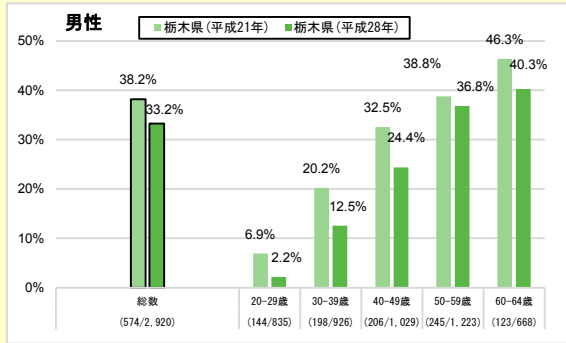
各グラフの（）内の数字は母数

\*ただし、総数は平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った

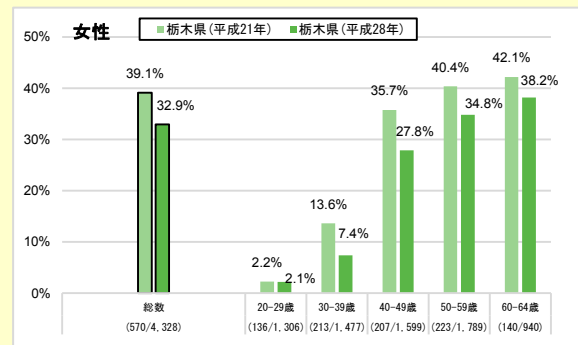
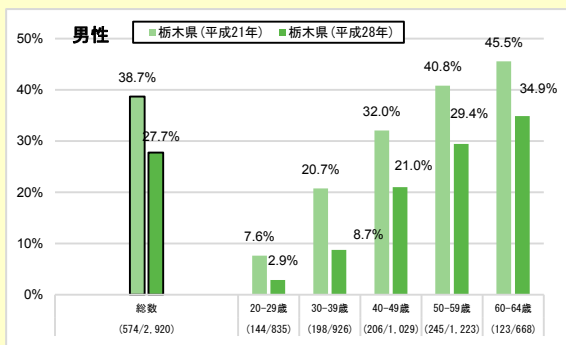
## がん検診を受診した者の割合（20歳以上、性別・年齢階級別）

該当設問：問3 過去1年間に（子宮頸がん、乳がんは過去2年間、※女性に限る）に、がん検診を受けましたか。  
あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。

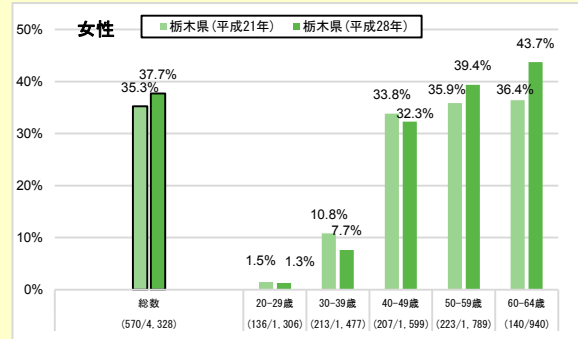
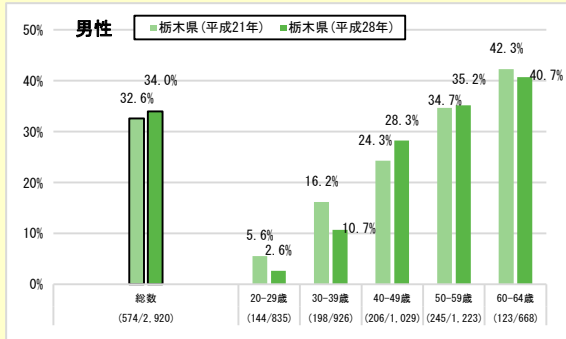
### 胃がん



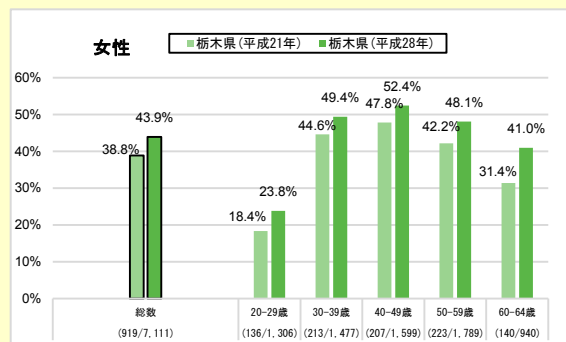
### 肺がん



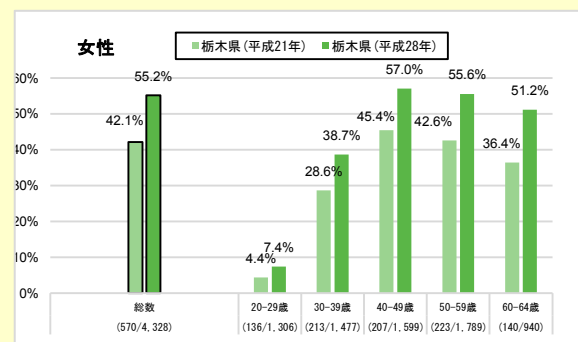
### 大腸がん



### 子宮頸がん



### 乳がん



出典：栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

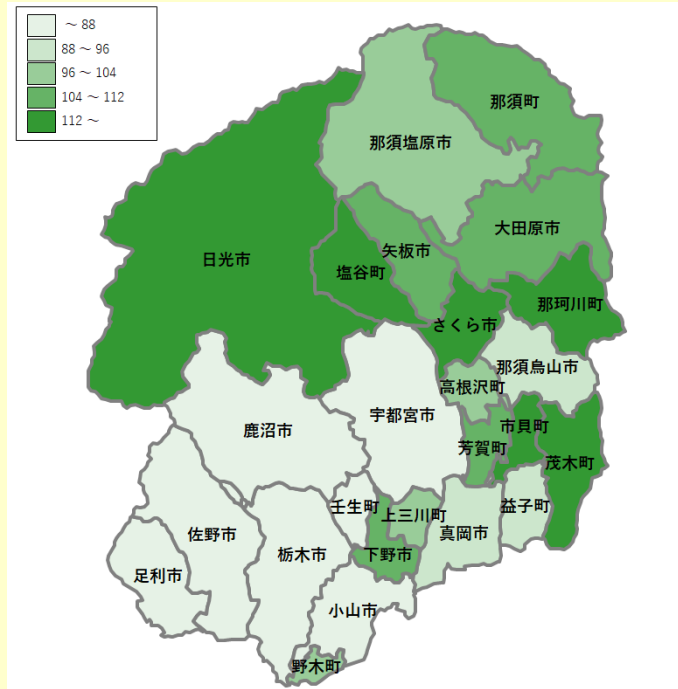
第4章 1-3-(5)・11-2-(4)

各グラフの（）内の数字は母数

※ただし、総数は40歳以上（子宮頸がんは20歳以上）の集計結果を掲載。

平成21年度の結果の総数は平成28年度の対象年代に絞って再集計を行った

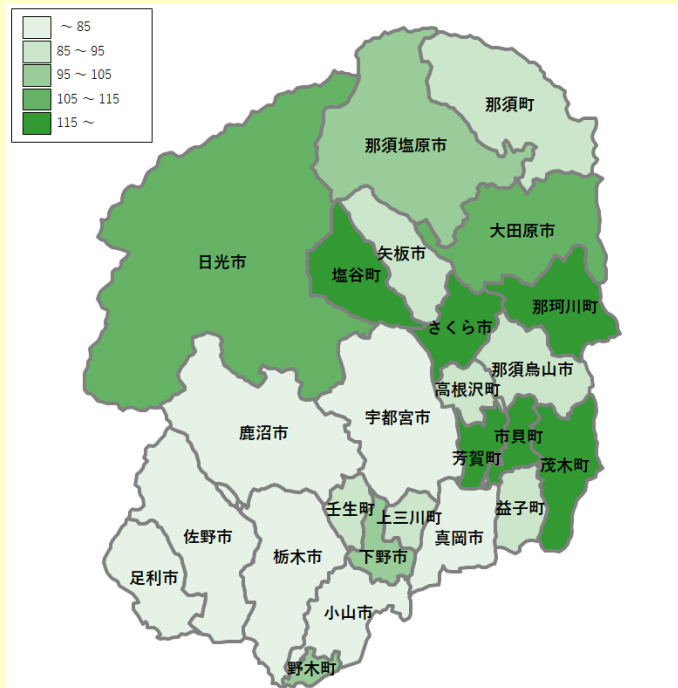
### 胃がん検診を受診した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(3)

県全体の回答割合を 100 とし、胃がん検診を受診した者の割合が大きいほど色が濃い。

### 肺がん検診を受診した者の市町別割合

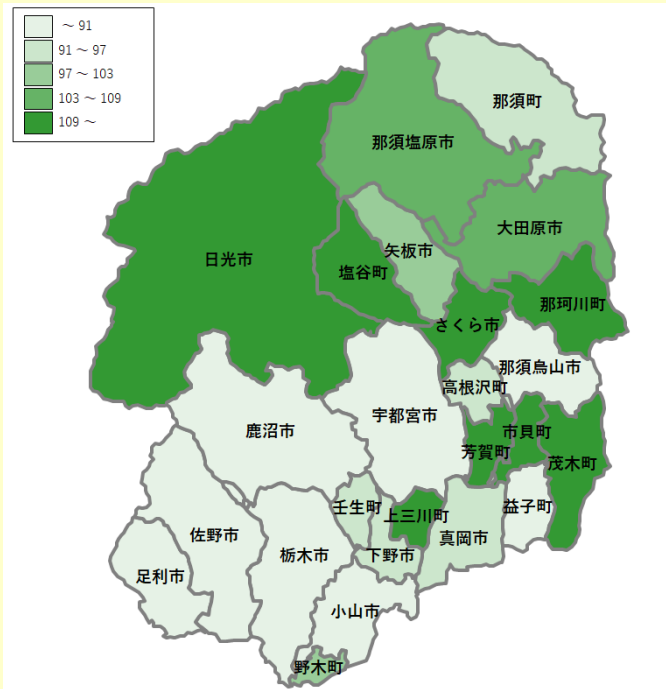


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(3)

県全体の回答割合を 100 とし、肺がん検診を受診した者の割合が大きいほど色が濃い。



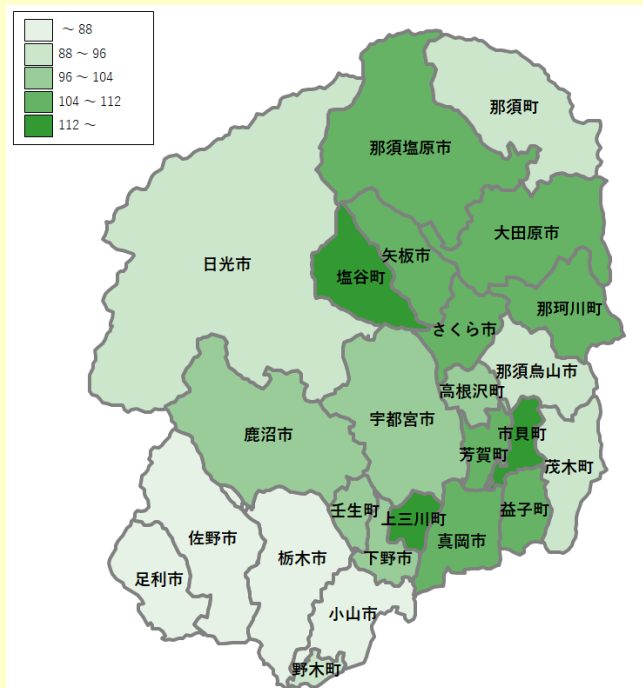
### 大腸がん検診を受診した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(3)

県全体の回答割合を 100 とし、大腸がん検診を受診した者の割合が大きいほど色が濃い。

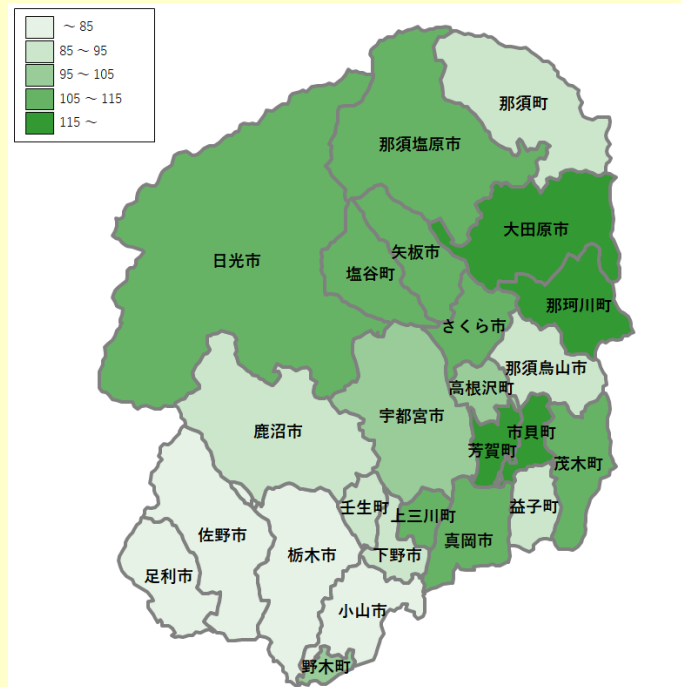
### 子宮頸がん検診を受診した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(3)

県全体の回答割合を 100 とし、子宮頸がん検診を受診した者の割合が大きいほど色が濃い。

### 乳がん検診を受診した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(3)

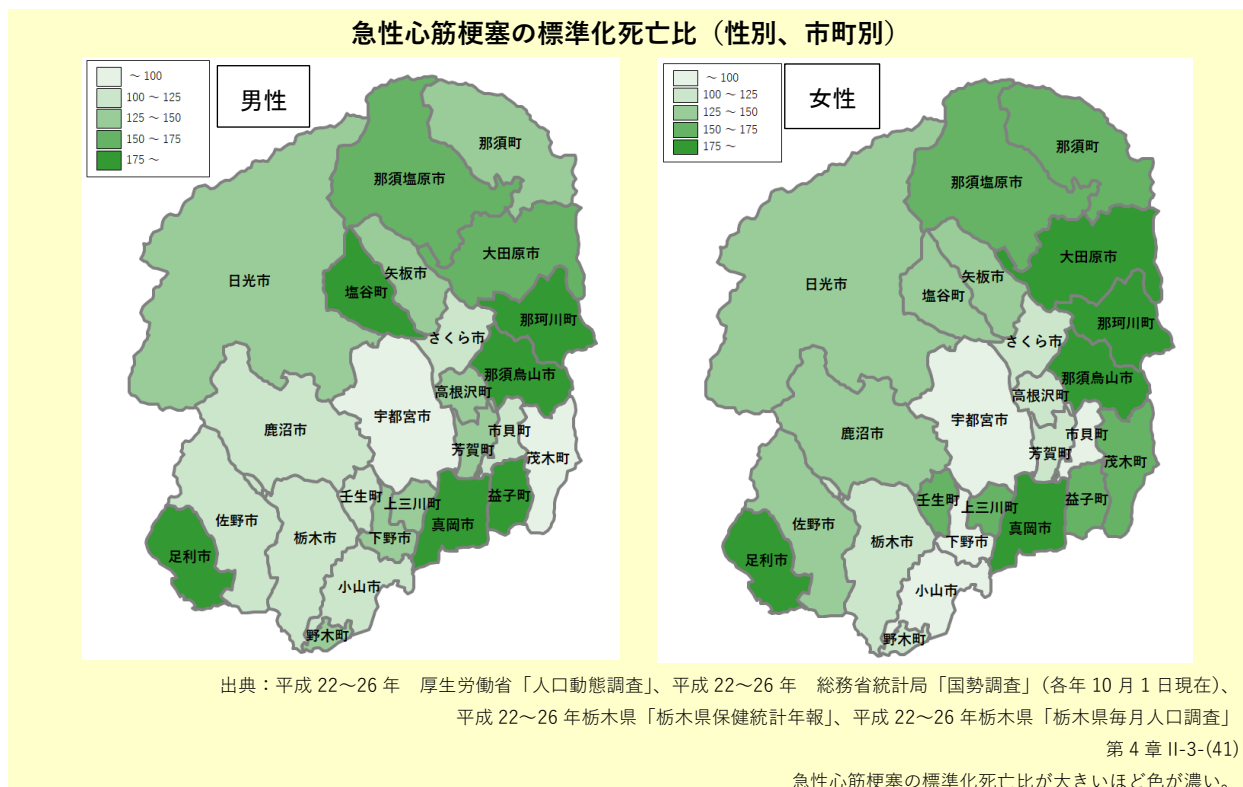
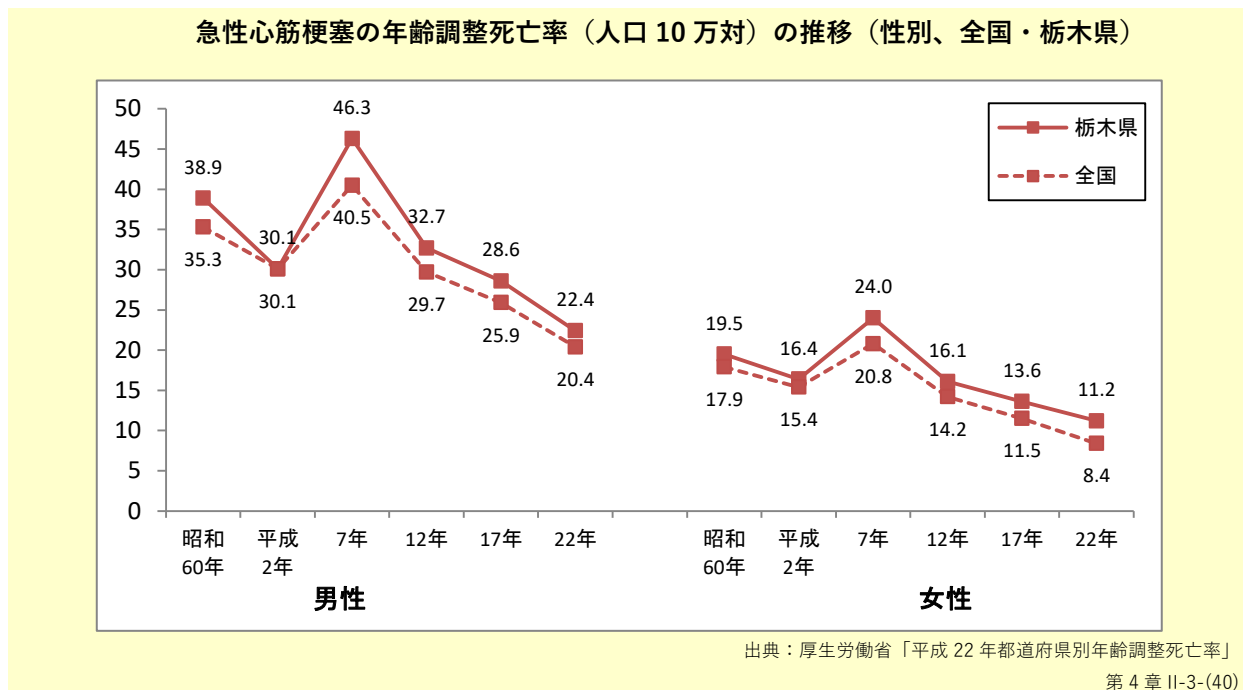
県全体の回答割合を 100 とし、乳がん検診を受診した者の割合が大きいほど色が濃い。



## 2 急性心筋梗塞の状況

栃木県の心疾患、急性心筋梗塞の年齢調整死亡率（人口10万対）は、男女ともに近年は減少傾向にあるが、全国と比較して高い傾向にある。

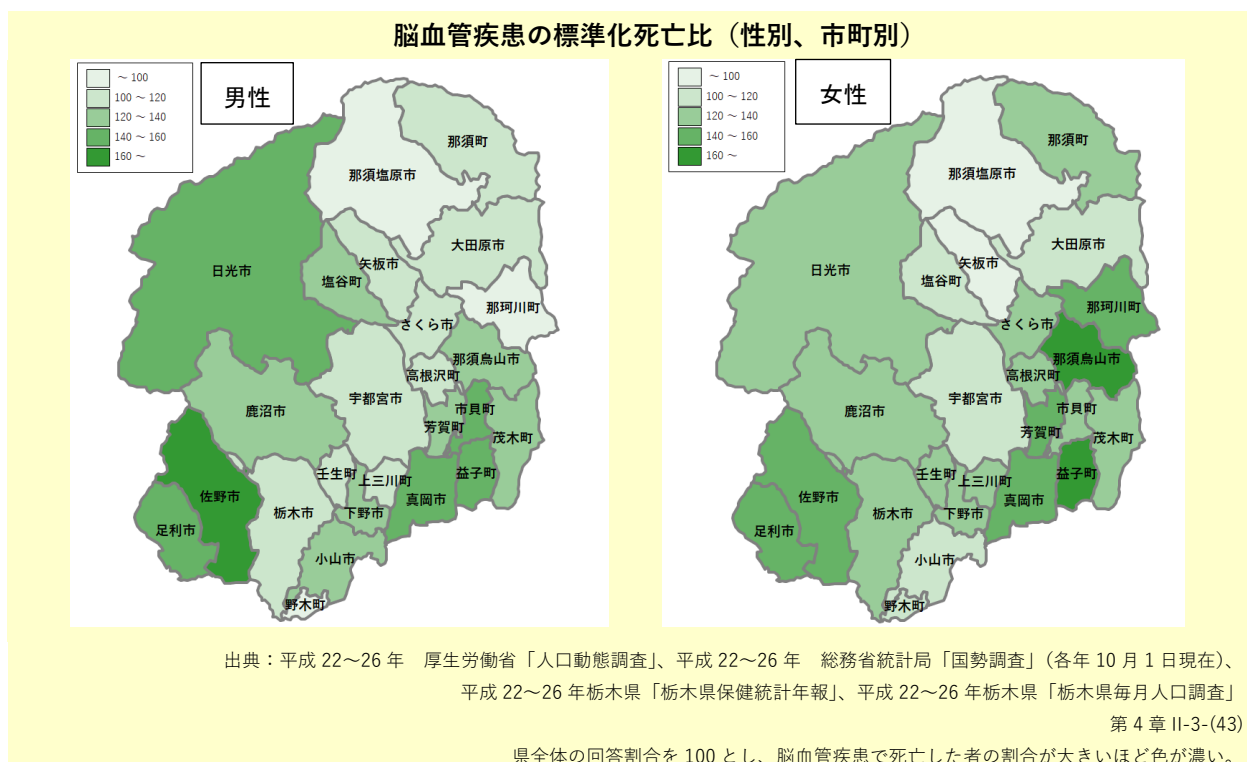
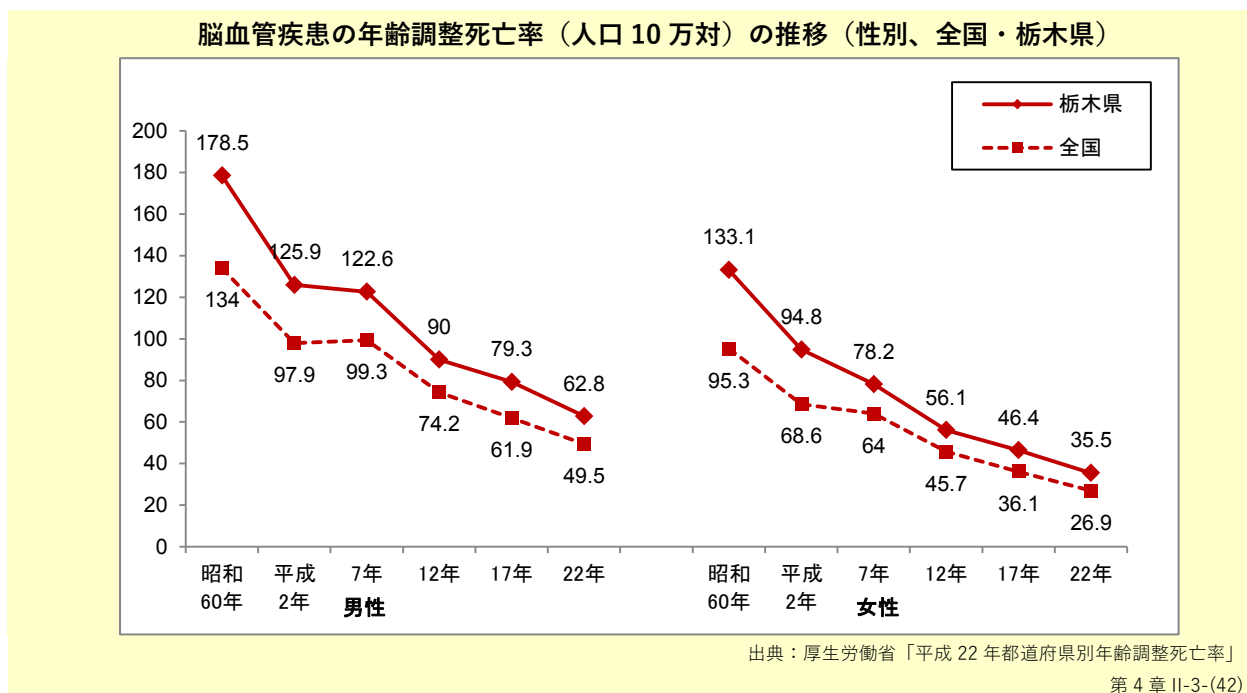
### (1) 急性心筋梗塞の死亡率



### 3 脳血管疾患の状況

#### (1) 脳血管疾患の死亡率

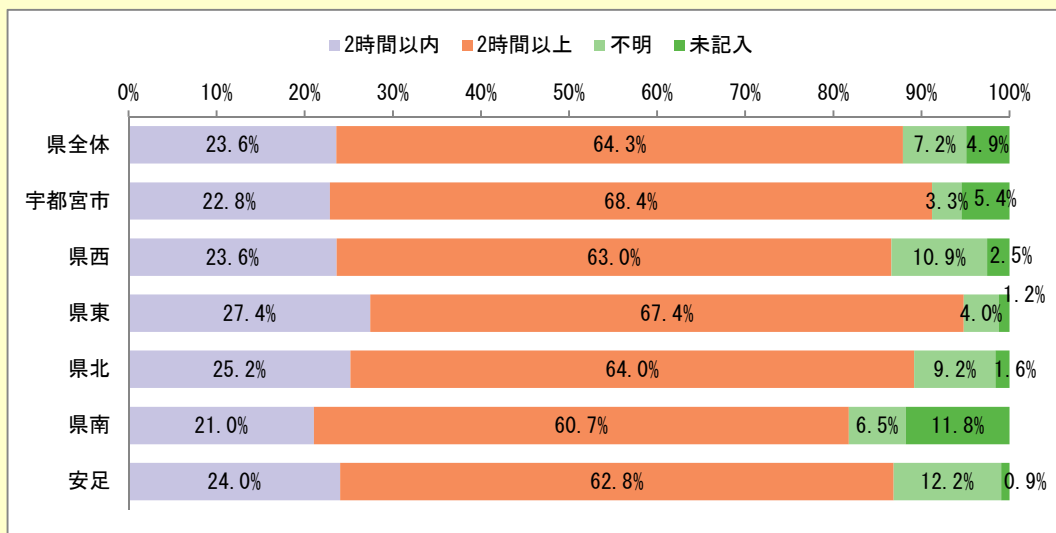
栃木県の脳血管疾患の年齢調整死亡率（人口 10 万対）は、男女ともに近年は減少傾向にあるが、全国と比較して高い傾向にある。



## (2) 脳卒中発症登録\*における発症後2時間以内の受診者割合

栃木県の急性期治療を担う医療機関における医療圏別・脳卒中発症後の受診までの時間割合のうち、県全体で2時間以内の割合は23.6%である。県内では県東が27.4%と最も高い。

急性期治療を担う医療機関における脳卒中発症後の受診までの時間（平成22～26年、二次医療圏別）

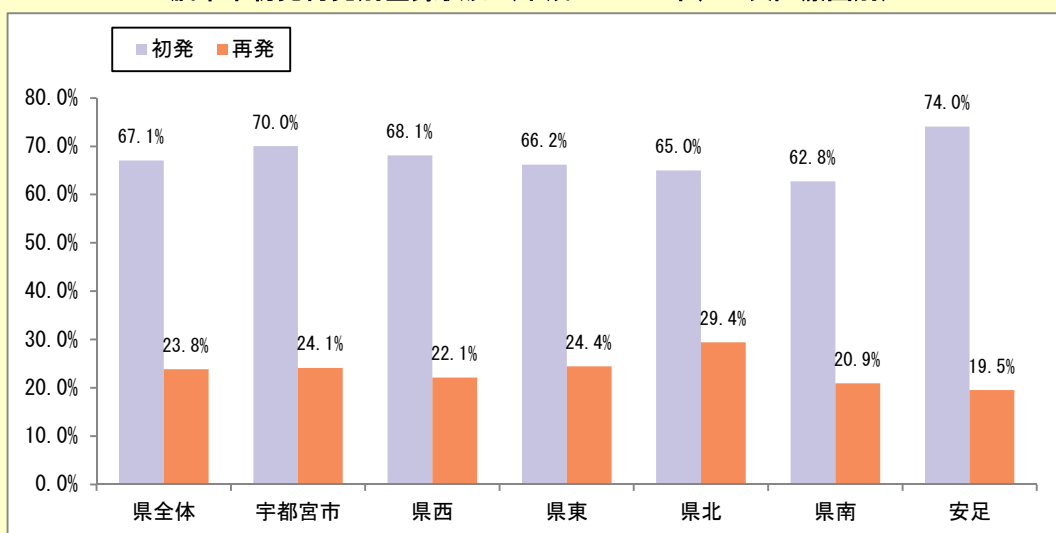


出典：栃木県「平成22～26年脳卒中発症登録」  
第4章 11-3-(44)

## (3) 脳卒中発症登録\*における初発者・再発者比率

栃木県の脳卒中発症登録における初発再発別登録状況は、県全体で初発が67.1%、再発が23.8%である。初発は安足で最も高く74.0%、県南で最も低く62.8%である。再発は県北で最も高く29.4%、安足で最も低く19.5%である。

脳卒中初発再発別登録状況（平成22～26年、二次医療圏別）



出典：栃木県「平成22～26年脳卒中発症登録」  
第4章 11-3-(45)

### \* 脳卒中発症登録

栃木県内の協力医療機関から、脳卒中で入院した患者の発症や受診の状況等に関する情報の提供を受け、地域における脳卒中の発症動向を把握している。

#### (4) 脳卒中初期段階の症状に関する知識の状況

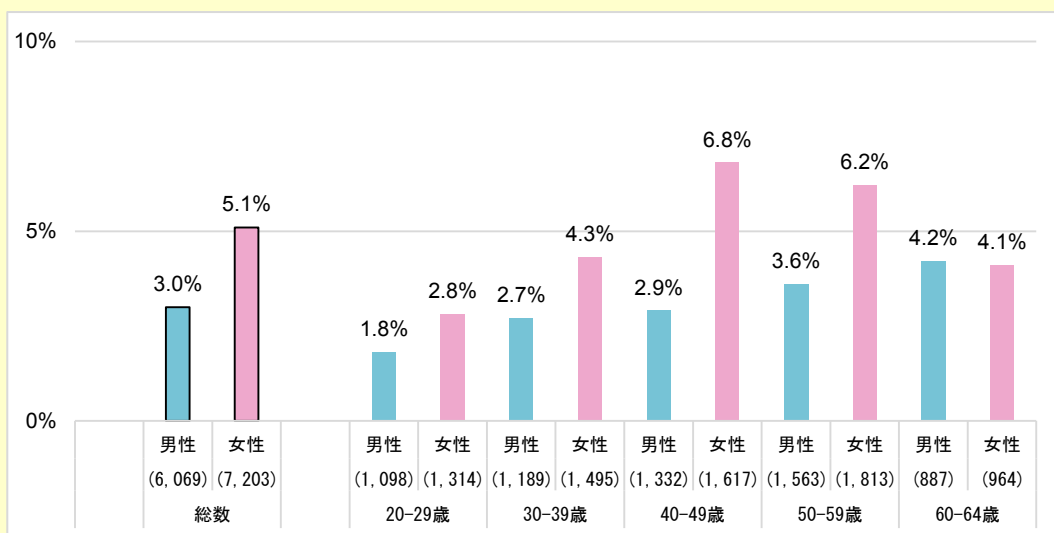
脳卒中の初期段階に起こる症状をすべて正しく回答（10個の選択肢のうち、正しい選択肢5つを過不足なく選択）した者の割合は、男性3.0%、女性5.1%であった。

男性は年代が上がるにつれ、正解率が上がる傾向があり、女性は40代が正解率のピークとなっている。

また、正解の選択肢ごとに正答率を見ると、「突然、ろれつが回らなくなったり、言葉が出なくなったり、他人の言うことが理解できなくなる」という選択肢では88.7%が正解している一方、「突然、片方の目が見えなくなったり、物が二つに見えたり、視野の半分が欠ける」という選択肢は33.4%と低い正答率となっている。

#### 脳卒中の初期段階に起こる症状をすべて正しく回答した者の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問17 脳卒中の初期段階に起こる症状にどのようなものがあるか御存知ですか。あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。

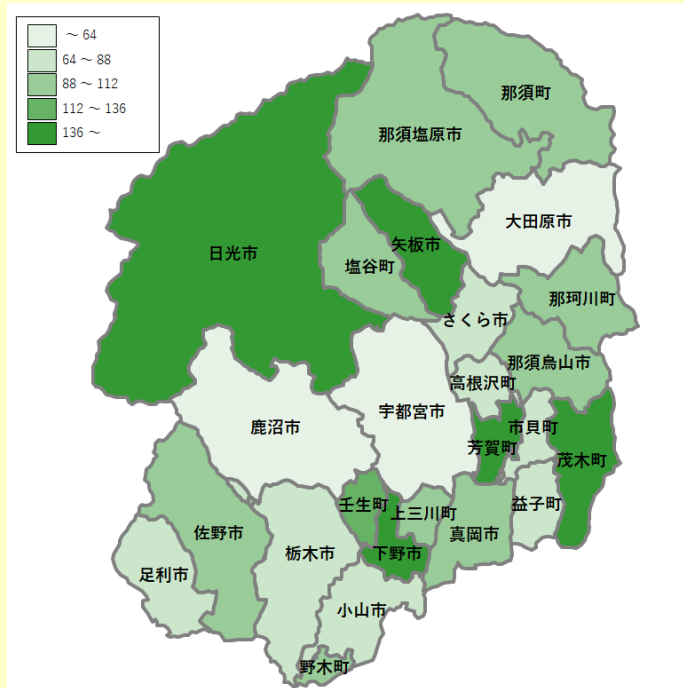


出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

第4章 I-3-(33)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

### 脳卒中の初期段階に起こる症状をすべて正しく回答した者の市町別割合

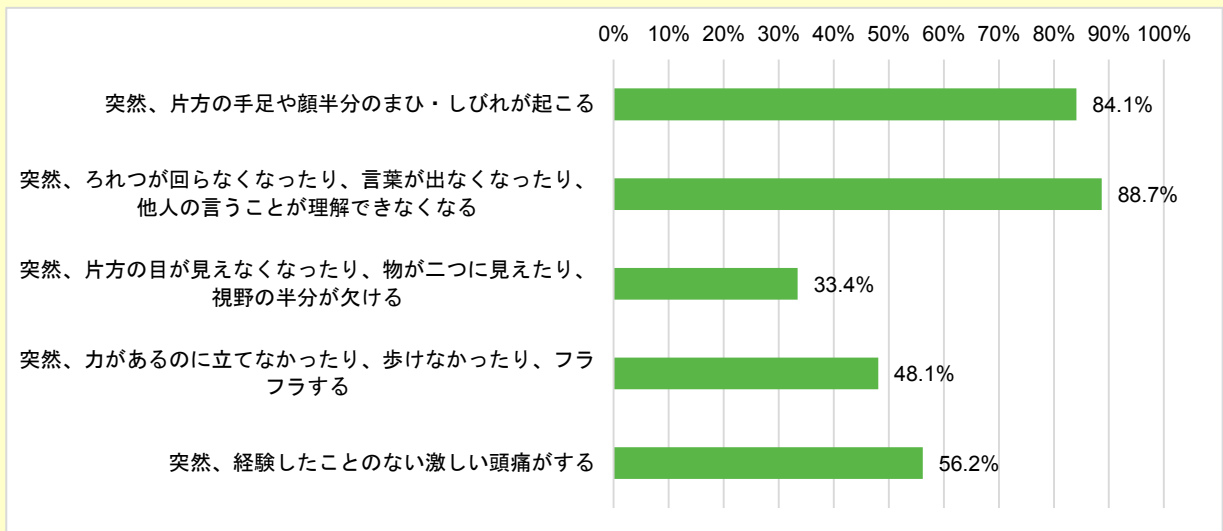


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 | -5-(22)

県全体の回答割合を 100 とし、脳卒中の初期症状を完了した者の割合が大きいほど色が濃い。

### 脳卒中の初期段階に起こる症状の正解の選択肢ごとの正答率（20 歳～64 歳）



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

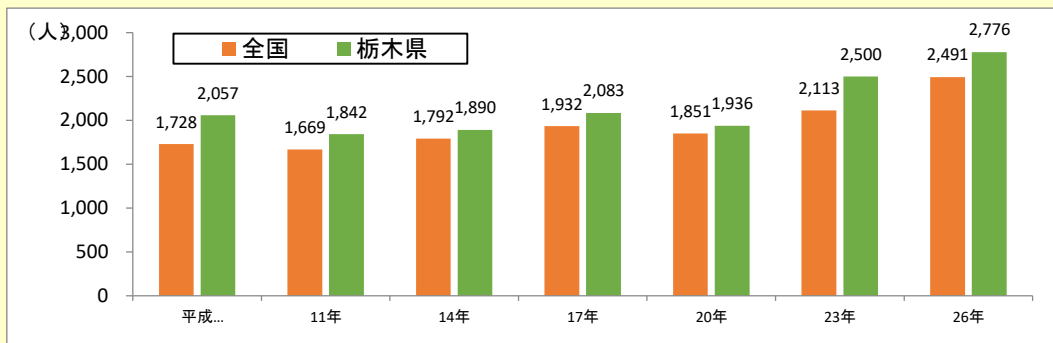
第 4 章 | -3-(34)

#### 4 糖尿病の状況

##### (1) 糖尿病患者数等の推移

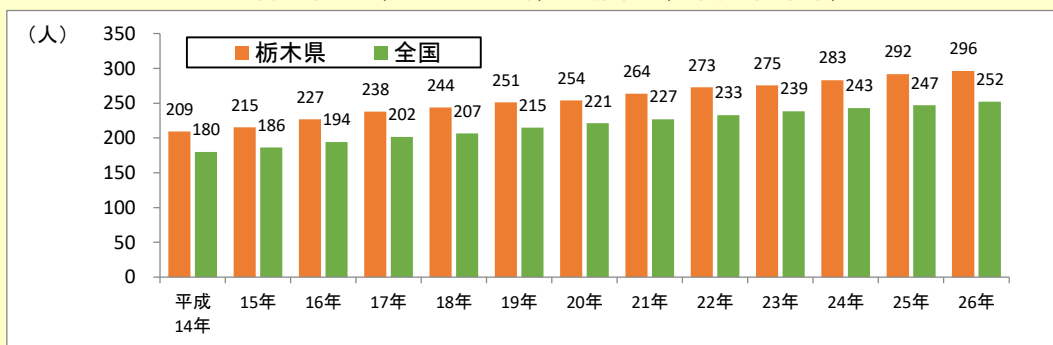
糖尿病患者数及び透析患者数、糖尿病性腎症を起因とした透析患者数は全国、栃木県ともに増加傾向にある。

糖尿病患者数（人口10万対）の推移（全国・栃木県）



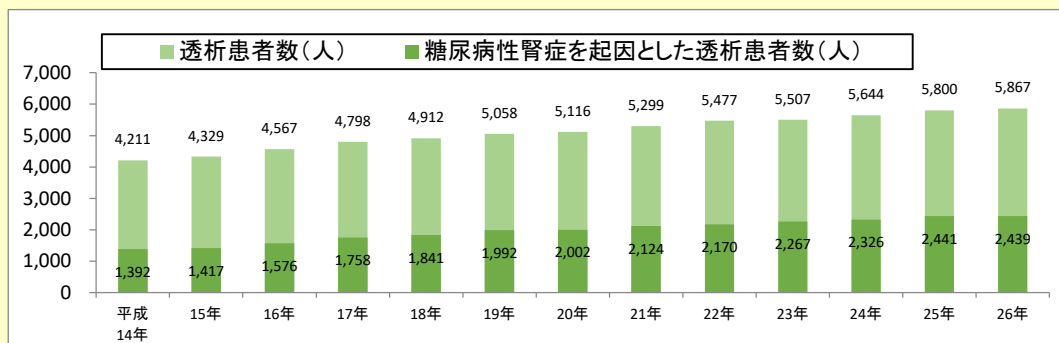
出典：厚生労働省「患者調査」から栃木県が作成  
第4章II-3-(46)

透析患者数（人口10万対）の推移（全国・栃木県）



出典：日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現状」栃木県臓器移植推進協会調べから栃木県が作成  
第4章II-3-(47)

糖尿病性腎症を起因とした透析患者数の推移（栃木県）



出典：栃木県臓器移植推進協会調べ  
第4章II-3-(48)

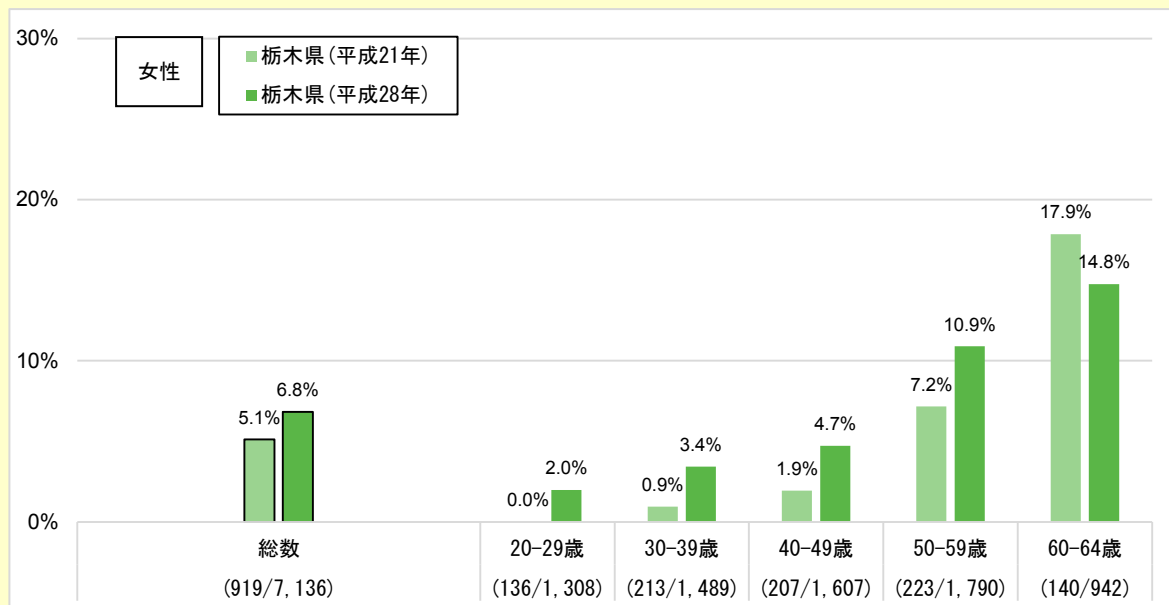
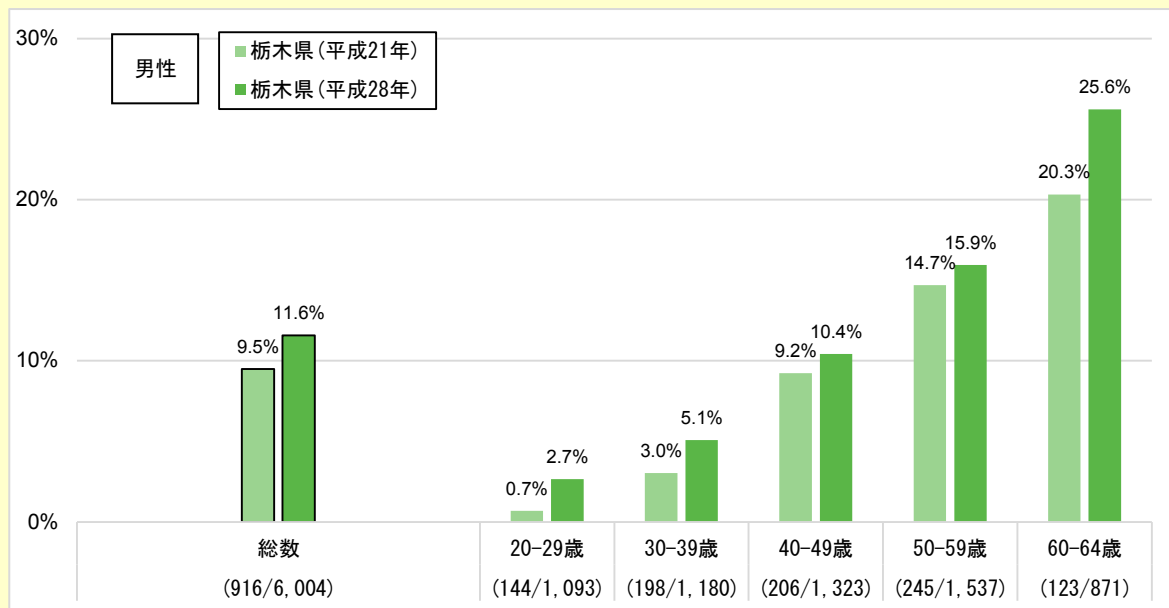


## (2) 医師から糖尿病と言われたことがある者の割合

医師から糖尿病と言われたことがある者（「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などのように言われた者も含む。）の割合は、男性 11.6%、女性 6.8%となり、平成 21 年度と比較すると 60 代女性を除くすべての性・年代別で増加がみられる。

### 医師から糖尿病と言われたことがある者の割合（20 歳～64 歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問 16 これまでに医師から糖尿病と言われたことがありますか。  
 （「境界型である」、「糖尿病の気がある」、「糖尿病になりかけている」、「血糖値が高い」などのように言われた方も含みます。）

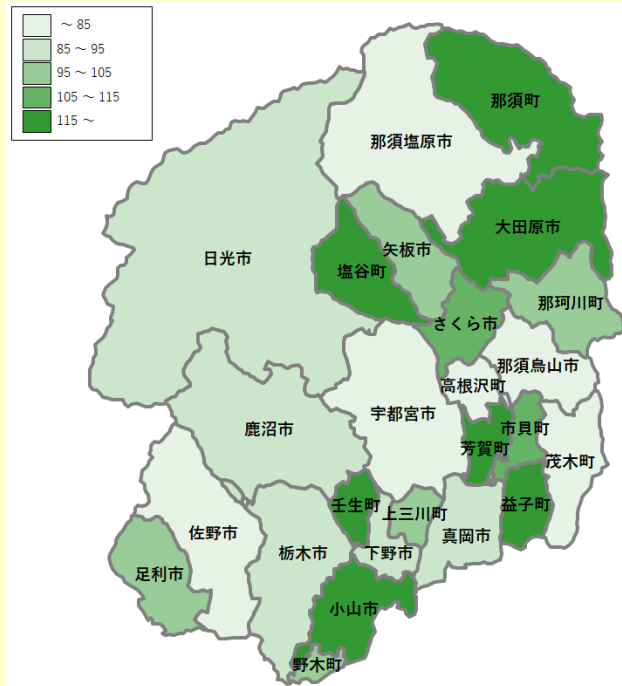


出典：栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-3-(31)・II-2-(23)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

## 医師から糖尿病と言われたことがある者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1 -5-(21)

県全体の回答割合を 100 とし、医師から糖尿病と言われたことがある者の割合が大きいほど色が濃い。



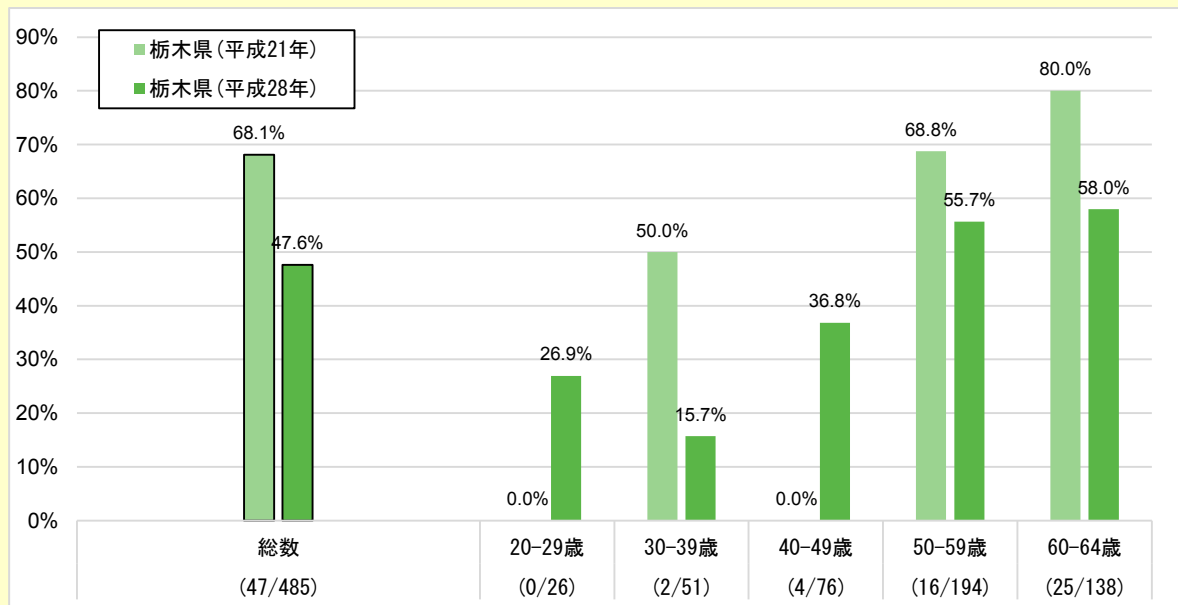
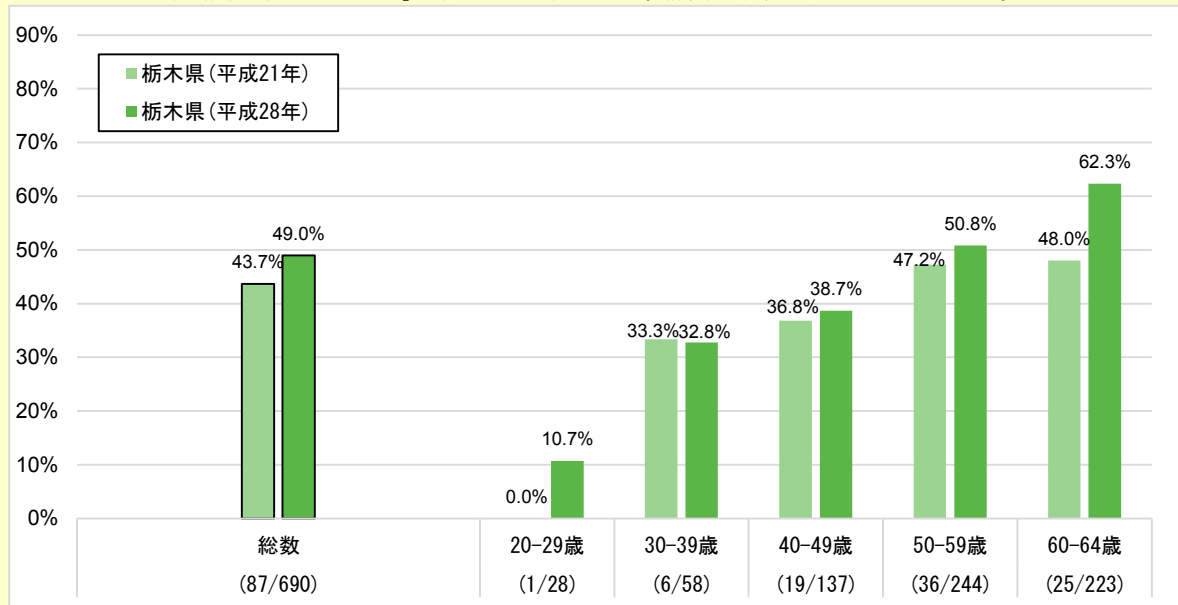
### (3) 糖尿病の治療の継続状況

糖尿病の治療を継続している者の割合は、男性 49.0%、女性 47.6%となり、平成 21 年度と比較すると、男性は増加しているが、女性は減少している。

ただし、平成 21 年度は、平成 28 年度の調査と比較し標本サイズが小さいため、統計値として比較することに留意が必要である。

医師から糖尿病と言われたことがある者のうち、糖尿病の治療を継続している者の割合  
(20 歳～64 歳、性別・年齢階級別)

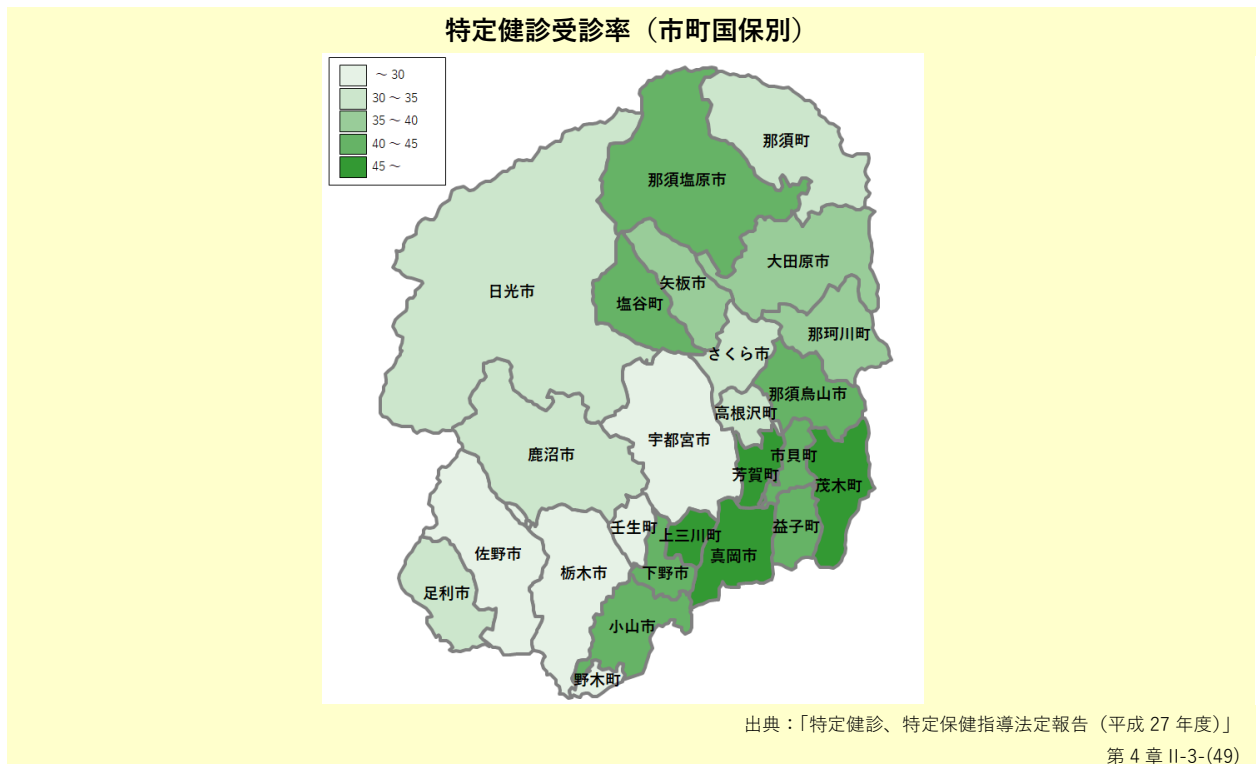
該当設問：問 16-1 「あり」と答えた方にお聞きします。糖尿病の治療を受けたことがありますか。



出典：栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 I -3-(32)・II-2-(24)  
各グラフの ( ) 内の数字は母数

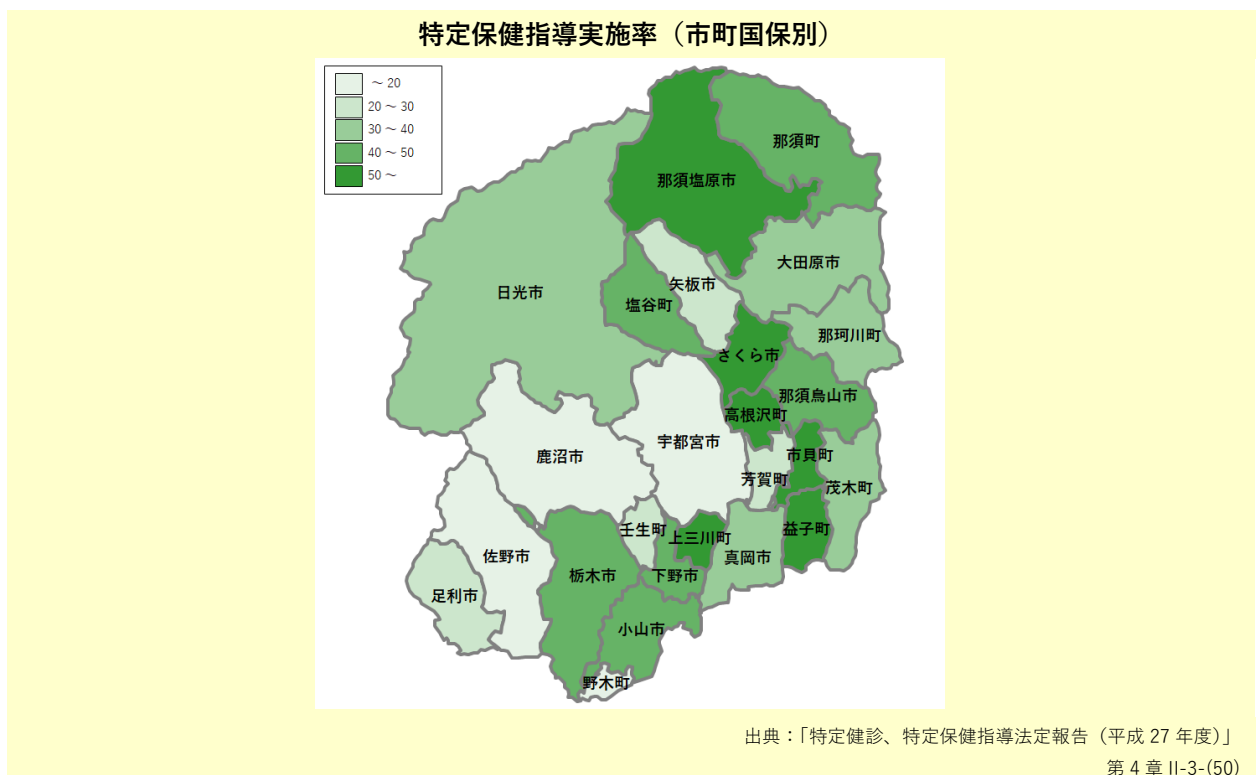
(4) 特定健診の受診率（市町別）

特定健診の受診率の市町別の割合は、以下の地図のとおり。



(5) 特定保健指導の実施率（市町別）

特定保健指導の実施率の市町別の割合は、以下の地図のとおり。



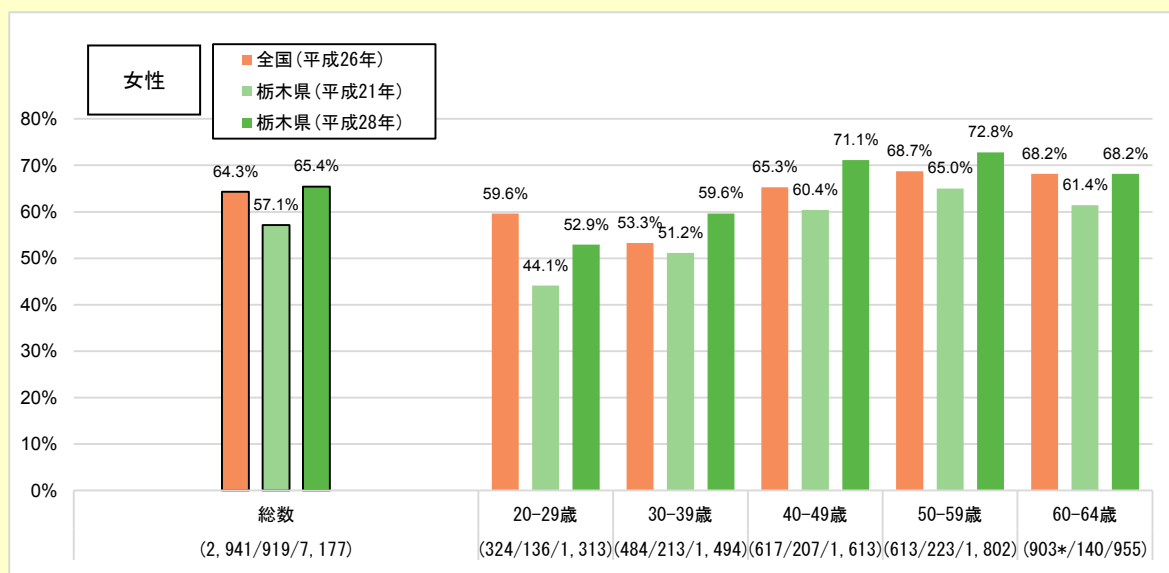
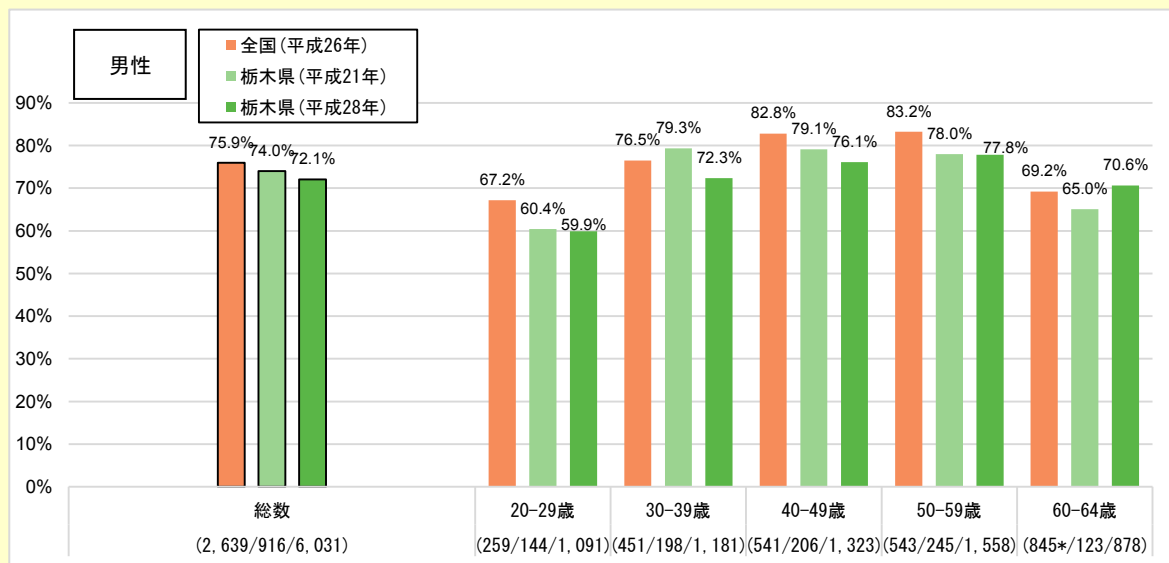
## 5 健診の受診状況

過去1年間に健診を受診した者は、男性72.1%、女性65.4%となっており、全国と比較すると、男性は全国平均より低く、女性は高いという結果となった。

また、平成21年度と比較すると男性は60代を除き受診率の低下がみられる一方、女性は全年代にわたって受診率が向上している。

### 過去1年間における健康診査や人間ドックの受診状況（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問2 過去1年間に、健康診断や人間ドックを受けましたことがありますか。



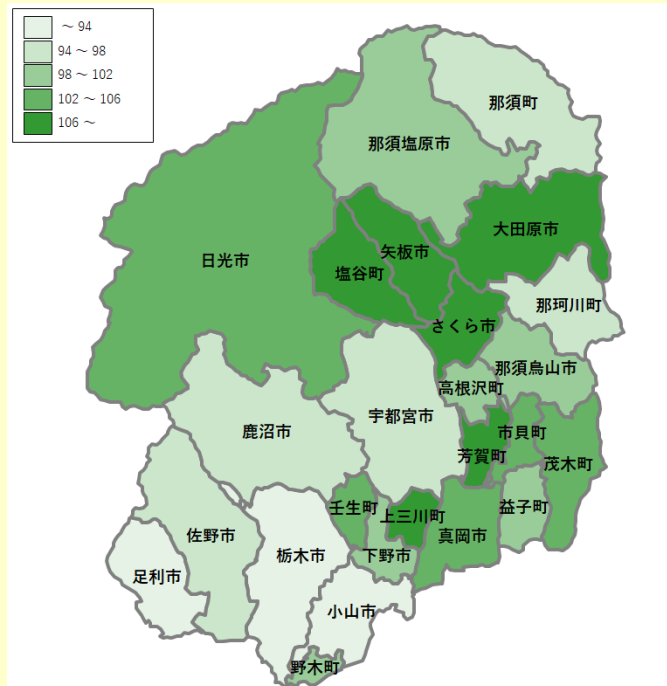
出典：厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

第4章 I-3-(3)・II-2-(2)・II-2-(3)

各グラフの()内の数字は母数

\*ただし、総計は平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。また、全国(H26)の集計対象に65歳から69歳の者が含まれる。

過去1年間における健康診査や人間ドックを受診した者の市町別割合



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 1-5-(2)

県全体の回答割合を100とし、過去1年間に健康診断や人間ドックを受診した者の割合が大きいほど色が濃い。



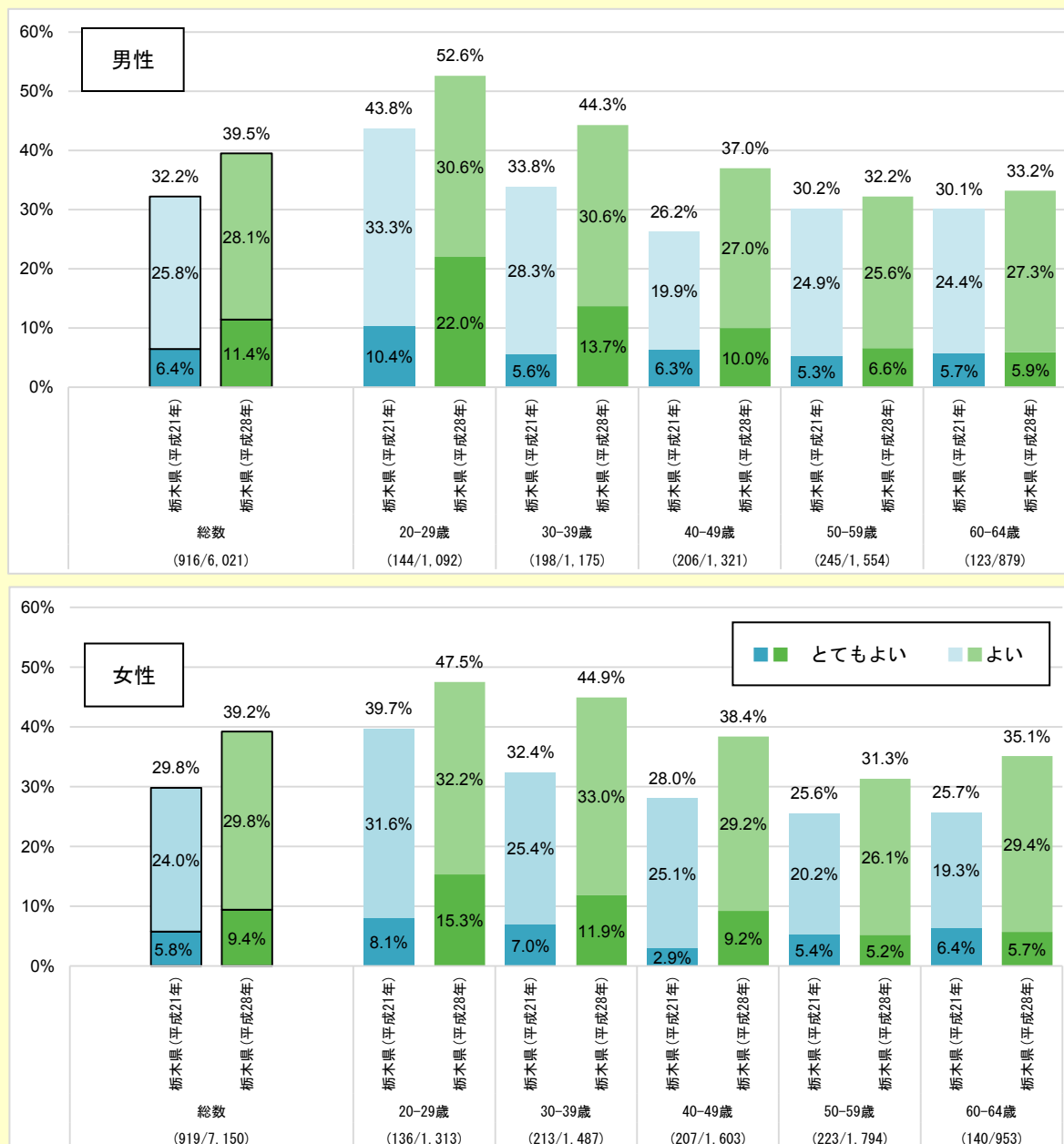
### 第3節 県民の健康状態認識（主観的健康感）

#### 1 主観的健康感（自分自身が健康であるという認識）の状況

現在の健康状態が「よい」又は「とてもよい」と回答した者は、男性 39.5%、女性 39.2%であり、平成21年度と比べて全年代にわたって増加する傾向がみられた。特に20代から40代で増加幅が大きい。

現在の健康状態を「とてもよい」「よい」と回答した者の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問1 現在の健康状態はいかがですか。

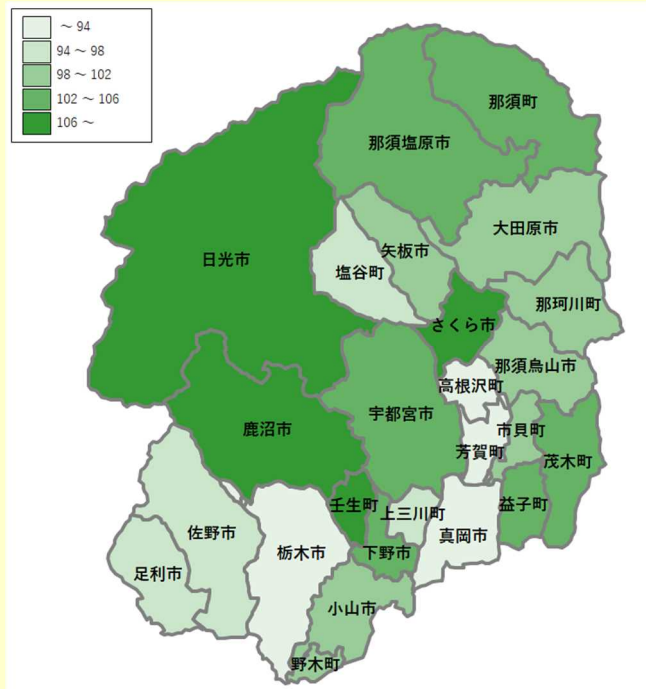


出典：栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

第4章 I-3-(1)・II-2-(1)

各グラフの（）内の数字は母数  
\*ただし、栃木県（平成21年）の総数は平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った

現在の健康状態を「とてもよい」「よい」と回答した者の市町別割合



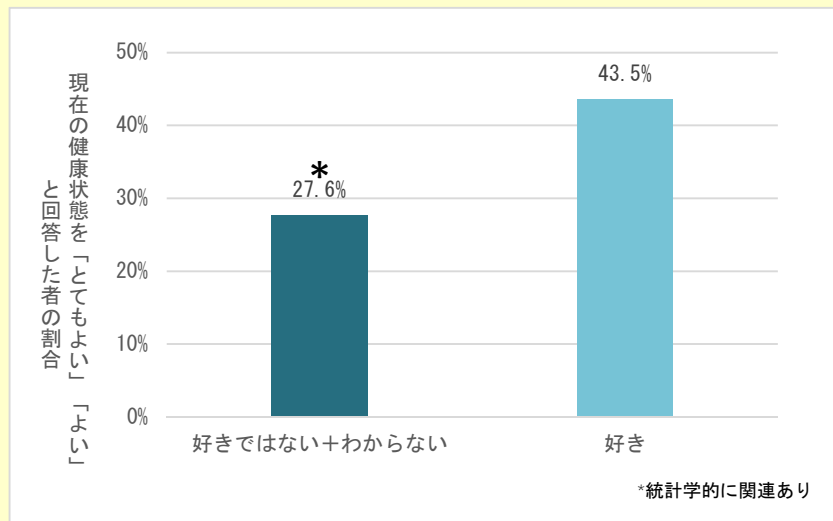
出典：栃木県「生活習慣アンケート」  
第4章 I-5-(1)

県全体の回答割合を100とし、現在の健康状態を「とてもよい」「よい」と回答した者の割合が大きいほど色が濃い。

2 住んでいる地域が好きな人は、主観的健康感が高い

生活習慣アンケート調査では、回答者が住んでいる地域を「好き」と答えた者と、自分自身が健康であるという認識に統計的に有意な関係がみられた。

住んでいる地域を「好き」と回答した人のうち、  
現在の健康状態を「とてもよい」「よい」と回答した者の割合（20歳～64歳）



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

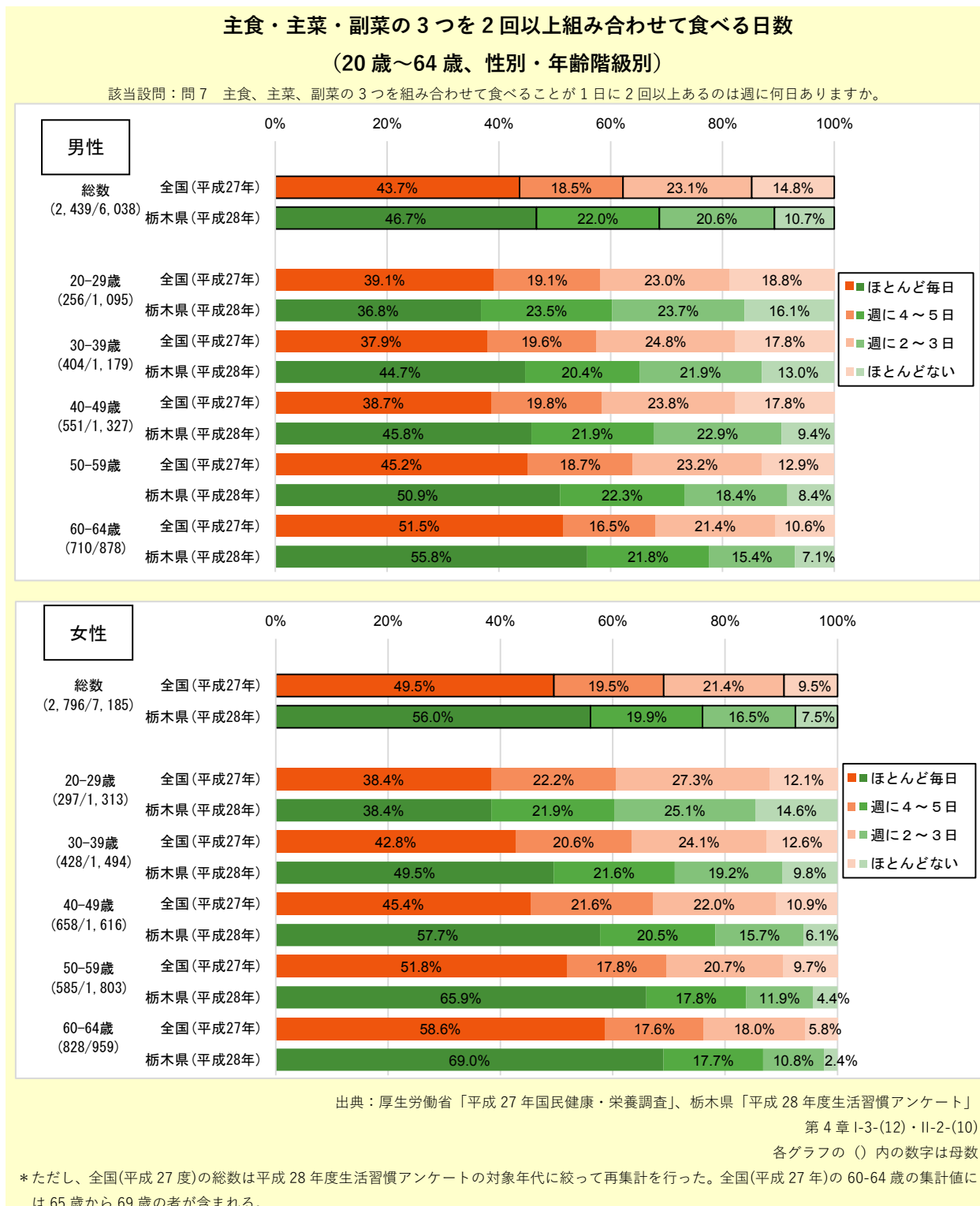
第4章 I-4-(1)



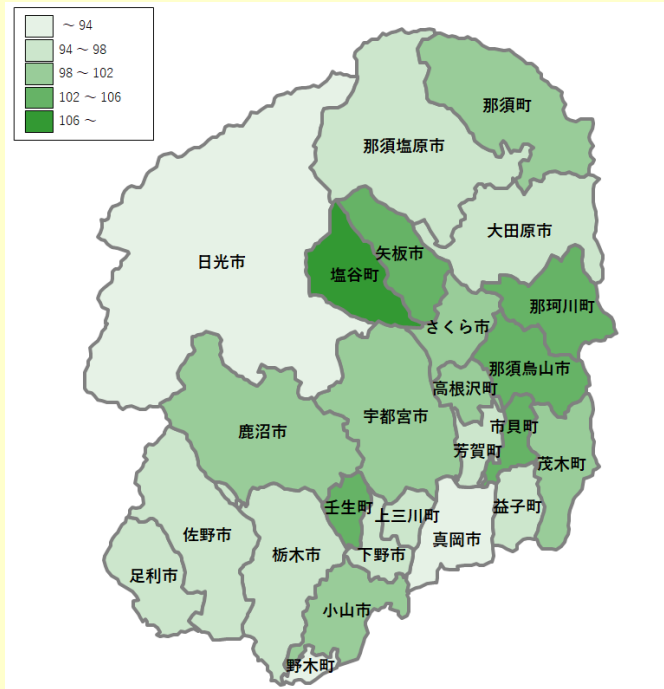
## 第4節 栄養・食生活

### 1 食生活のバランスに関する状況

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上食べることが、「ほとんど毎日」の割合は、男性46.7%、女性56.0%であり、全国と比較すると、20代男性を除き、全国平均以上の値となっている。年代別にみると、男女ともに年代が上がるにしたがって割合も増加する傾向にある。



ほとんど毎日、主食、主菜、副菜の3つを組み合わせて食べる者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 I-5-(7)

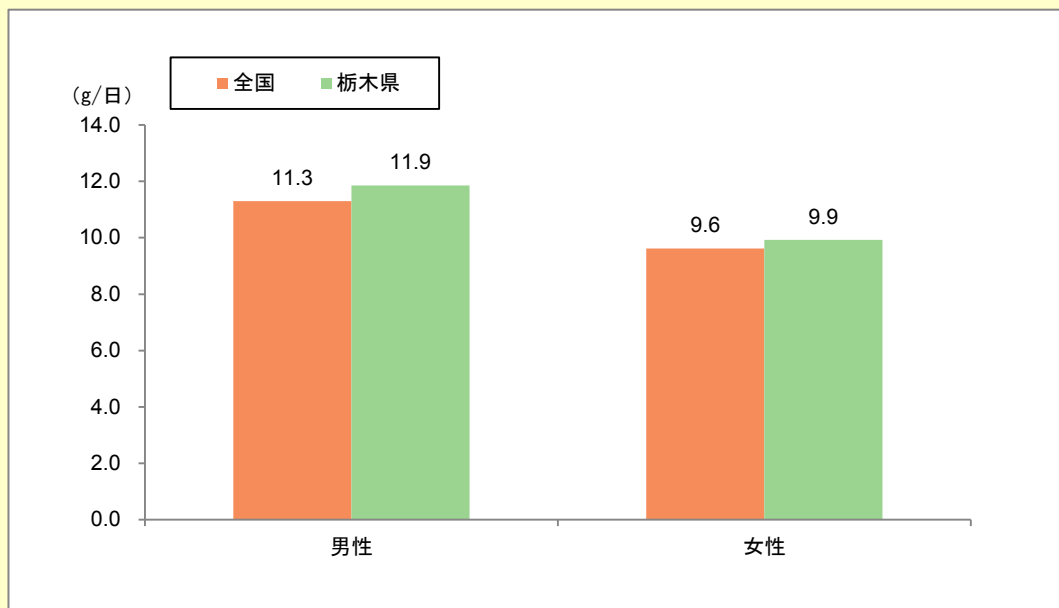
県全体の回答割合を 100 とし、ほとんど毎日、主食、主菜、副菜の 3 つを組み合わせて食べる者の割合が大きいほど色が濃い。



## 2 1日の平均食塩摂取量

栃木県の食塩摂取量の平均値は、男女ともに全国と比較してわずかに多いが、ほぼ同水準である。

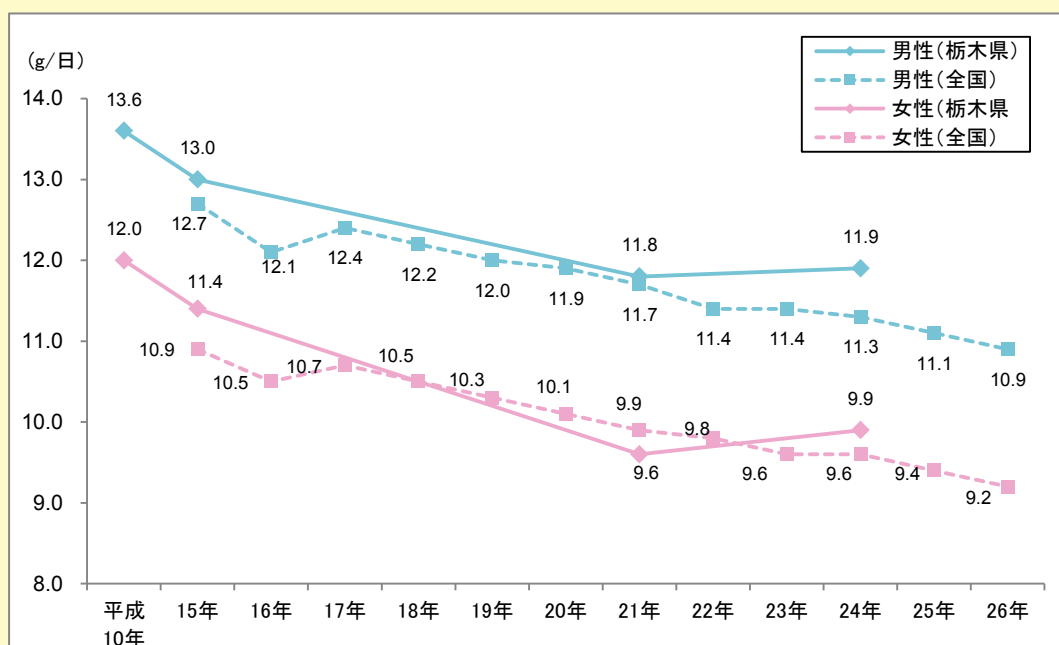
### 1日当たりの食塩摂取量の平均値（全国・栃木県）



出典：厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」

第4章 II-3-(51)

### 1日当たりの食塩摂取量の平均値の推移（全国・栃木県）

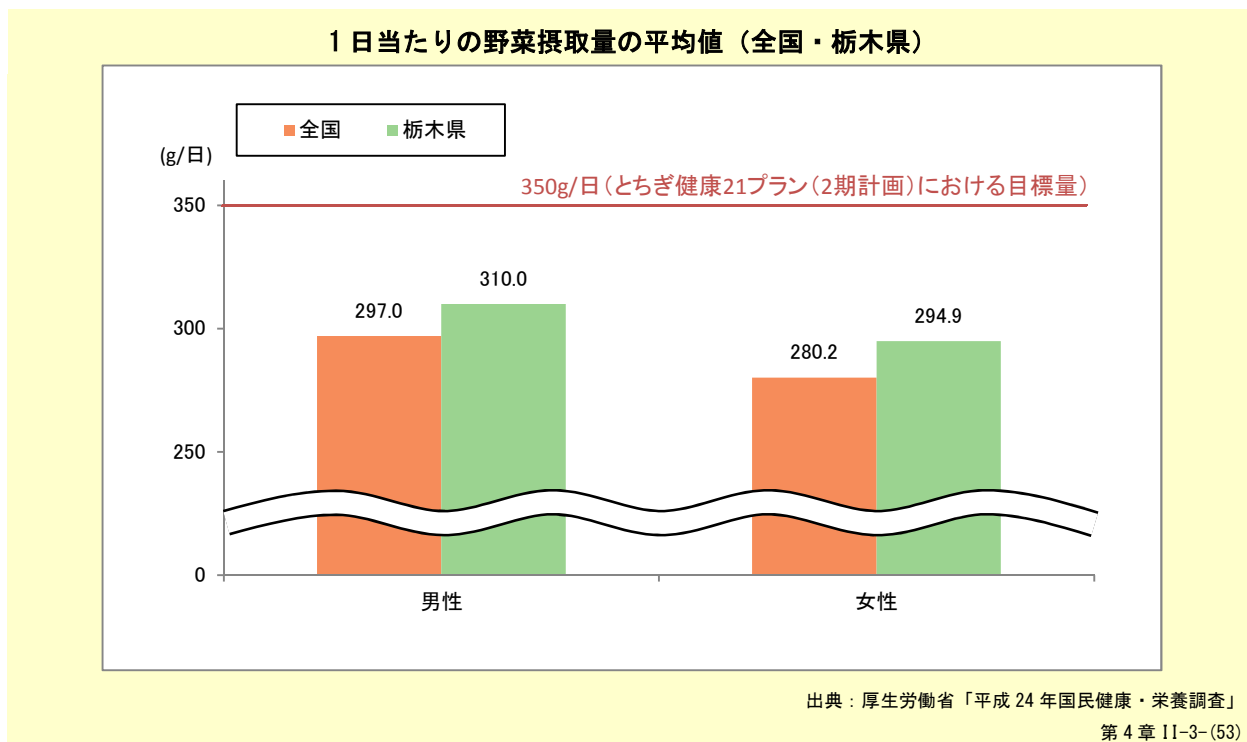


出典：厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」（平成15年～26年全国）、厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」（平成24年栃木県）、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」（平成10年～21年栃木県）

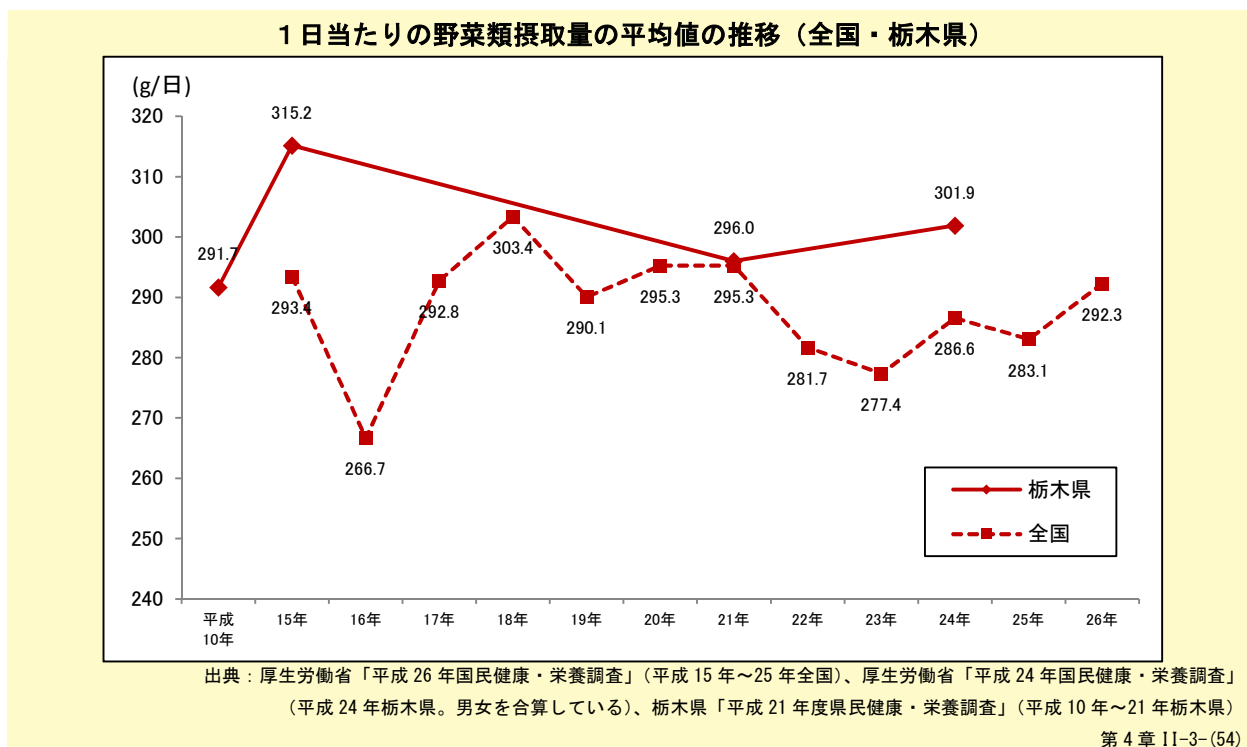
第4章 II-3-(52)

### 3 1日の平均野菜摂取量

栃木県の野菜摂取量の平均値は、男女ともに全国と比較して多いが、目標とする 350g/日には達していない。



全国の 1 日当たりの野菜類摂取量の平均値は、近年は横ばいである。



## 第5節 体格（肥満とやせ）

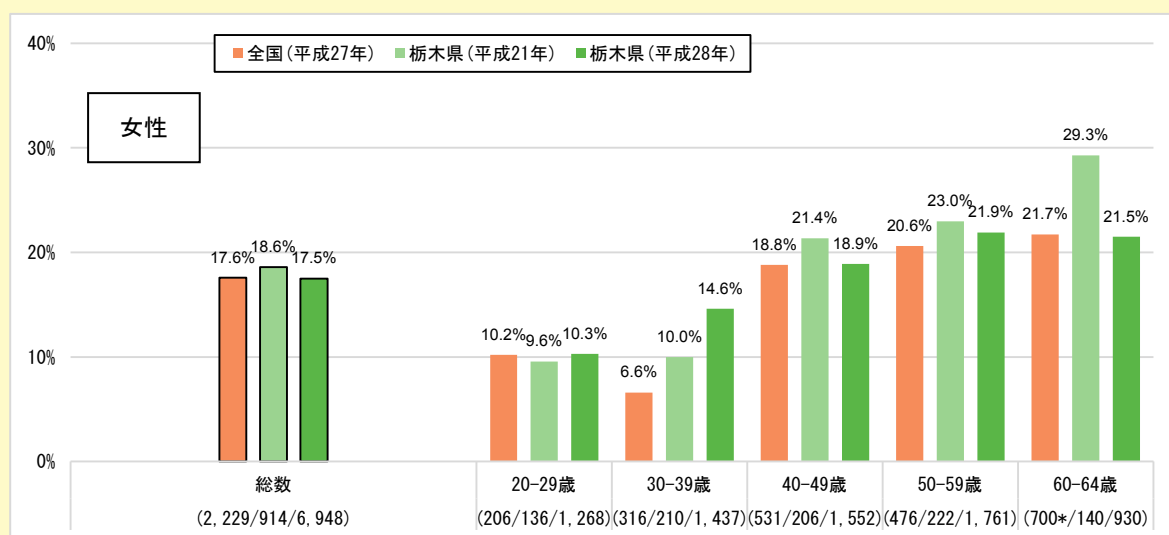
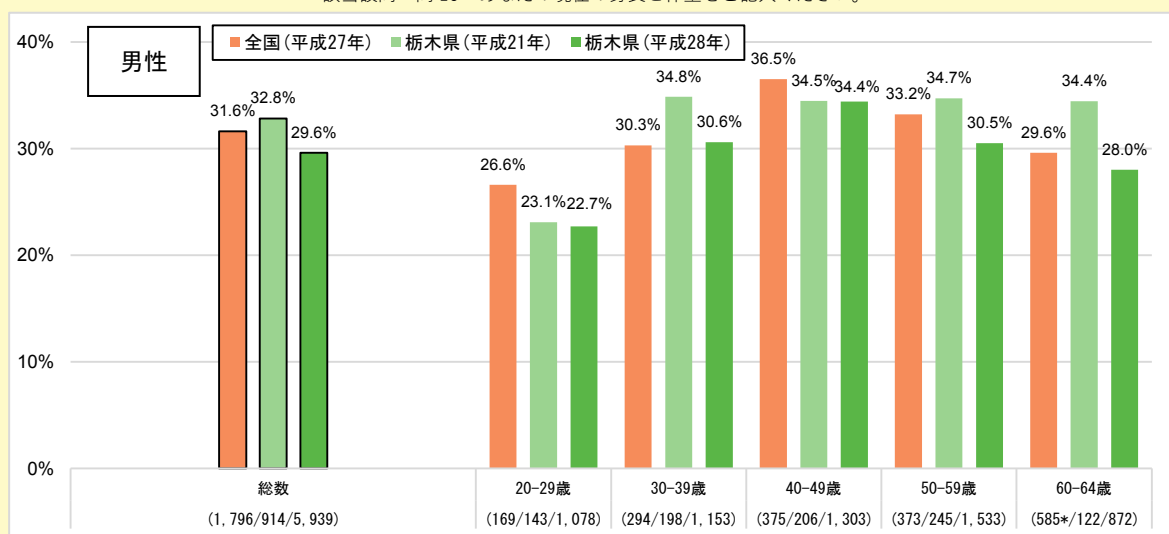
### 1 肥満の状況

肥満と判定される者(BMIが25以上の者)の割合は、男性29.6%、女性は17.5%という結果となり、平成21年度から男女とも低下している。また、全国との比較では、男性は低く、女性においてはほぼ同水準となっている。

ただし、今回のアンケートは身長・体重の値は自己申告となっているが、平成21年度の調査は身体測定結果、全国の調査は身体測定の結果若しくは自己申告と収集条件が異なっていることに留意が必要である。

肥満者（BMIが25以上の者）の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問19 あなたの現在の身長と体重をご記入ください。

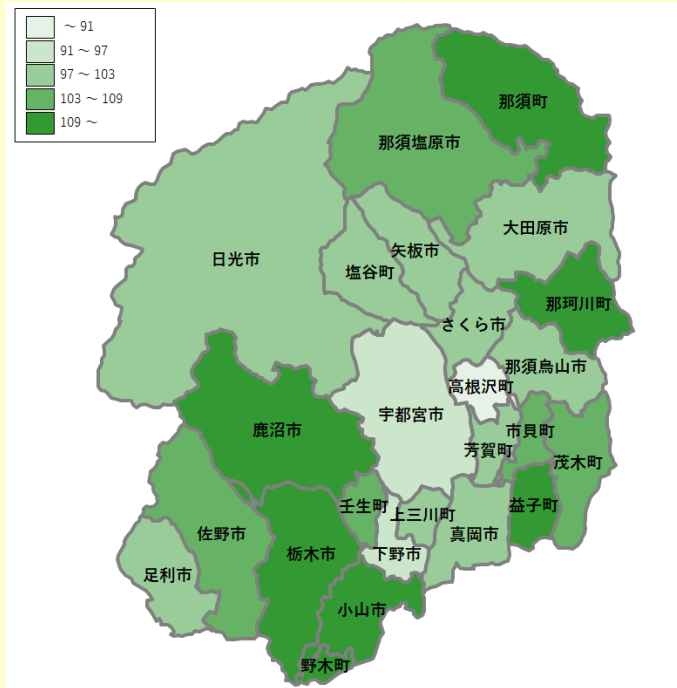


出典：厚生労働省「平成27年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 1-3-(40)・II-2-(25)・II-2-(26)  
各グラフの( )内の数字は母数

BMI = (体重[kg]) ÷ (身長[m])<sup>2</sup>

\* ただし、全国(平成27年)と栃木県(平成21年)の総数は、平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国(平成27年)の60-64歳の集計値には65歳から69歳の者が含まれる。

### 肥満者(BMIが25以上の者)の市町別割合

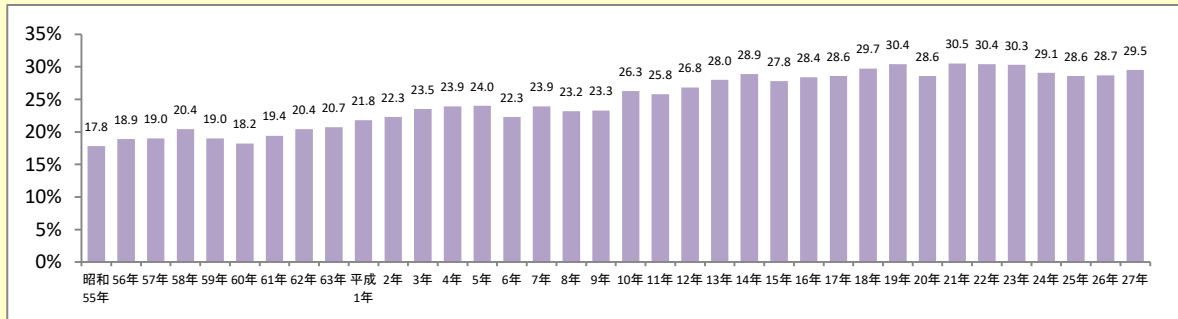


出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章1-5-(24)

県全体の回答割合を100とし、肥満者(BMIが25以上の者)の割合が大きいほど色が濃い。

全国の男性の肥満者割合は、増加傾向にあったが、近年は横ばいである。

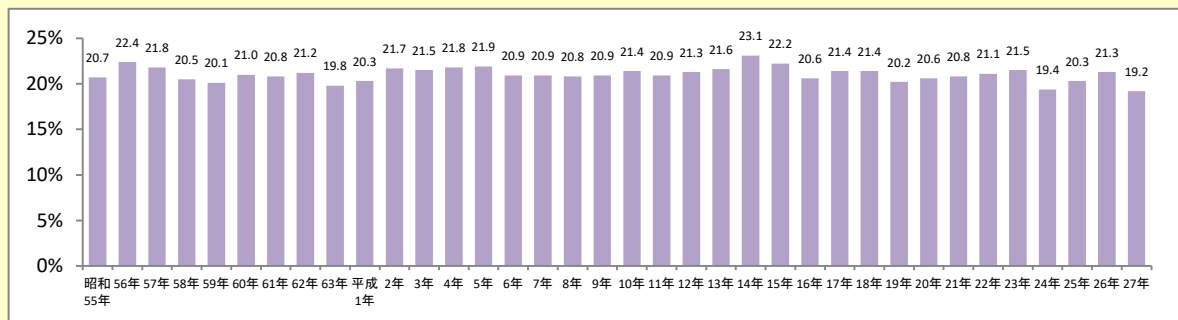
### 肥満者(BMIが25以上の者)割合の推移(男性、全国)



出典：厚生労働省「平成27年国民健康・栄養調査」  
第4章II-3-(55)

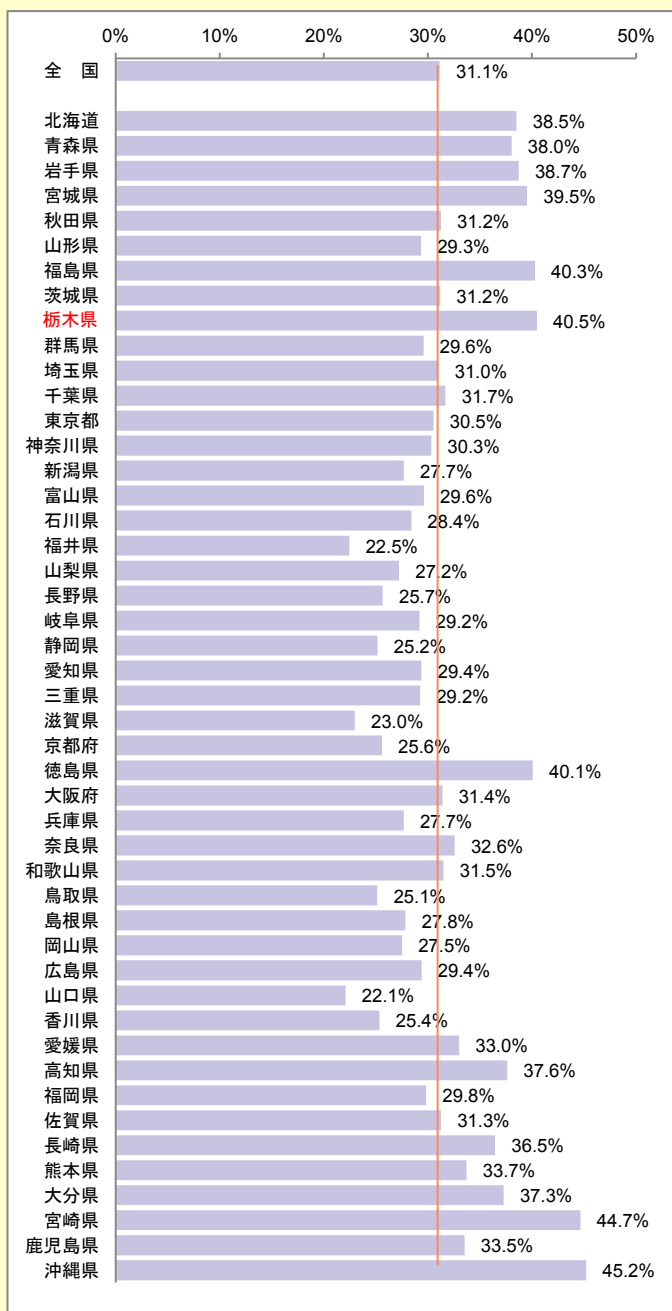
全国の女性の肥満者割合は、増減があるものの横ばいである。

### 肥満者(BMIが25以上の者)割合の推移(女性、全国)



出典：厚生労働省「平成27年国民健康・栄養調査」  
第4章II-3-(56)

肥満者の割合（平成 18～22 年、20～69 歳（年齢調整）、男性、都道府県別）



出典：厚生労働省「平成 22 年国民健康・栄養調査」

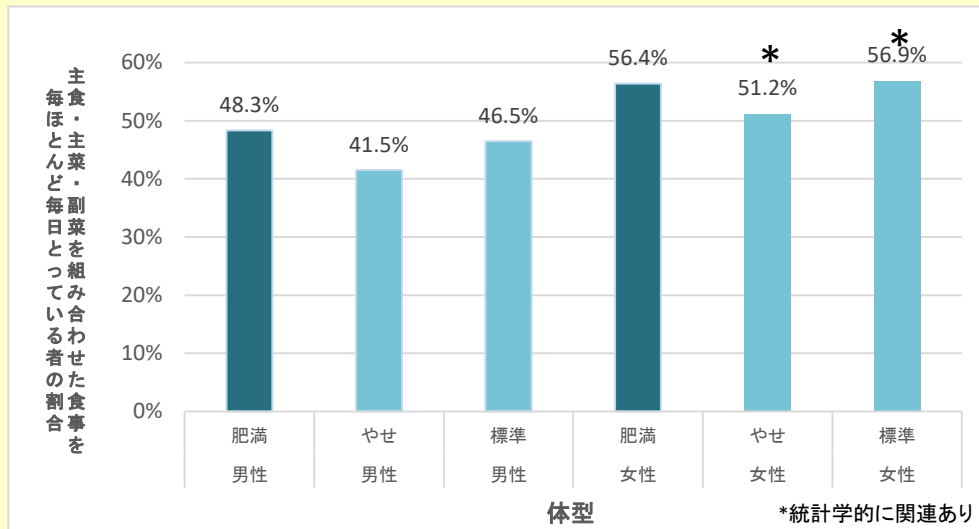
第 4 章 II-3-(57)

※女性の都道府県別データについては、該当者の割合が少なく、変動係数が大きいため出典の調査時にデータが除かれている。

## 2 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の有無と体型（肥満、やせ、標準）のクロス集計結果

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の有無と体型（肥満、やせ、標準）のクロス集計では、女性において、やせの者、標準の者は主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日とっている者の割合が低かった。男性では関連がなかった。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日とっていることと BMI による体型の関連

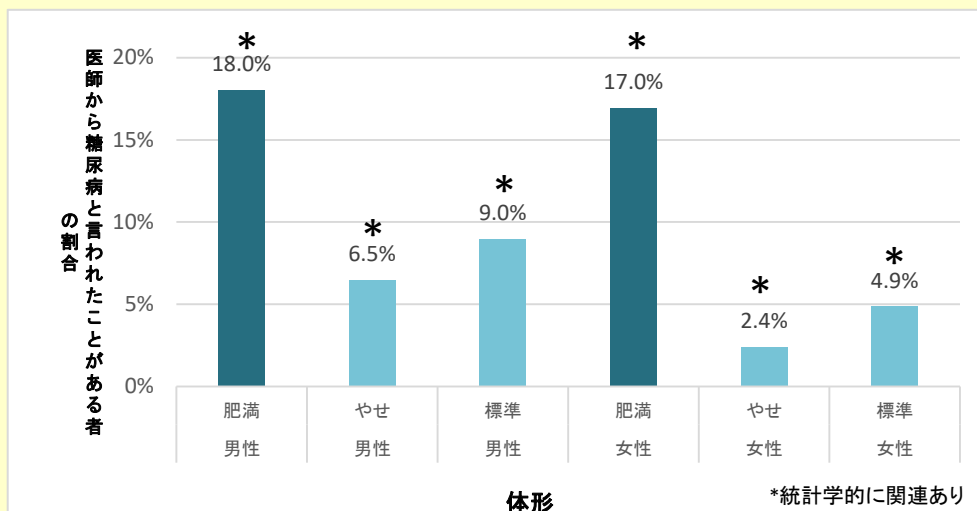


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 I-4-(2)

## 3 体型（肥満、やせ、標準）と医師から糖尿病と言われたことがある者のクロス集計結果

体型別に、医師から糖尿病と言われた者の割合を集計した結果、男女とも、BMI が 25 以上の者（肥満である者）は、それ以外の者（やせ、標準体型の者）よりも、糖尿病である割合が統計的に有意に高い結果となった。

BMI による体型と医師から糖尿病と言われたことがある者の関連



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 I-4-(3)

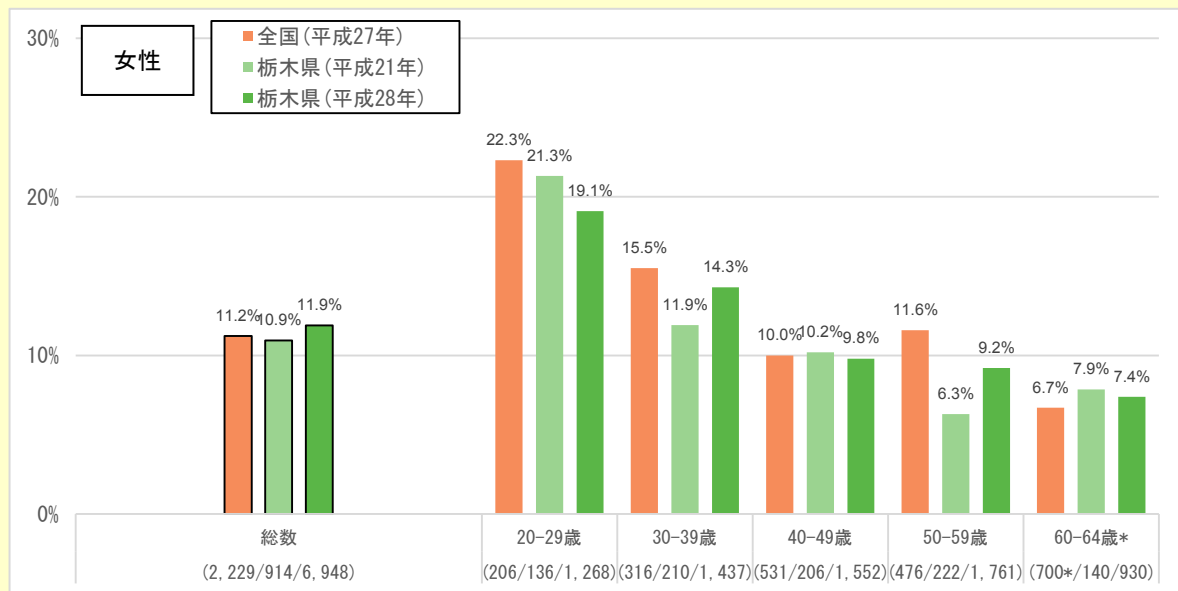
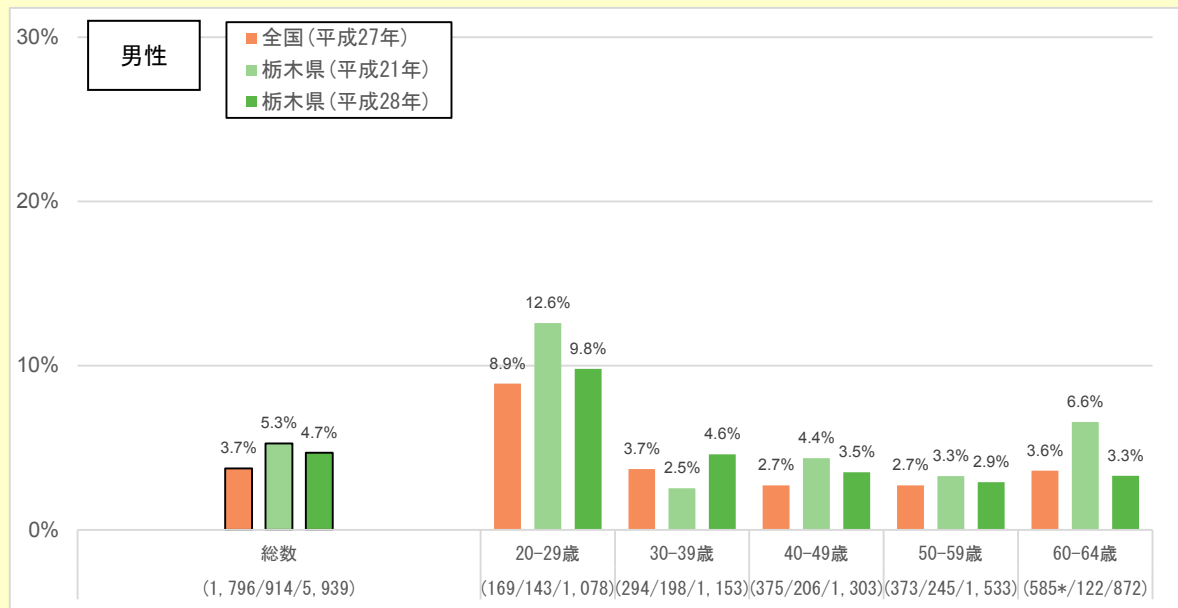


#### 4 やせの状況

やせ（BMI が 18.5 未満の者）と判定される者の割合は、男性 4.7%、女性 11.9%となっており、平成 21 年度と比較すると、男性は若干の低下、女性は若干の上昇がみられるが全国と比べて低い傾向がみられる。

#### やせの者(BMI が 18.5 未満の者)の割合（20 歳～64 歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問 19 あなたの現在の身長と体重をご記入ください。



出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

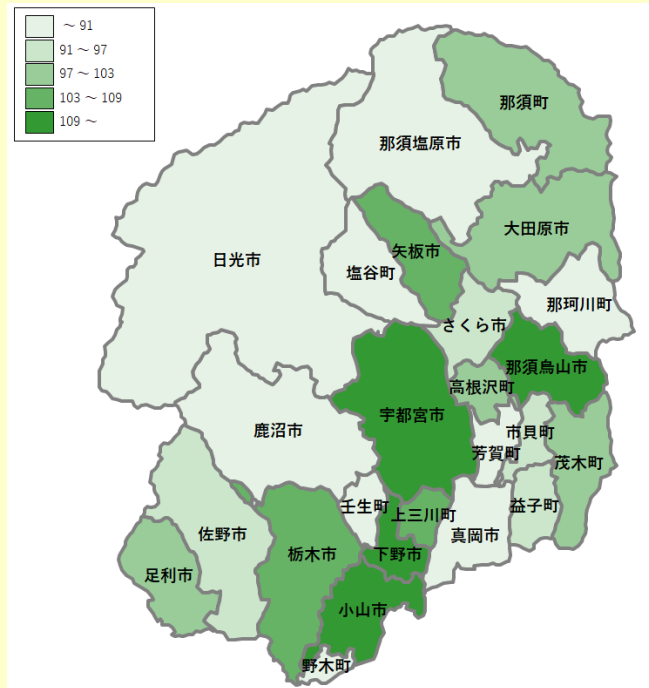
第 4 章 I-3-(40)・II-2-(25)・II-2-(26)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

BMI = (体重[kg]) ÷ (身長[m])<sup>2</sup>

\* ただし、全国 (平成 27 年) と栃木県 (平成 21 年) の総数は、平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国(平成 27 年)の 60-64 歳の集計値には 65 歳から 69 歳の者が含まれる。

### やせの者(BMI が 18.5 未満の者)の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(24)

県全体の回答割合を 100 とし、やせの者(BMI が 18.5 未満の者)の割合が大きいかほど色が濃い。



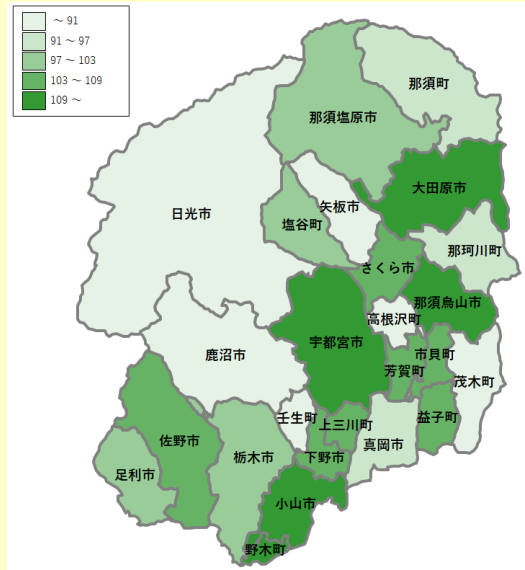
## 第6節 運動と休養

### 1 運動習慣の状況

運動習慣のある者（医師等から運動を禁止されていない者のうち、週に2回以上30分以上の運動を1年以上している者）の割合は、男性20.6%、女性14.6%である。全国と比較すると、20代の男女は全国平均よりも高くなっているが、そのほかの年代は全国平均を下回っている。



## 運動習慣がある者の市町別割合



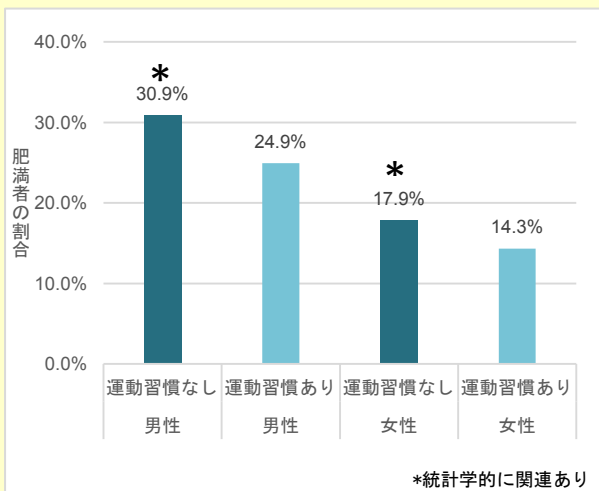
出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(11)

県全体の回答割合を 100 とし、運動習慣がある者の割合が大きいほど色が濃い。

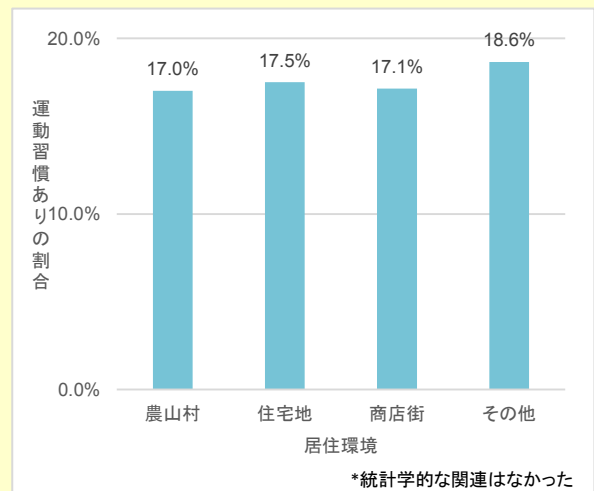
## 2 運動習慣と肥満者の割合及び居住環境と運動習慣のクロス集計

運動習慣と肥満者の割合のクロス集計では、男女ともに、運動習慣のないものは運動習慣のあるものと比べ、肥満者の割合が統計的に有意に高かった。また、居住環境と運動習慣の有無の間には統計的に意味のある関連は見られなかった。

### 運動習慣と肥満者との関連



### 居住環境と運動習慣との関連

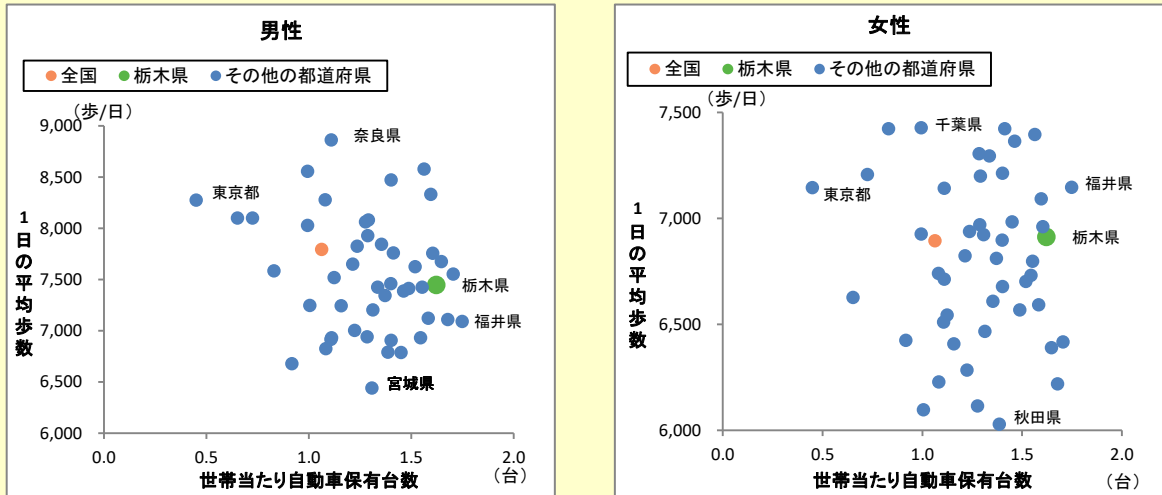


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-4-(4)・1-4-(5)

### 3 世帯当たりの自動車保有台数と1日平均歩数・平均BMIの相関分析

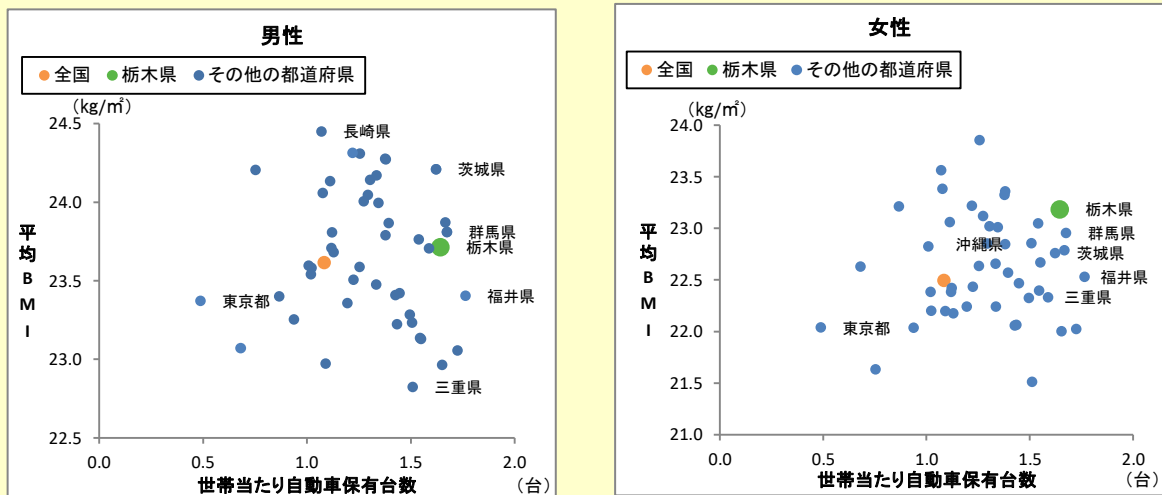
世帯当たりの自動車保有台数と1日平均歩数及び平均BMIの関連を以下に示した。結果、世帯当たりの自動車保有台数と1日の平均歩数、平均BMIの間に有意な関連はみられなかった。

1 世帯当たりの自動車保有台数と1日当たりの歩数の平均値（性別、都道府県別）



出典：総務省統計局「平成27年国勢調査」（世帯数）、  
 一般財団法人 自動車検査登録情報協会「平成27年都道府県別・車種別自動車保有台数（軽自動車含む）」（自動車保有台数(乗用車)）、  
 厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」（1日の平均歩数）  
 第4章II-3-(58)

1 世帯当たりの自動車保有台数とBMIの平均値（性別、都道府県別）



出典：総務省統計局「平成27年国勢調査」（世帯数）、  
 一般財団法人 自動車検査登録情報協会「平成27年都道府県別・車種別自動車保有台数（軽自動車含む）」（自動車保有台数(乗用車)）、  
 厚生労働省「平成24年国民健康・栄養調査」（BMIの平均値）  
 第4章II-3-(58)

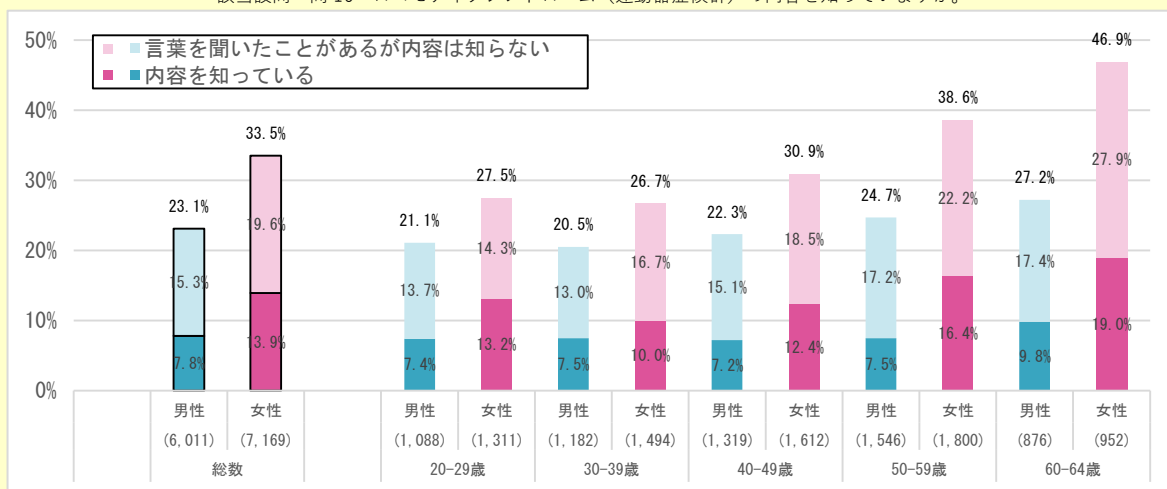
#### 4 ロコモティブシンドローム（和名：運動器症候群）認知度の状況

ロコモティブシンドロームについて「内容を知っている」若しくは「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した者の割合は、男性においては23.1%、女性28.7%であり、男性よりも女性の認知度が高い傾向になっている。

※ロコモティブシンドロームとは運動器（骨、関節、筋肉など）の障害のために移動機能の低下をきたした状態のこと。とちぎ健康21プラン（2期計画）における目標値ではロコモティブシンドロームの認知度を80%としている。

#### ロコモティブシンドロームの「内容を知っている」、「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した者の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

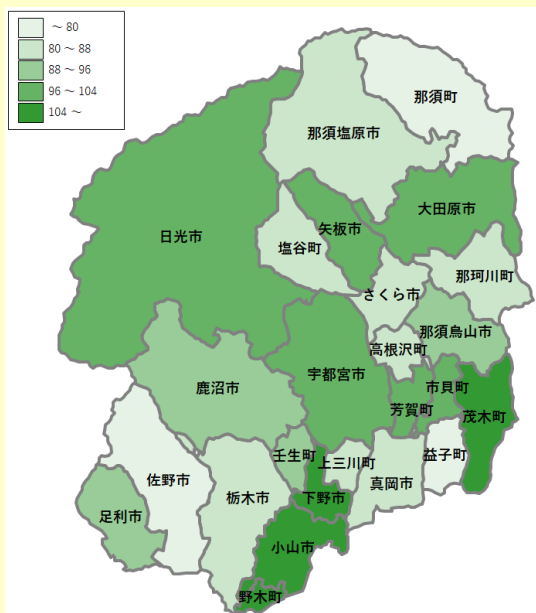
該当設問：問10 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の内容を知っていますか。



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章1-3-(20)

各グラフの（）内の数字は母数

#### ロコモティブシンドロームの内容を知っている者の市町別割合



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章1-5-(13)

県全体の回答割合を100とし、ロコモティブシンドロームの内容を知っている、言葉を聞いたことがあると回答した者の割合が大きいほど色が濃い。

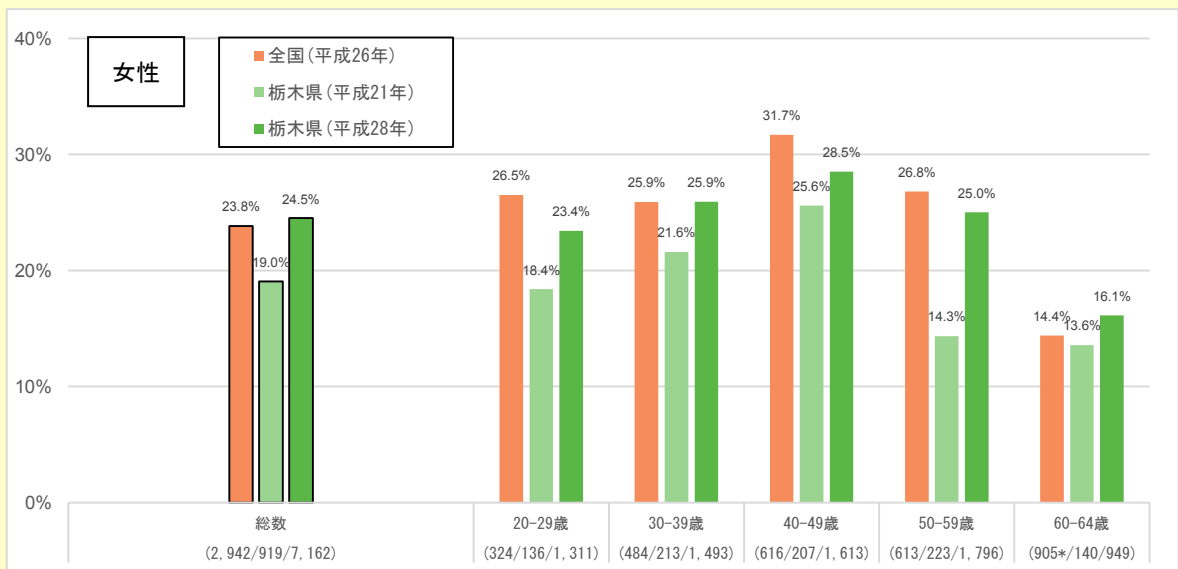
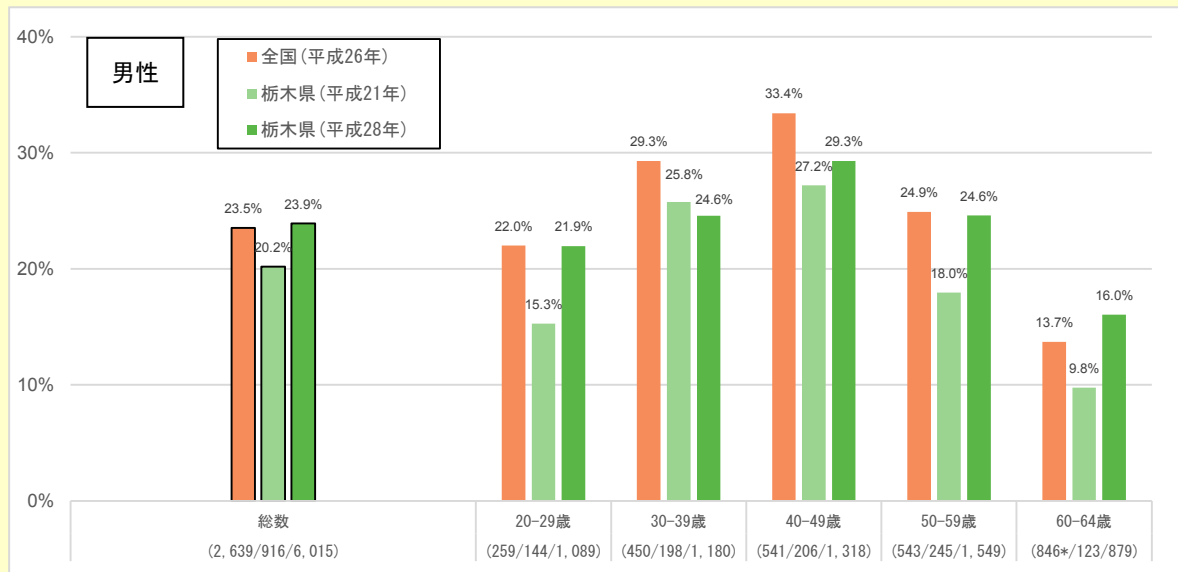
## 5 睡眠の状況

この1か月間、睡眠で休養が充分にとれていない者の割合は男性が23.9%、女性が24.5%であり、平成21年度と比較して高い値となっている。

一方、全国との比較では多くの年代で全国平均よりも低い値となっているが、60代のみ男女とも全国平均よりも高い値となり、その結果、総計では全国平均を上回る値となっている。ただし、この比較対象の国の調査は集計対象が10歳ごととなっており、60代の比較対象に今回調査には含まれない65歳から69歳の者が含まれているため、単純な比較が難しい。

### 睡眠による休養についての質問に「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

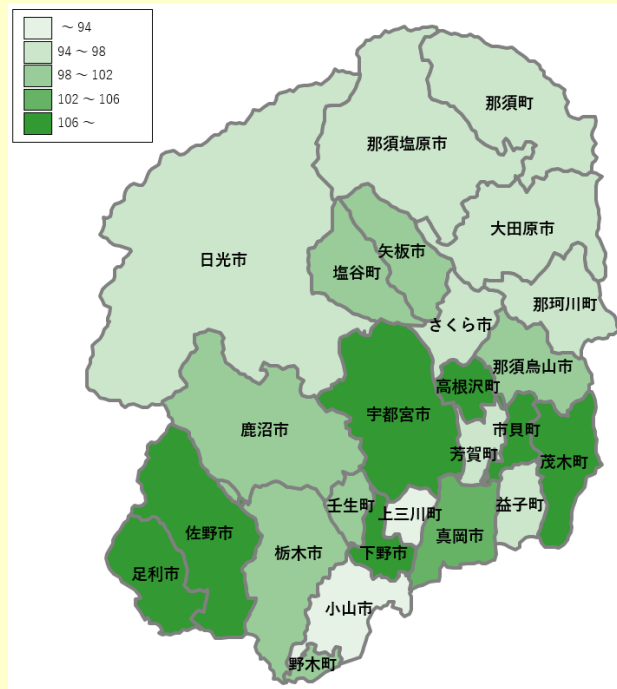
該当設問：問9 ここ1か月間、睡眠で休養が充分とれていますか。



出典：厚生労働省「平成26年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 I-3-(19)・II-2-(12)・II-2-(13)

各グラフの( )内の数字は母数  
\*ただし、全国(平成26年)と栃木県(平成21年)の総数は、平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国(平成26年)の60-64歳の集計値には65歳から69歳の者が含まれる。

睡眠で休養が充分とれているかの質問に  
「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(12)

県全体の回答割合を 100 とし、睡眠が十分とれていない者の割合が大きいほど色が濃い。

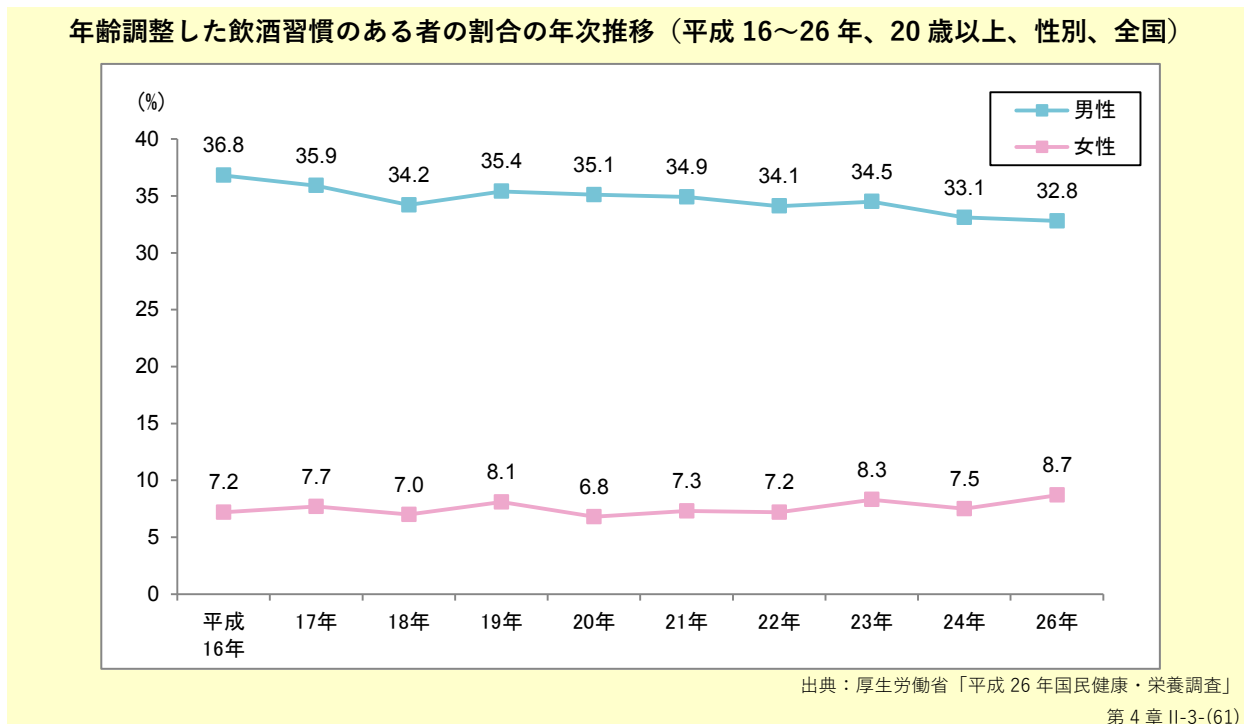
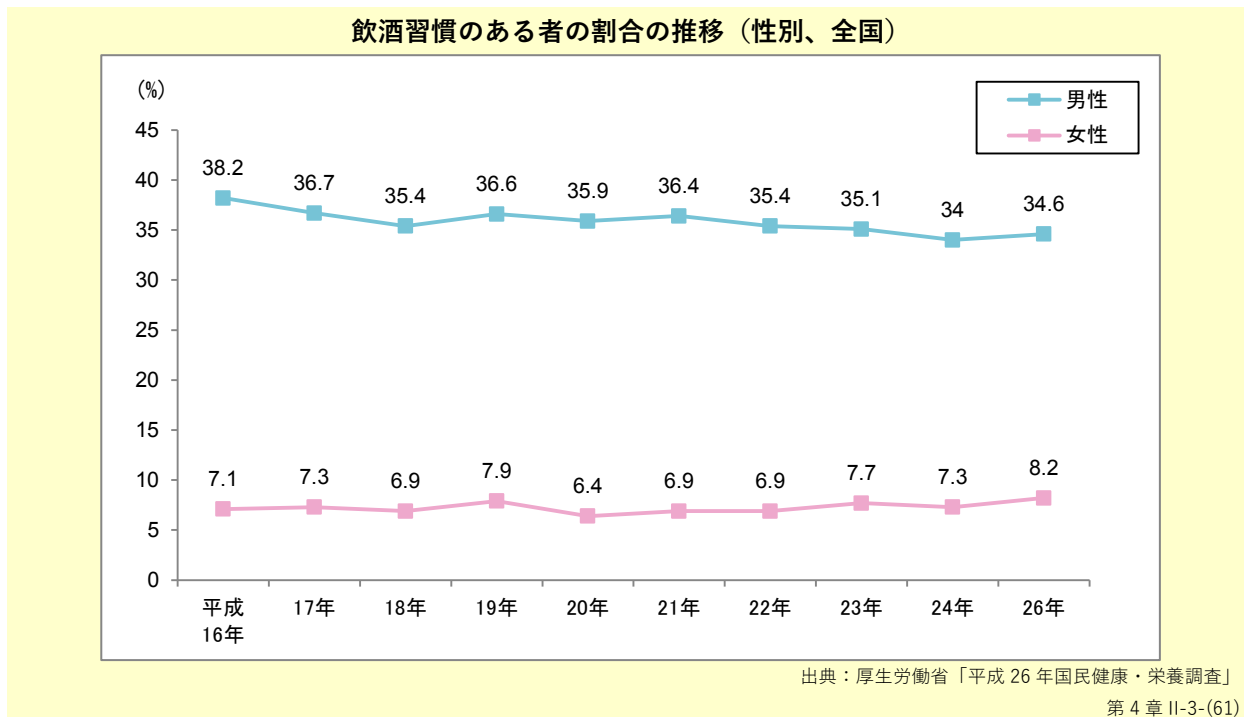




## 第7節 飲酒

### 1 飲酒習慣がある者の割合

飲酒習慣がある者の割合は全国では男性は減少傾向にあるが、女性は横ばいである。



## 2 生活習慣病のリスクを高める飲酒（リスク飲酒）の状況

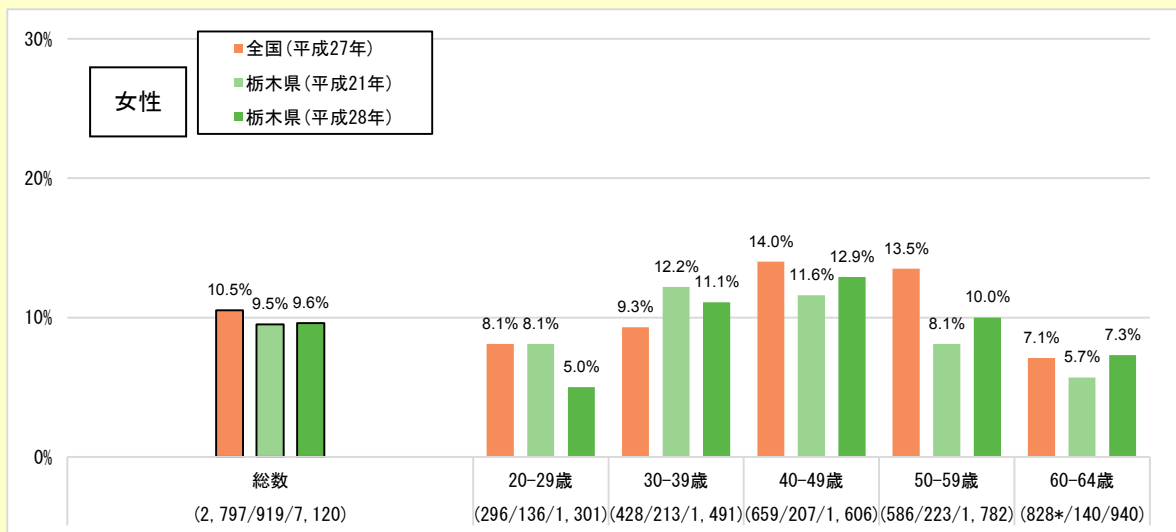
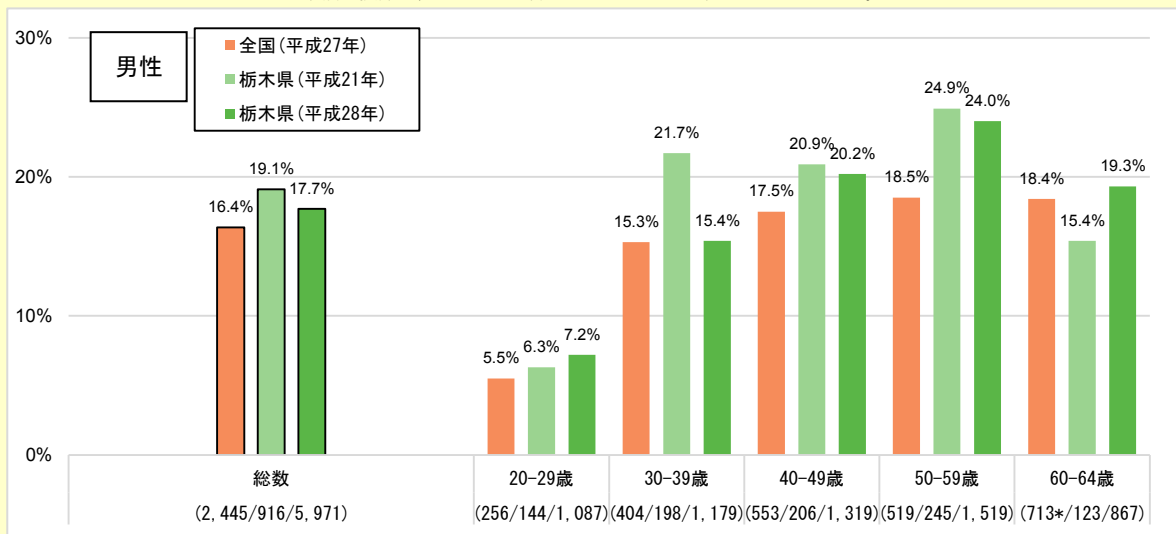
生活習慣病のリスクを高める飲酒（リスク飲酒）を行っている者の割合は、男性 17.7%、女性が 9.6% となった。平成 21 年度と比較すると、男性は減少傾向にあり、女性は同水準となっている。

また、全国と比較すると、男性においてはリスク飲酒の割合が高く、女性は低い傾向となっている。

※「生活習慣病のリスクを高める飲酒を行っている者」とは、1 日当たりの純アルコール摂取量が男性で 40g 以上、女性で 20g 以上の者

### リスク飲酒を行っている者の割合（20 歳～64 歳、性別・年齢階級別）

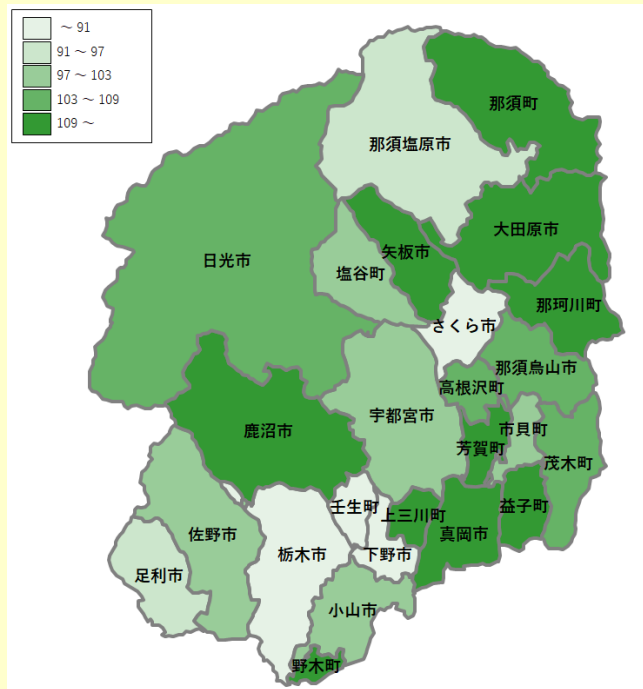
該当設問：問 15 週に何日位お酒（清酒、焼酎、ビール、洋酒など）を飲みますか。  
 問 15-1 問 15 で 1、2、3、4、5 と答えた方にお聞きます。お酒を飲む日は 1 日当たり、どのくらいの量を飲みますか。  
 清酒に換算し、あてはまる番号を 1 つ選んで○印をつけてください。



出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
 第 4 章 I-3-(30)・II-2-(21)・II-2-(22)  
 各グラフの ( ) 内の数字は母数

\*ただし、全国（平成 26 年）と栃木県（平成 21 年）の総数は、平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国（平成 27 年）の 60-64 歳の集計値には 65 歳から 69 歳の者が含まれる。栃木県（平成 21 年）では、月に 1～3 日飲酒をする者に対し、飲酒量の質問を行っていないため、その回答をした者がリスク飲酒の集計対象に含まれていない。

### リスク飲酒を行っている者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(20)

県全体の回答割合を 100 とし、リスク飲酒を行っている者の割合が大きいほど色が濃い。



## 第8節 喫煙

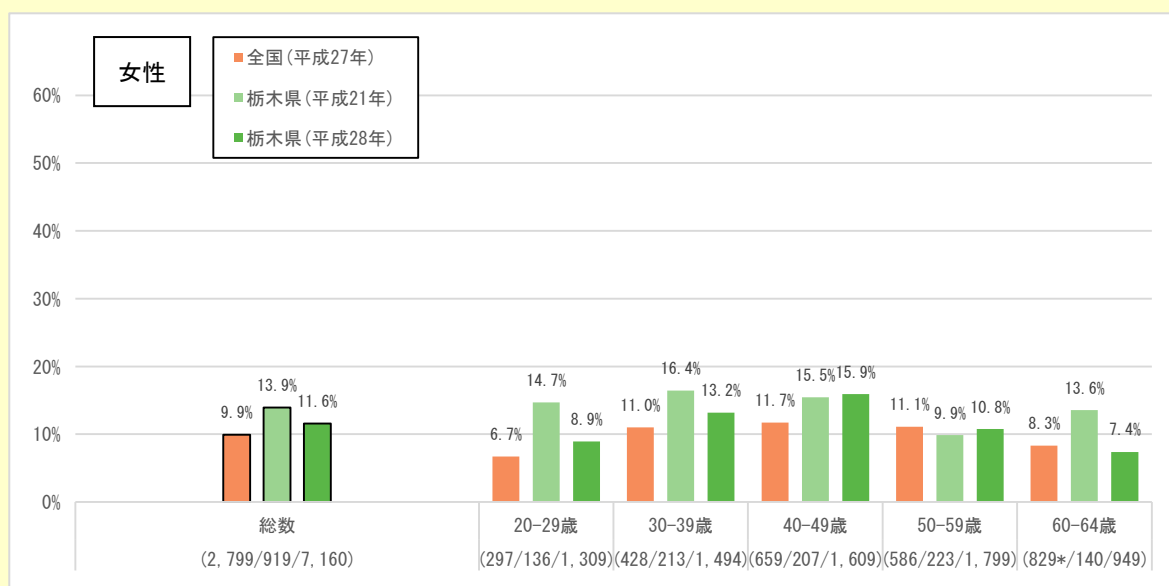
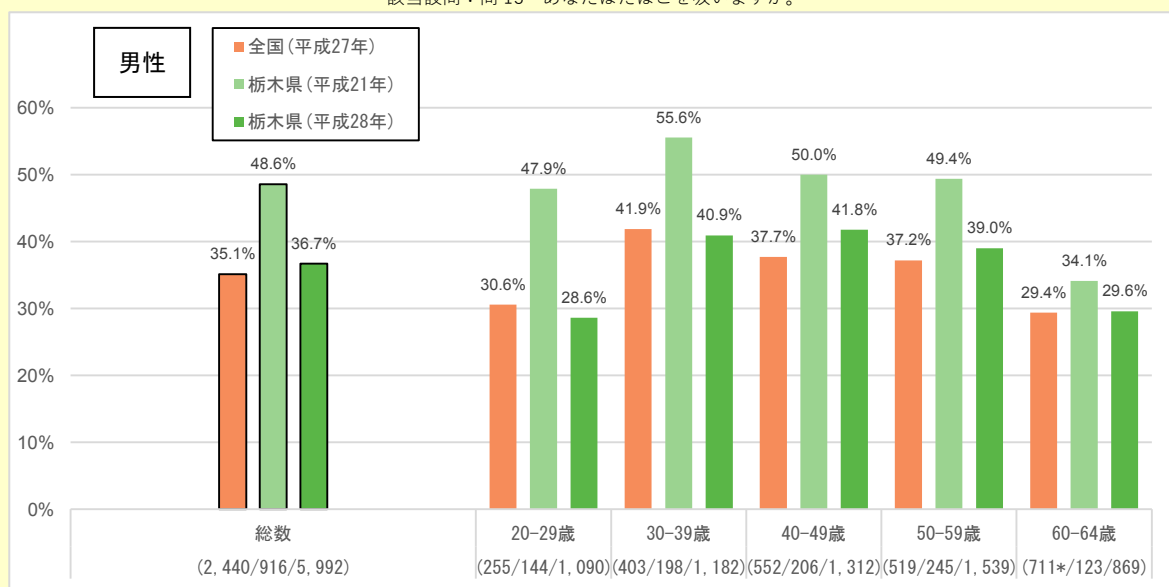
### 1 喫煙の状況

現在、習慣的に喫煙している者の割合は、男性 36.7%、女性 11.7%である。平成 21 年度と比較すると大幅に低下しているが、全国と比較すると、男女ともに全体に高い傾向がある。

ただし、20 歳代、30 歳代の男性及び 50 歳代、60 歳代の女性では喫煙習慣のある者が全国よりも低くなっている。

現在習慣的に喫煙している者（喫煙の有無の設問に「毎日吸う」、「時々吸う日がある」と回答した者）の割合  
（20 歳～64 歳、性別・年齢階級別）

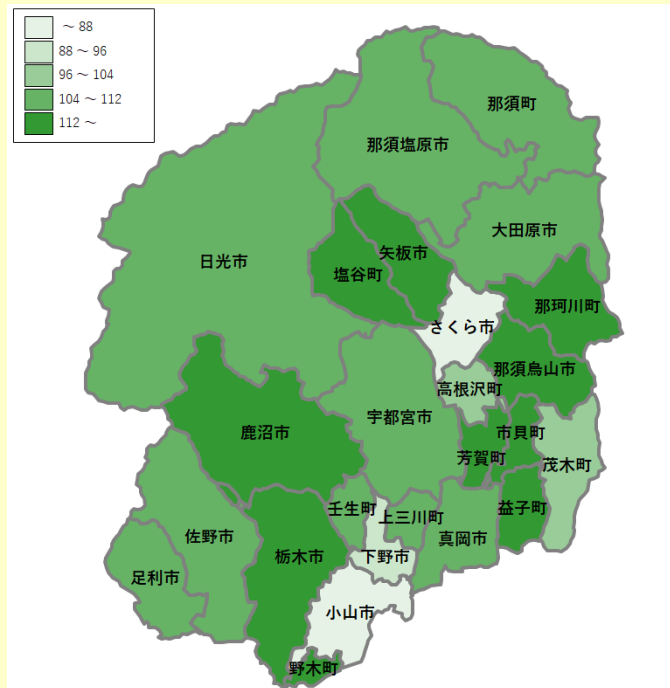
該当設問：問 13 あなたはたばこを吸いますか。



出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 I-3-(25)・II-2-(15)・II-2-(16)

各グラフの ( ) 内の数字は母数  
\*ただし、全国 (平成 27 年) と栃木県 (平成 21 年) の総数は、平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国 (平成 27 年) の 60-64 歳の集計値には 65 歳から 69 歳の者が含まれる。

### 喫煙者の市町別割合



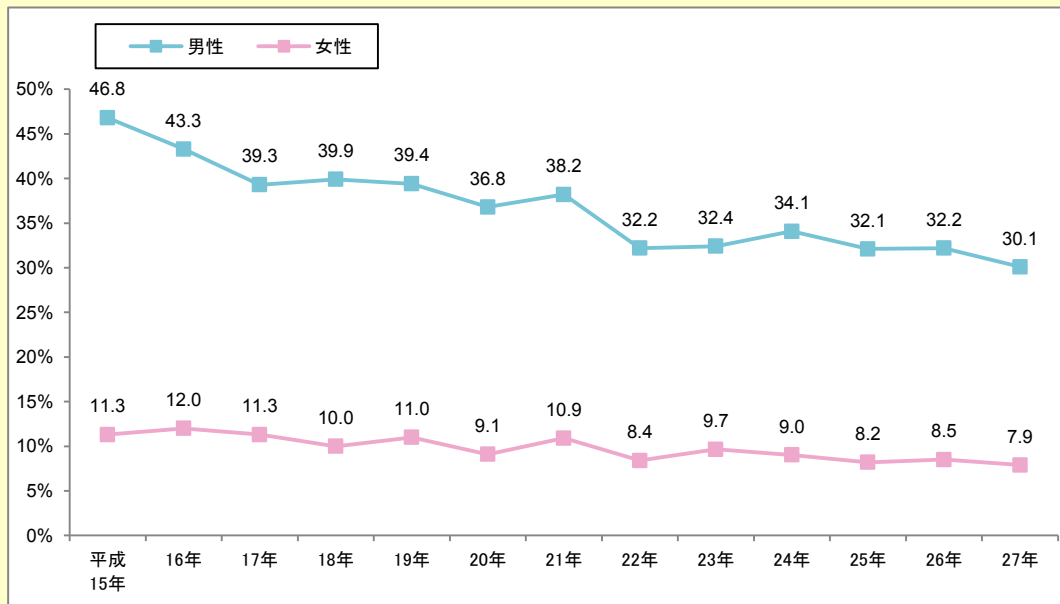
出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 I-5-(17)

県全体の回答割合を 100 とし、喫煙者の割合が大きいほど色が濃い。

全国の現在習慣的に喫煙している者の割合の年次推移をみると、男性は減少傾向にあるが、女性は横ばいである。

### 現在習慣的に喫煙している者の割合の推移（20 歳以上、性別、全国）



出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」

第 4 章 II-3-(62)

\*平成 24 年までは、これまでたばこを習慣的に吸っていたことがある者（ただし、平成 15～22 年は「合計 100 本以上又は 6 か月以上、たばこを吸っている（吸っていた）」と回答した者）のうち、「この 1 か月間に毎日又は時々たばこを吸っていると回答した者。」

## 2 禁煙意思の有無の状況

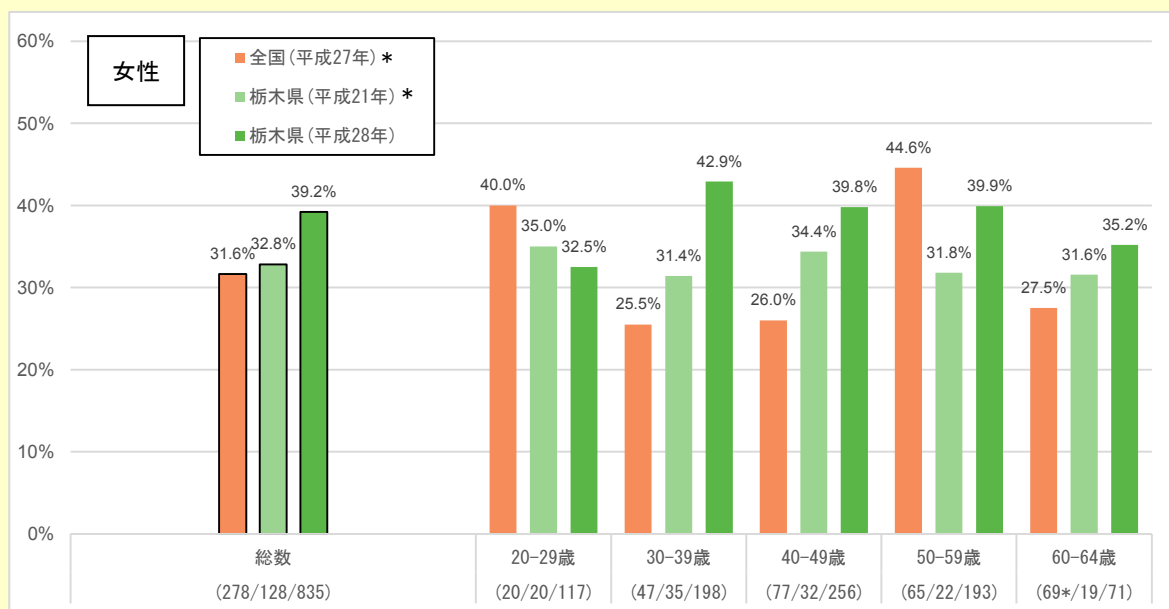
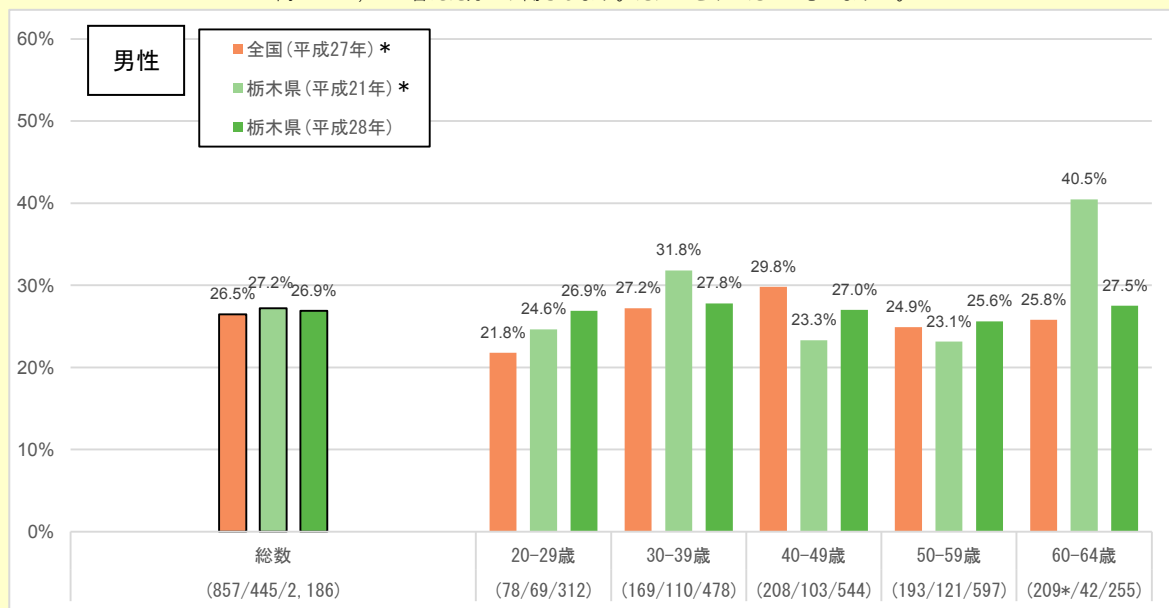
喫煙習慣のある者のうち、たばこをやめたいと考えている者の割合は、男性 26.9%、女性 39.2%となっている。男性は平成 21 年度及び全国と比較し同程度、女性は高い数値となっている。

喫煙習慣の状況と合わせてみると、30 代から 40 代の女性は全国平均と比較し喫煙習慣がある者が多かったが、その一方、禁煙をしたいと考えている者の割合も高いという結果となった。

### 喫煙習慣がある者のうち、たばこをやめたいと考えている者の割合

(20 歳～64 歳、性別・年齢階級別)

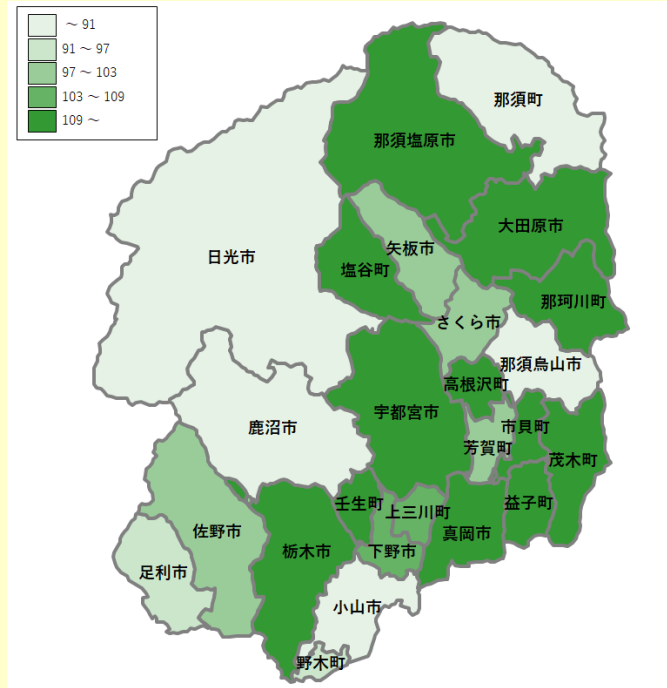
問 13 で 1, 2 と答えた方にお聞きします。たばこをやめたいと思いますか。



出典：厚生労働省「平成 27 年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 I-3-(26)・II-2-(17)・II-2-(18)

各グラフの ( ) 内の数字は母数  
\*ただし、全国 (平成 27 年) と栃木県 (平成 21 年) の総数は、平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。全国(平成 27 年)の 60-64 歳の集計値には 65 歳から 69 歳の者が含まれる。

### 禁煙意思のある喫煙者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(18)

県全体の回答割合を 100 とし、禁煙意思のある喫煙者の割合が大きいほど色が濃い。



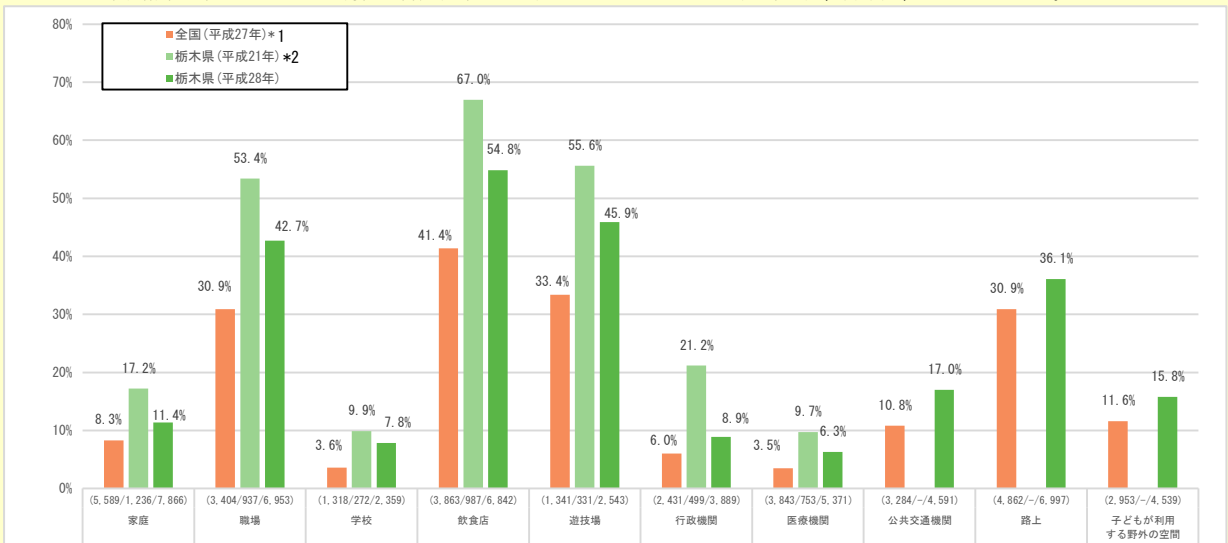
### 3 受動喫煙の防止に関する状況

過去1ヶ月間に自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）を有する者（家庭：毎日受動喫煙の機会を有する者、その他：月1回以上受動喫煙の機会を有する者。現在喫煙者除く）の割合について場所別にみると、飲食店では54.8%、続いて遊技場で45.9%、職場で42.7%、路上で36.1%であった。また、家庭で毎日受動喫煙の機会を有する者は11.4%となっていた。

すべての場所について、平成21年度を下回るが、全国よりは高い。

#### 受動喫煙機会を有する者の割合（20歳～64歳、男女計）

該当設問：問14 この1か月間に自分以外の方が吸っていたたばこの煙を吸う機会（受動喫煙）がありましたか。



出典：厚生労働省「平成27年国民健康・栄養調査」、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」

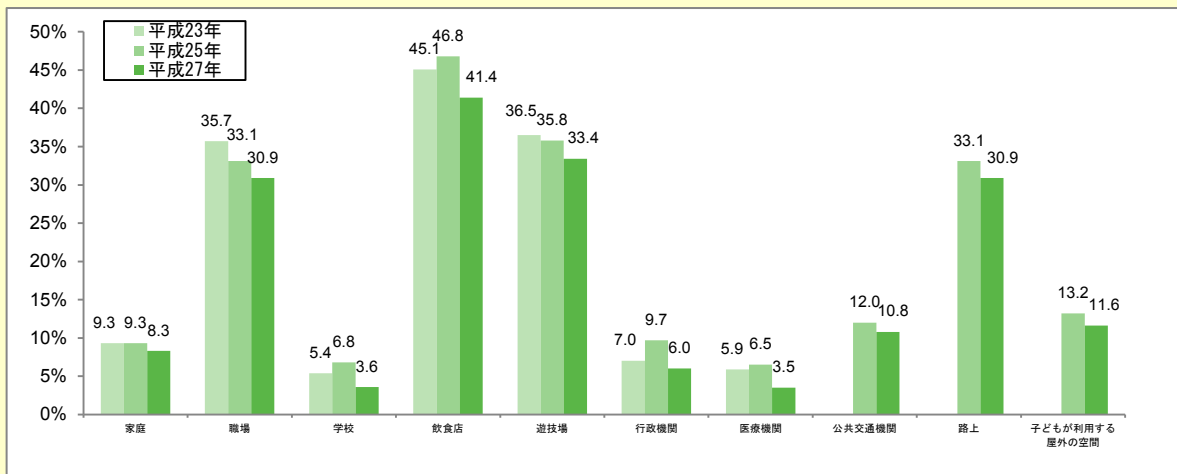
第4章 I-3-(27)・II-2-(19)・II-2-(20)

各グラフの（）内の数字は母数

\*1 全国（平成27年）の値は、図表作成時点ではすべての年代を合算した値のみの提供されているため、結果に65歳以上の者が含まれる。

\*2 栃木県(平成21年)の調査には、公共交通機関、路上、子どもが利用する野外の空間は選択肢に含まれていなかった。

#### 受動喫煙の機会を有する者の割合の推移（全国、20歳以上）

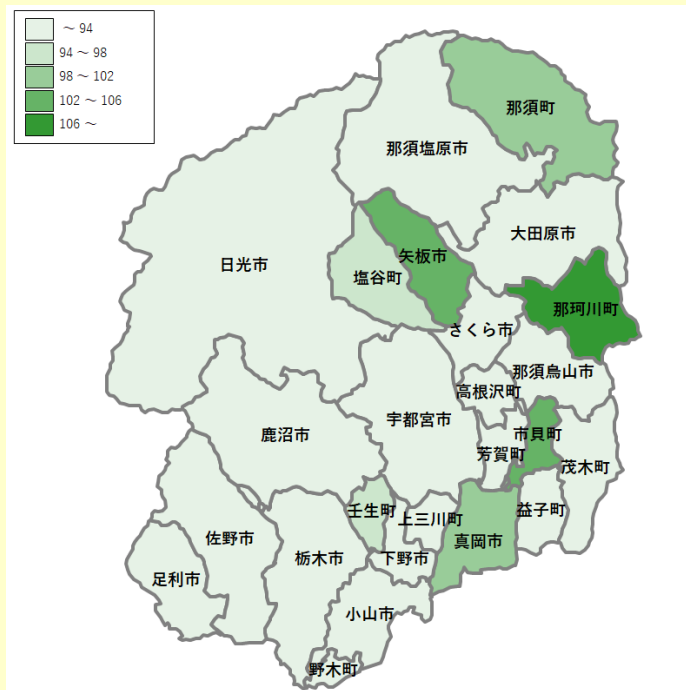


出典：厚生労働省「平成27年国民健康・栄養調査」

第4章 II-3-(63)



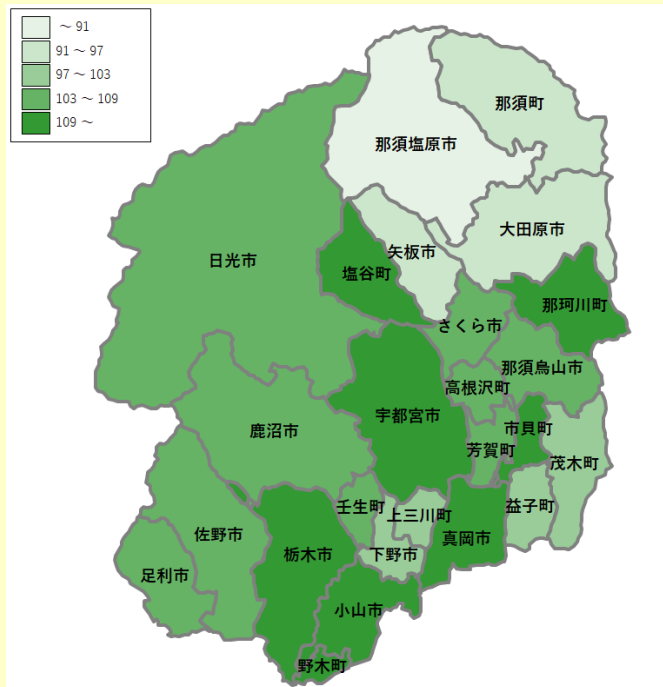
### 家庭において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、家庭において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

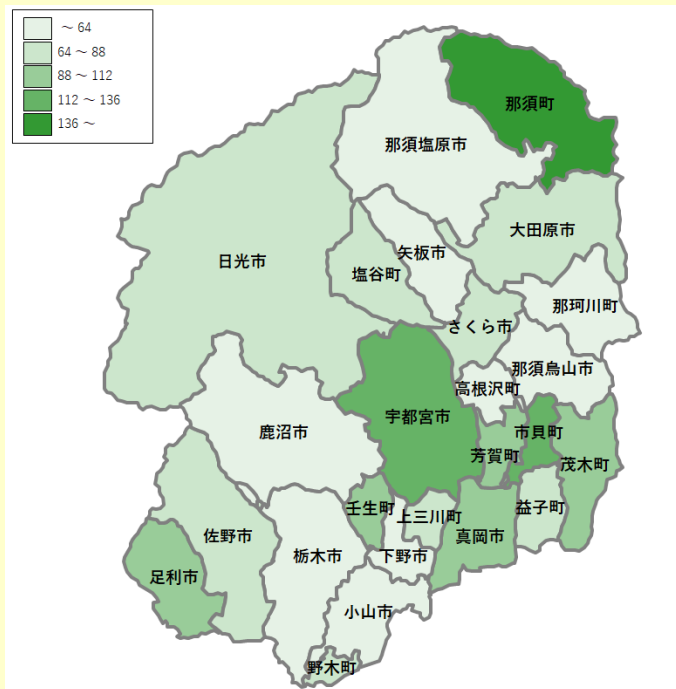
### 職場において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、職場において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

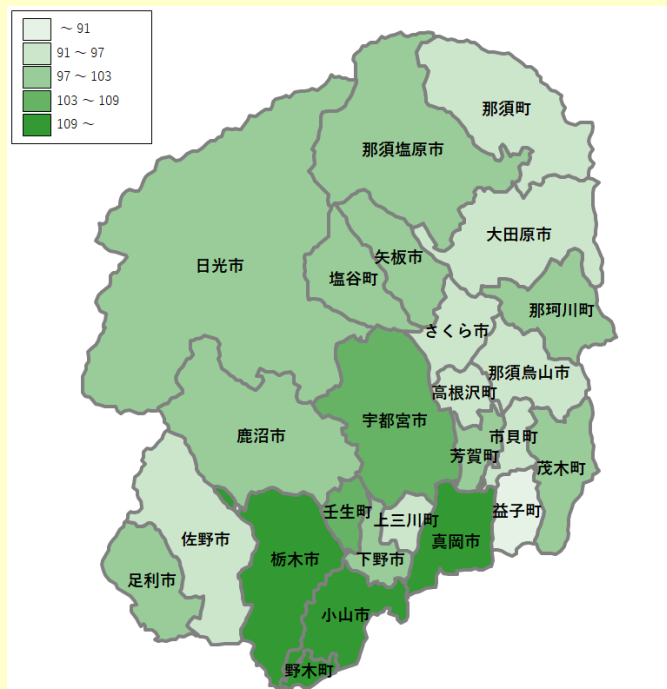
### 学校において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、学校において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

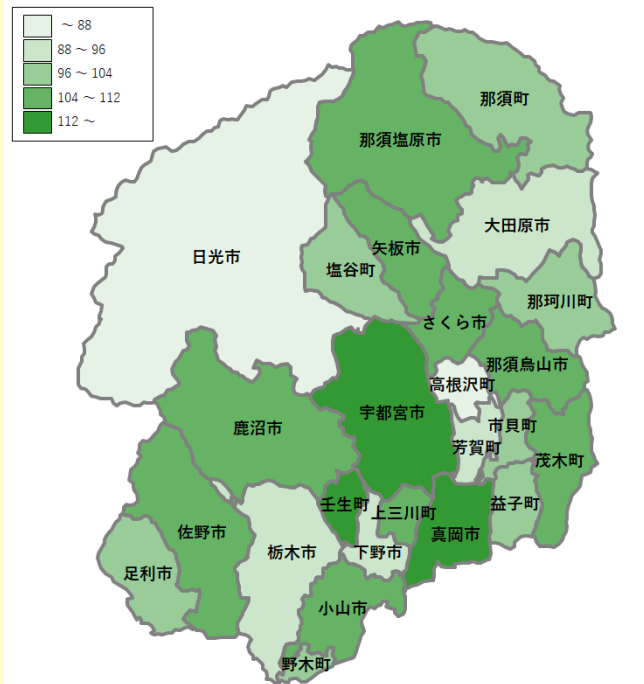
### 飲食店において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、飲食店において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

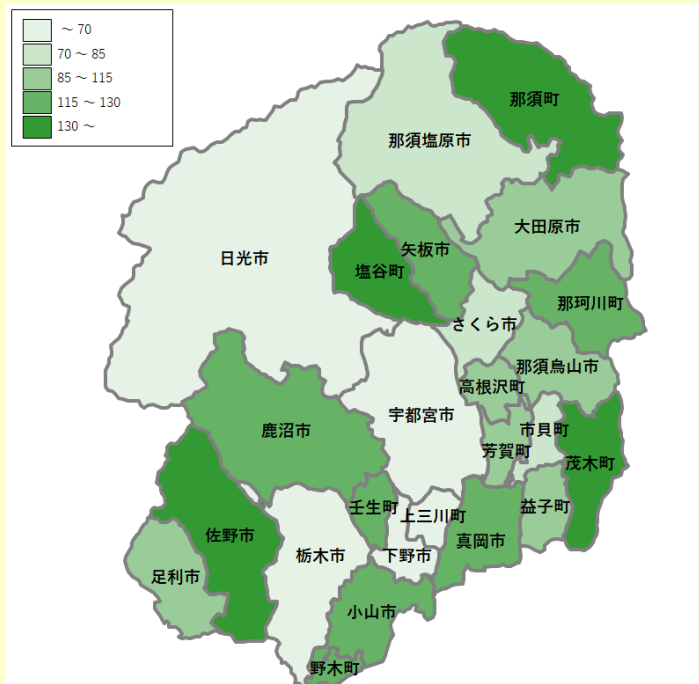
### 遊技場において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、遊技場において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

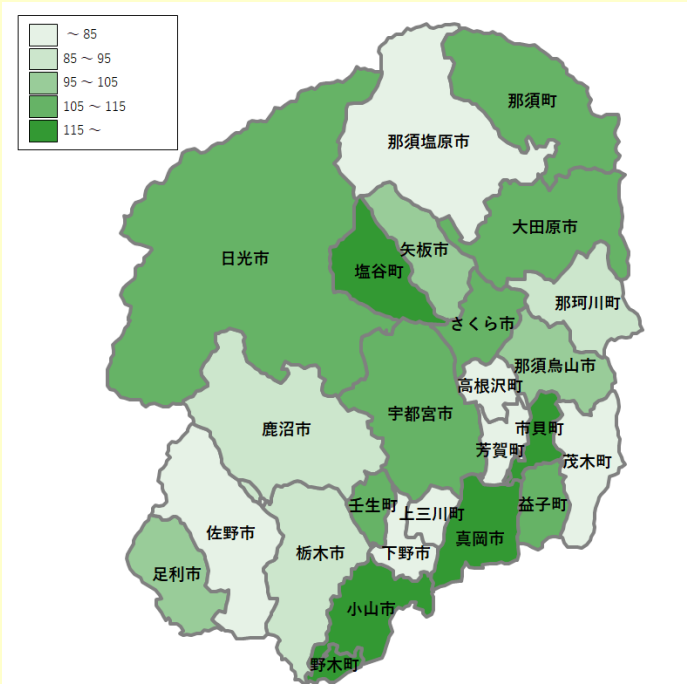
### 行政機関において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、行政機関において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

### 医療機関において受動喫煙機会を有する者の市町別割合

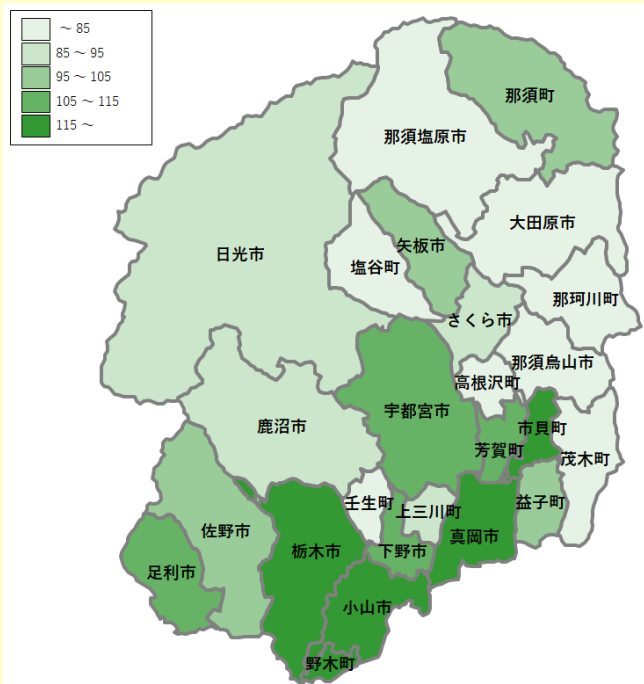


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、医療機関において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

### 公共交通機関において受動喫煙機会を有する者の市町別割合

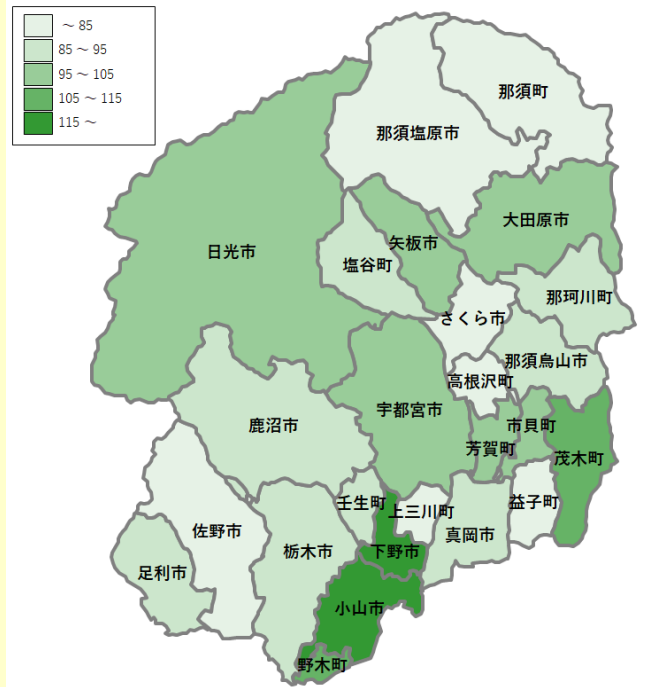


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(19)

県全体の回答割合を 100 とし、公共交通機関において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

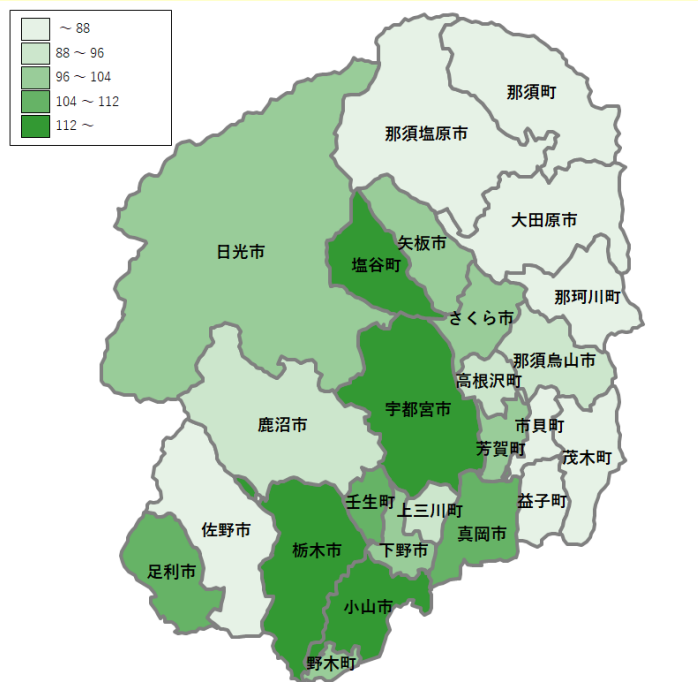
### 路上において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 1-5-(19)

県全体の回答割合を100とし、路上において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

### 子どもが利用する野外の空間において受動喫煙機会を有する者の市町別割合



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 1-5-(19)

県全体の回答割合を100とし、子どもが利用する野外の空間において受動喫煙機会を有する者の割合が大きいほど色が濃い。

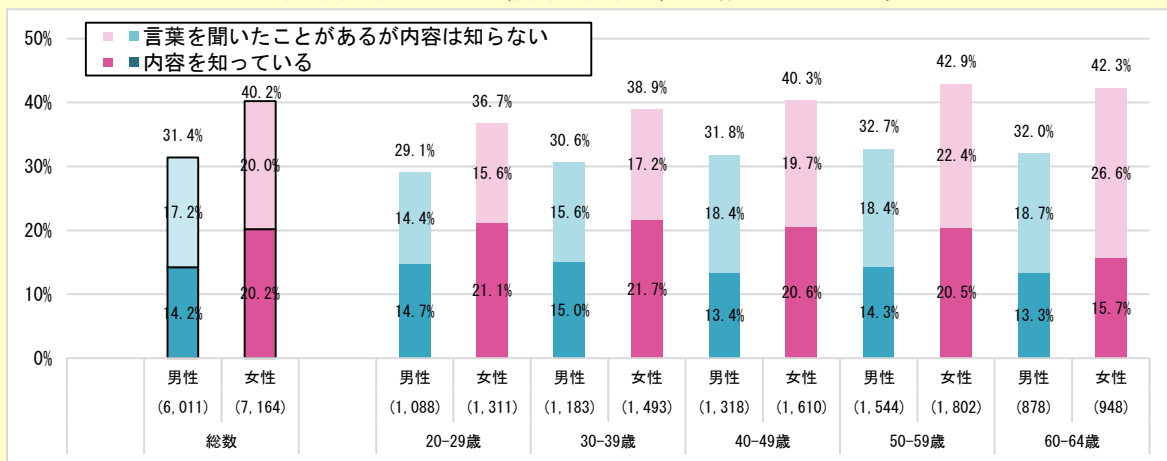
#### 4 COPD（慢性閉塞性肺疾患）認知度の状況

COPD について「内容を知っている」と回答した者の割合は男性においては 14.2%であり、女性においては 20.2%であった。また、「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した者の割合は、男性においては 17.2%、女性においては 20.0%であった。

※COPD とは、主に喫煙が原因で呼吸機能が低下する肺の病気で、症状は咳、痰、運動時の呼吸困難などがある。とちぎ健康 21 プラン（2 期計画）における目標値では COPD の認知度を 80%としている。

#### COPD について「内容を知っている」、「言葉を聞いたことがあるが内容は知らない」と回答した者の割合（20 歳～64 歳、性別・年齢階級別）

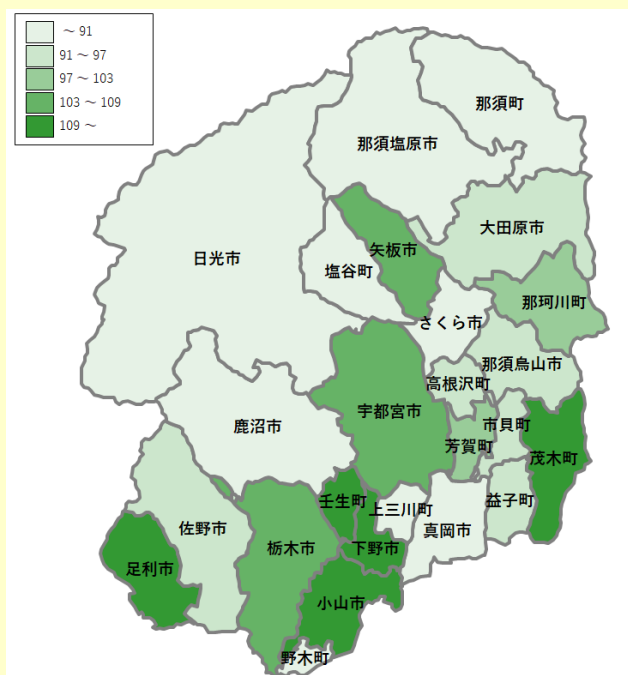
該当設問：問 11 COPD（慢性閉塞性肺疾患）の内容を知っていますか。



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-3-(21)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

#### COPD の内容を知っている者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(14)

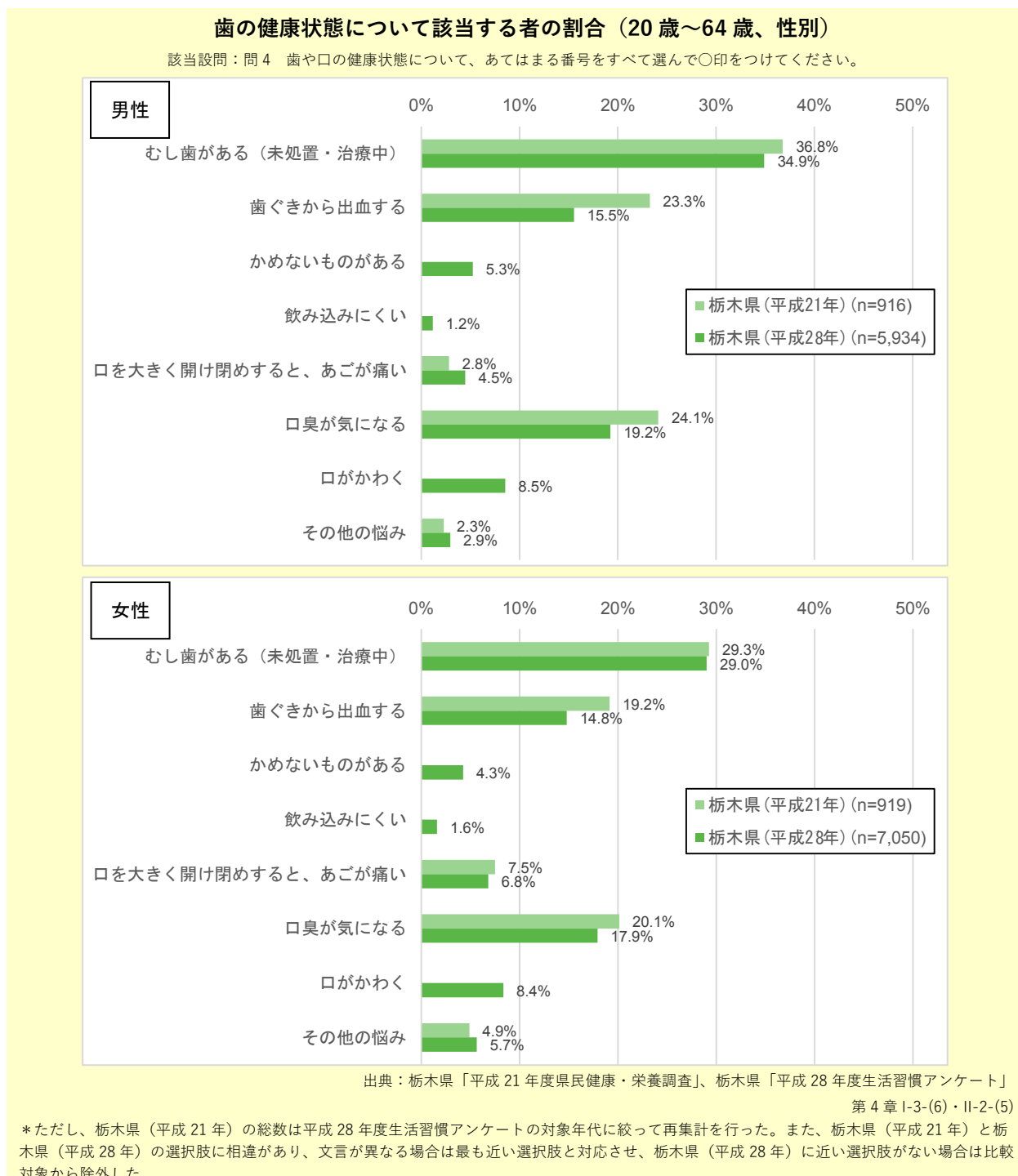
県全体の回答割合を 100 とし、COPD の内容を知っている、言葉を聞いたことがある者の割合が大きいほど色が濃い。

## 第9節 歯と口腔

### 1 歯・口腔の健康

#### (1) 歯・口腔の健康状態

歯・口腔の健康状態のうち、何らかの自覚のある者の状態としては、男女とも「むし歯がある」、「口臭が気になる」、「歯ぐきから出血する」が上位を占めていた。

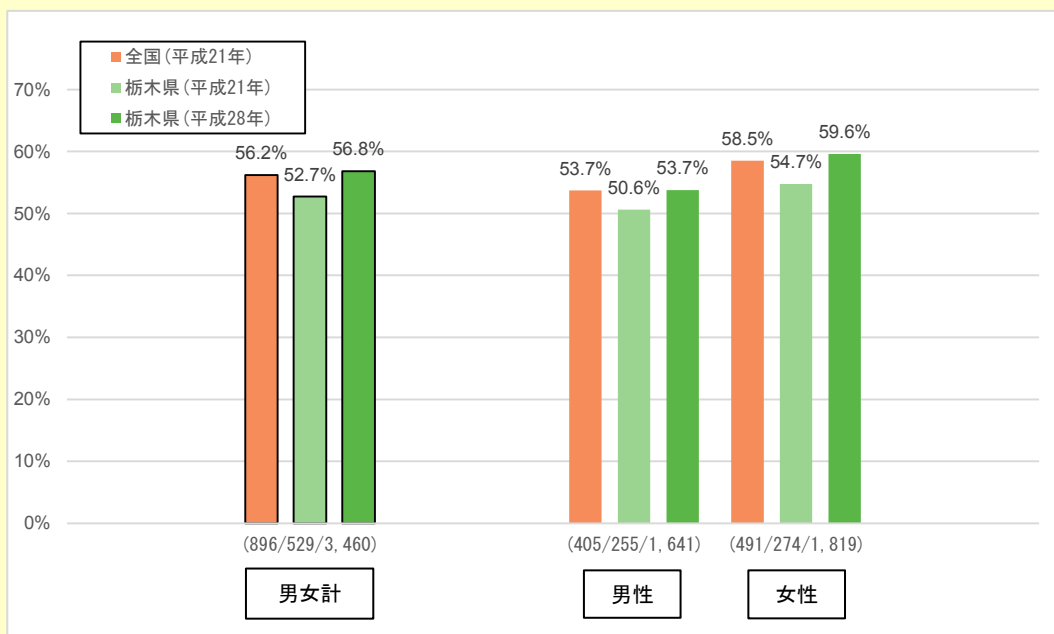


## (2) 歯の本数の状況

55歳から64歳で24本以上の歯がある者は、男性53.7%、女性59.6%となっており、平成21年度と比べて男女とも改善がみられる。

### 60歳（55-64歳）で、歯の本数が24本以上ある者の割合（55歳～64歳、性別）

該当質問：問5 自分の歯（さし歯を含む。）は何本ありますか。※親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。親知らずを除くと全部で28本が正常ですが、数本の増減が見られることもあります。0本の場合はゼロと記入してください。



出典：厚生労働省「平成21年度国民健康・栄養調査」、栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 1-3-(9)・II-2-(7)・II-2-(8)  
各グラフの ( ) 内の数字は母数

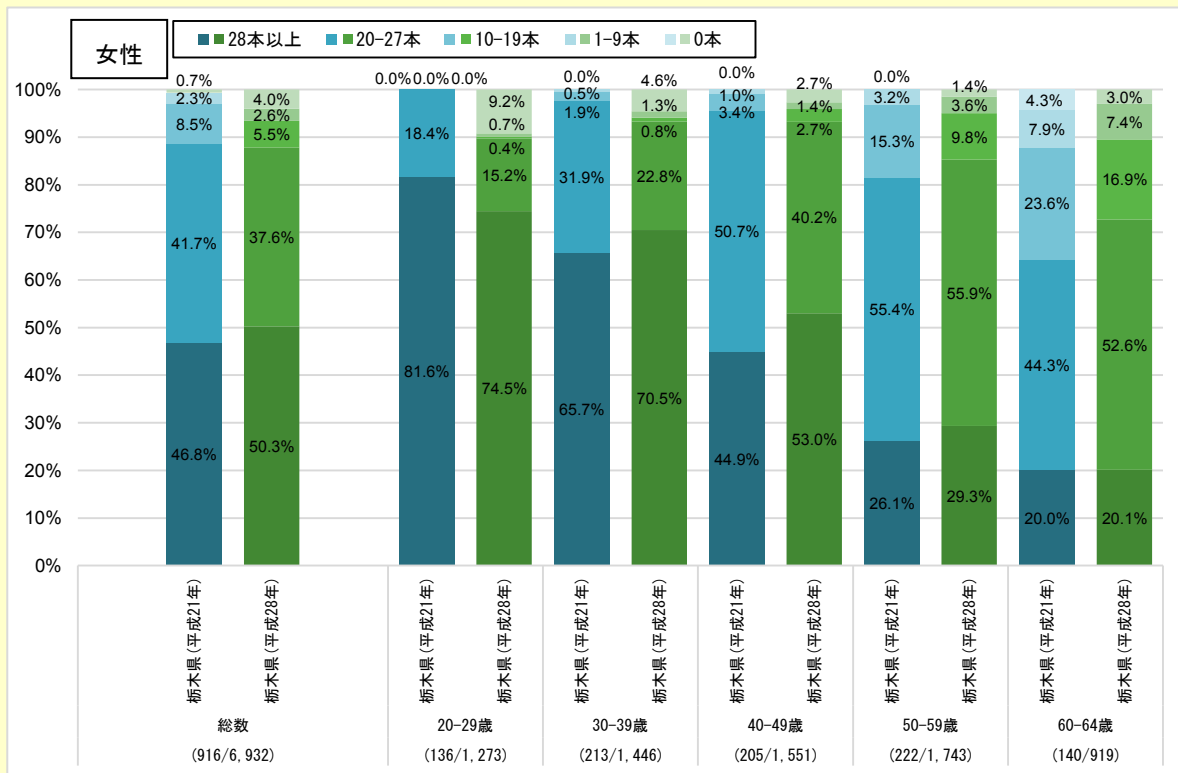
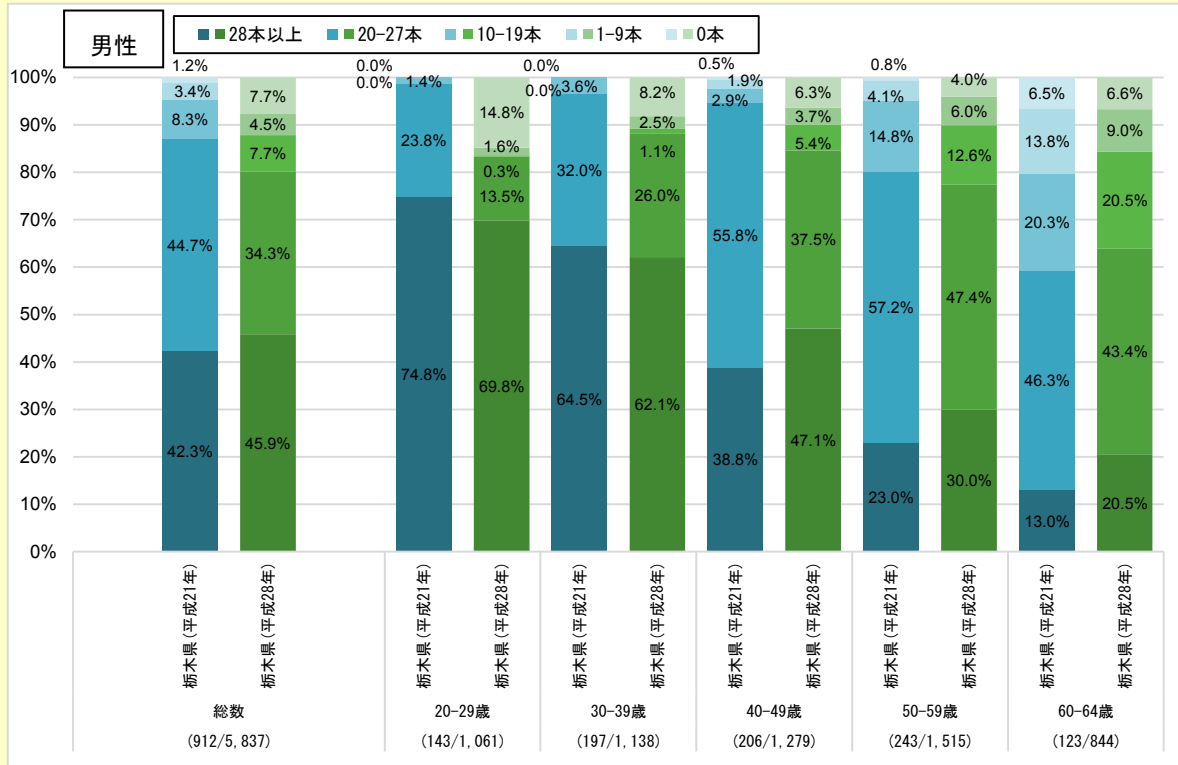
また、歯の本数に関しては、28本以上の歯がある者が、男性45.9%、女性50.3%と男女ともに平成21年度県民健康・栄養調査から増えるという結果となった。

ただし、今回のアンケートでは20代、30代で歯の本数を0本と回答している者が顕著に多いため、質問項目を親知らずの本数やむし歯の本数等の設問であると誤読したうえで回答した者が相当数含まれることが想定される。一方、平成21年度県民健康・栄養調査では調査員による訪問調査が行われたため、このような誤読が起こりにくかったと思われる。



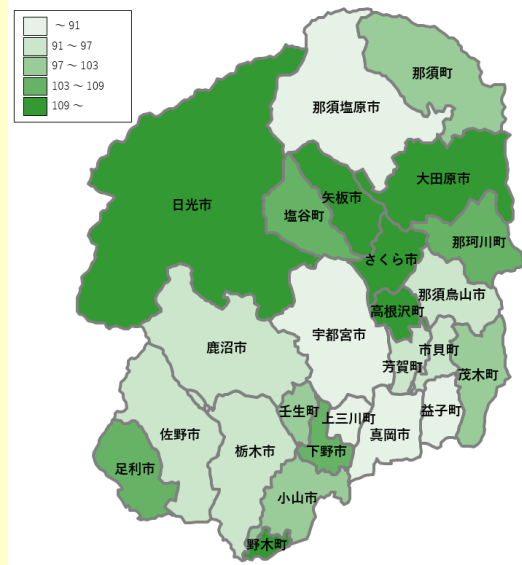
### 歯の本数についての割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当質問：問5 自分の歯（さし歯を含む。）は何本ありますか。※親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含まれません。親知らずを除くと全部で28本が正常ですが、数本の増減が見られることもあります。0本の場合はゼロと記入してください。



出典：栃木県「平成21年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
 第4章 I-3-(8)・II-2-(6)  
 各グラフの()内の数字は母数  
 \*ただし、栃木県(平成21年)の総数は平成28年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。

### 60歳（55-64歳）で、歯の本数が24本以上ある者の市町別割合



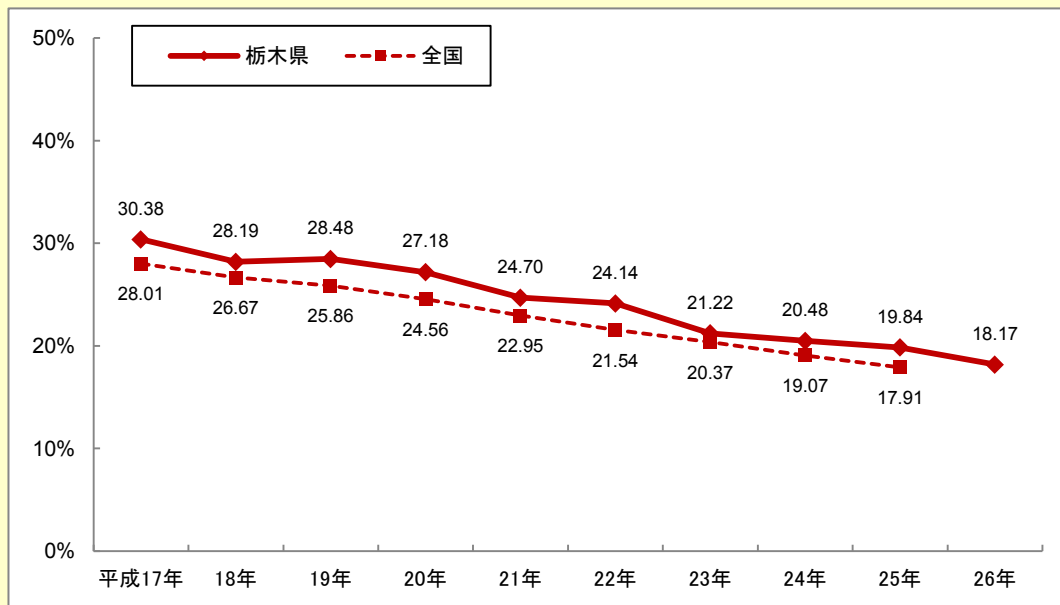
出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 I-5-(5)

県全体の回答割合を100とし、歯の本数が24本以上ある者の割合が大きいほど色が濃い。

## 2 子どもの歯の健康

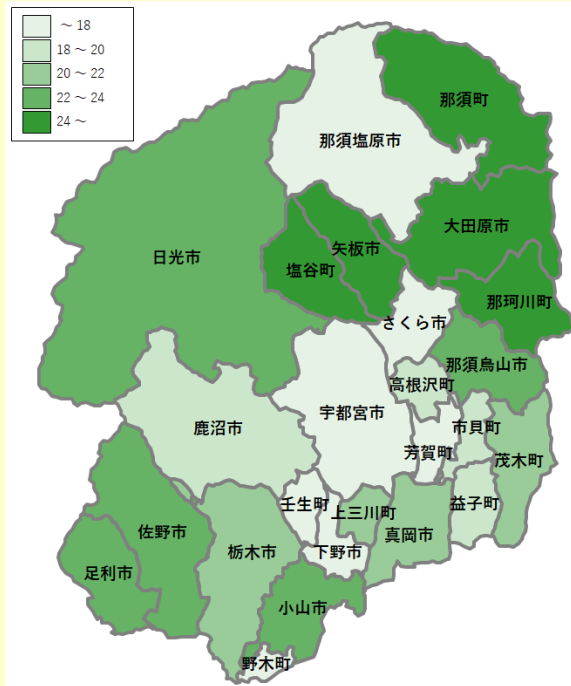
### (1) 3歳児におけるむし歯有病率

#### 3歳児におけるむし歯有病率の推移（全国・栃木県）



出典：栃木県「平成28年度歯及び口腔の健康づくりに関する報告書」  
第4章 II-3-(64)

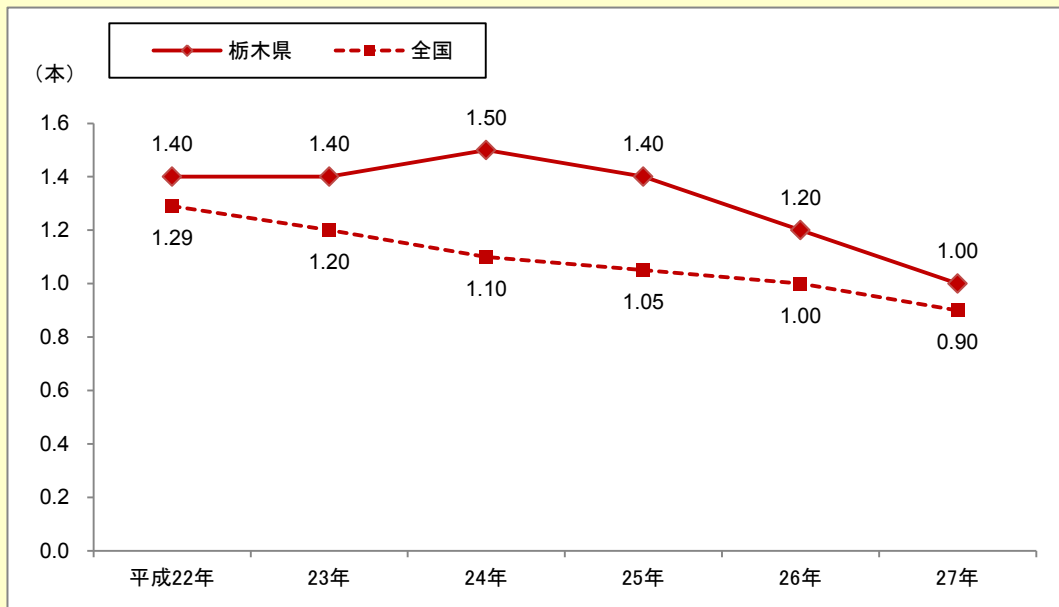
3 歳児におけるむし歯有病率（平成 23～27 年の 5 年間平均、市町別）



出典：栃木県「平成 27 年度歯及び口腔の健康づくりに関する報告書」  
第 4 章 II-3-(65)

(2) 12 歳の永久歯の一人平均むし歯等数

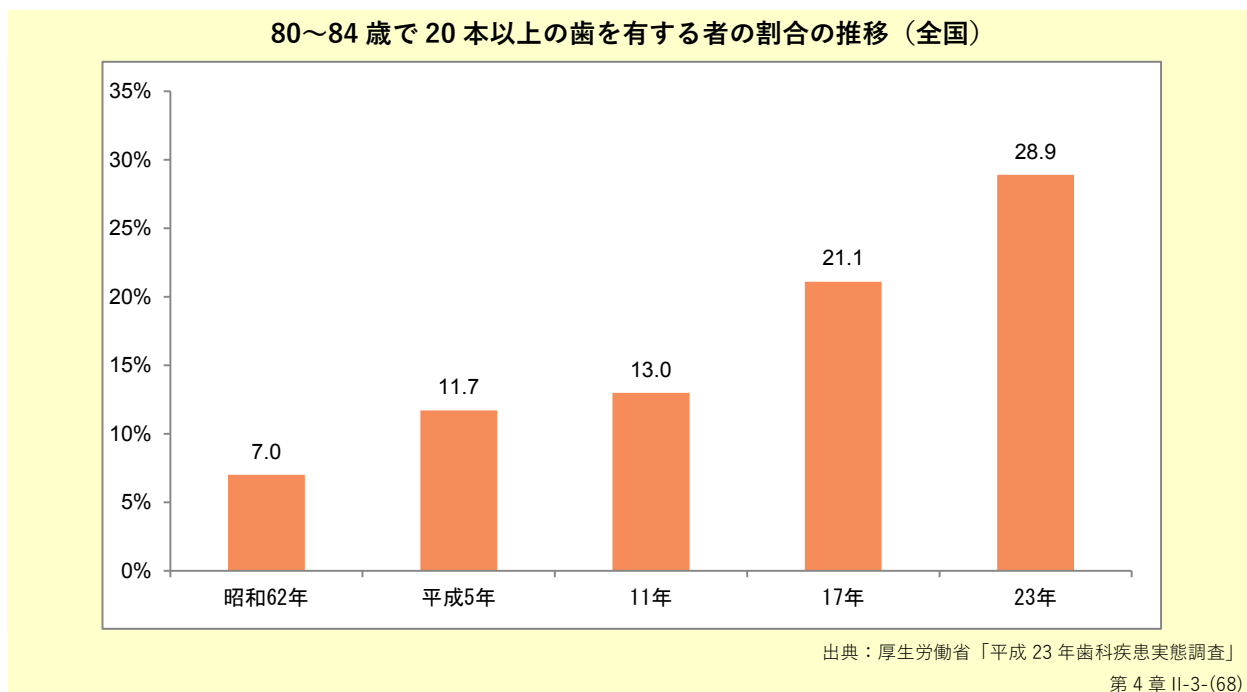
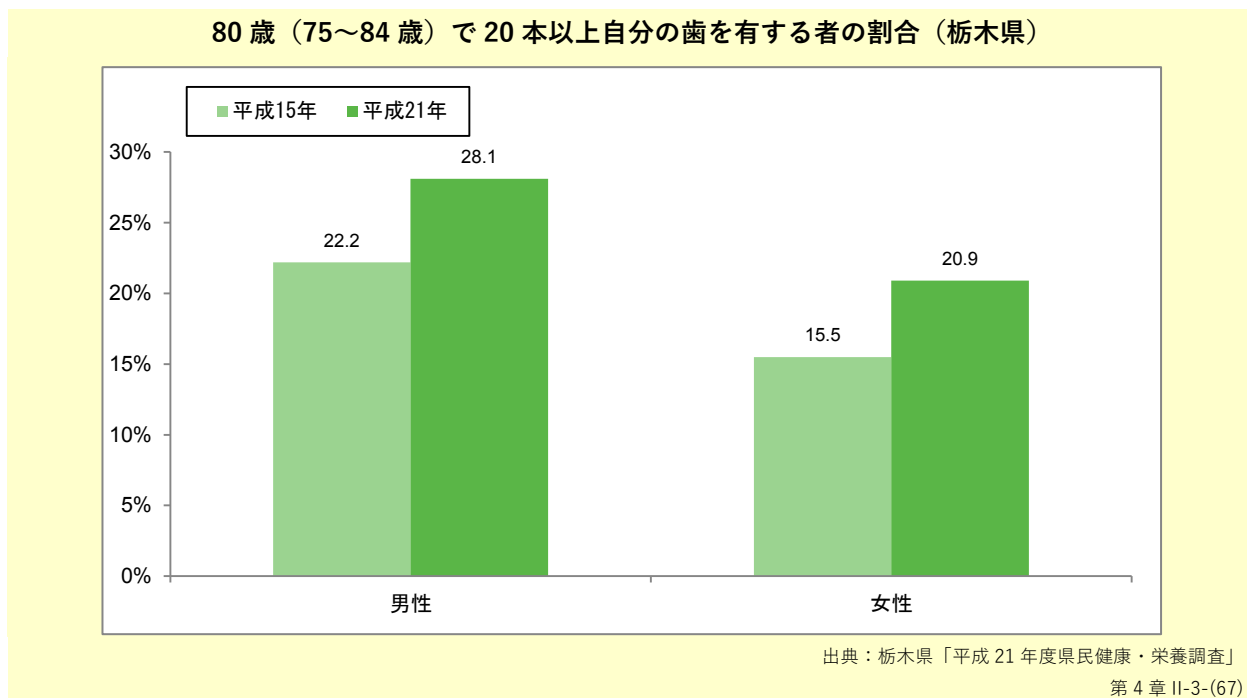
12 歳における永久歯の一人平均むし歯数及び喪失歯数の推移（全国・栃木県）



出典：栃木県「平成 28 年度歯及び口腔の健康づくりに関する報告書」  
第 4 章 II-3-(66)

### 3 高齢者の歯の健康

#### (1) 80歳の者の歯の保有率



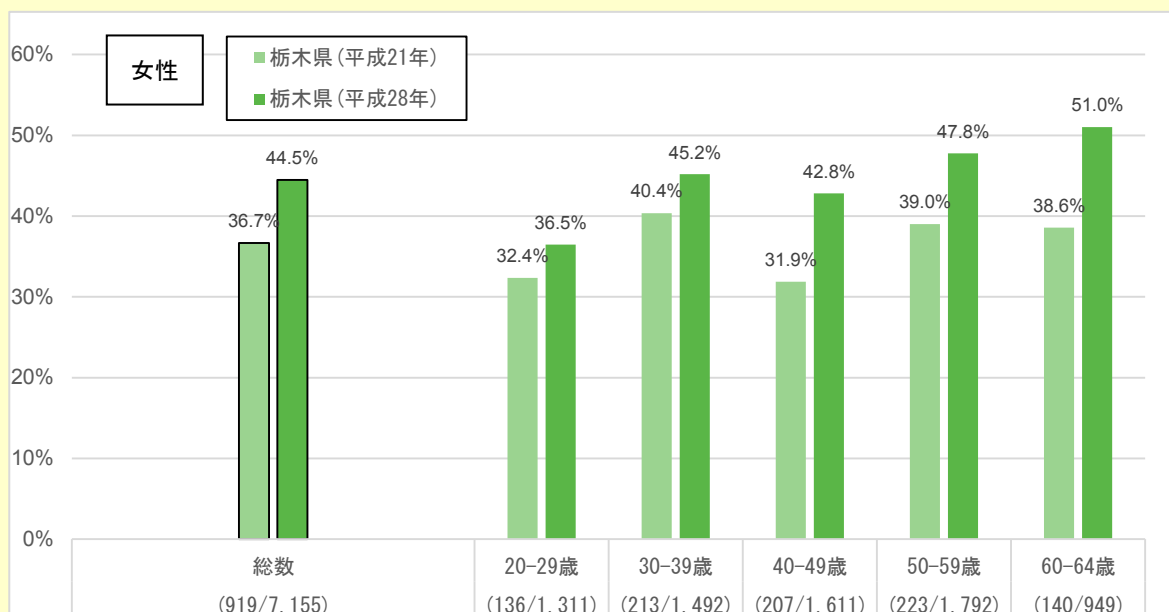
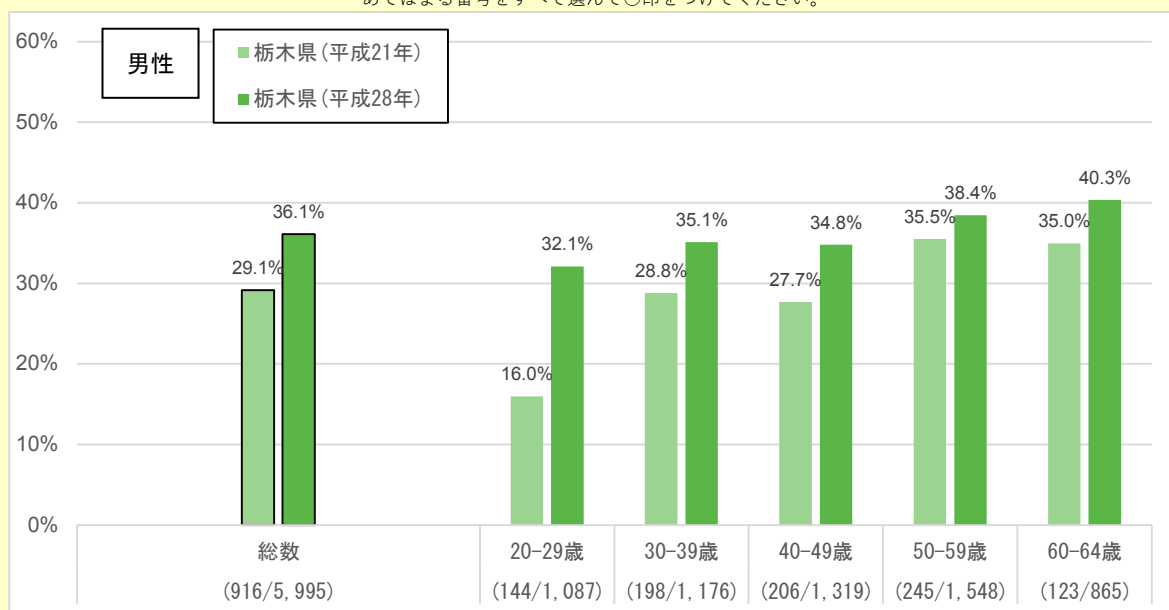
#### 4 歯科健診

##### (1) 歯科健診の受診状況

この1年間に歯科健診を受診した者の割合は、男性 36.1%、女性 44.5%であり、男女の全年代において平成 21 年度から受診率が増加している。また、歯科健診を受診した場所は、男女とも「歯科診療所（病院）」が多い。また、男性は女性よりも「職場」での健診を受けている率が高いという特徴がみられた。

歯科健康診査を受けた者の割合（20歳～64歳、性別・年齢階級別）

該当設問：問 6 過去 1 年間に歯科健康診査（歯周疾患検診を含む。）を受けましたか。受けた場合は、どこで受けましたか。  
あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。



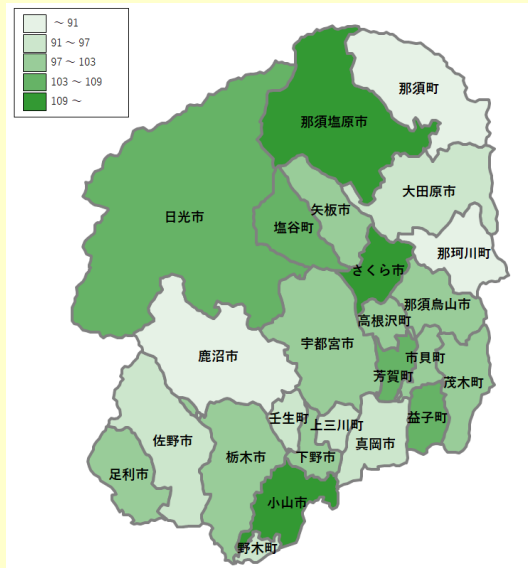
出典：栃木県「平成 21 年度県民健康・栄養調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 I-3-(11)・II-2-(9)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

\*ただし、栃木県（平成 21 年）の総数は平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。

### 歯科健康診査を受けた者の市町別割合

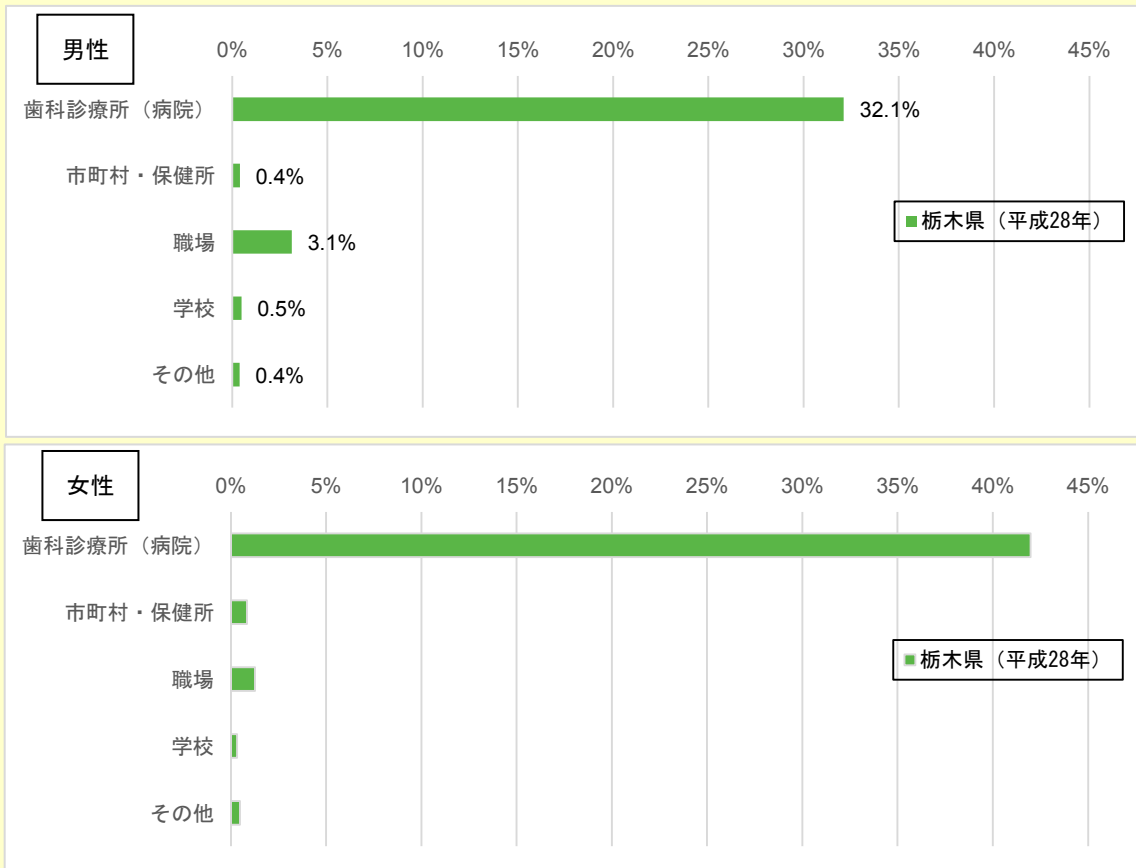


出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 I-5-(6)

県全体の回答割合を100とし、歯科健康診査を受けた者の割合が大きいほど色が濃い。

### 歯科健康診査を受けた場所それぞれについて回答した者の割合（20歳～64歳、性別）

該当設問：問6 過去1年間に歯科健康診査（歯周疾患検診を含む。）を受けましたか。受けた場合は、どこで受けましたか。あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。

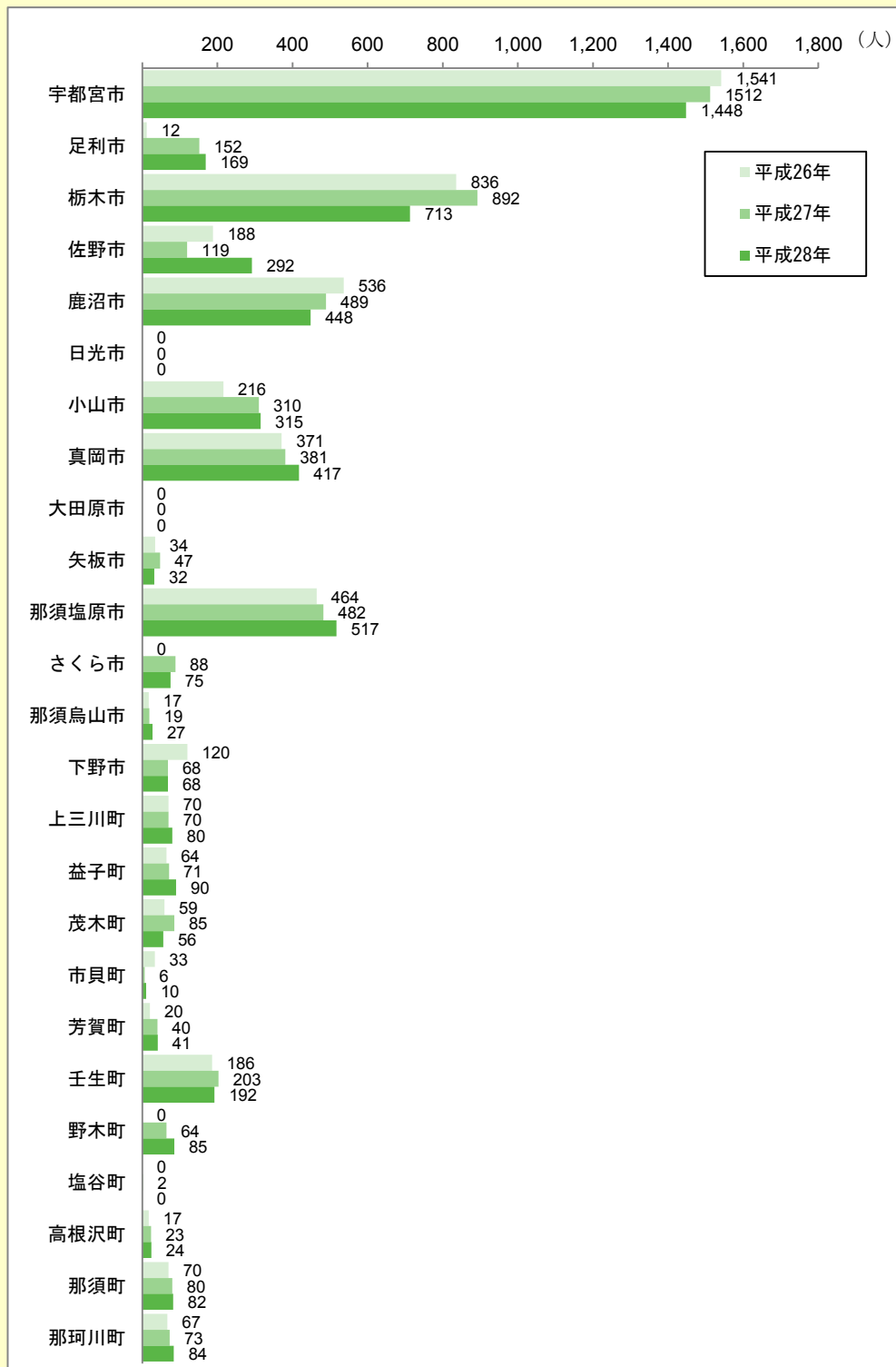


出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章 I-3-(10)

(2) 歯周疾患検診実施状況

栃木県の市町の歯周疾患検診実施人数は、人口の比較的多い宇都宮市や栃木市が多い。

歯周疾患検診実施人数（市町別）



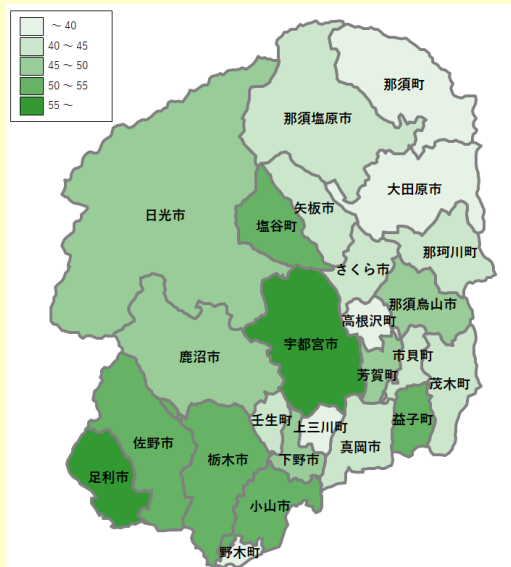
出典：栃木県「平成28年歯及び口腔の健康づくりに関する報告書」

第4章 II-3-(69)

## 5 歯科診療所数

平成 26 年の医療施設（静態・動態）調査によると、平成 26 年 10 月 1 日現在の栃木県の歯科診療所数は 980 施設となっている。人口 10 万人当たりでは、歯科診療所数が 49.5 となっており、全国の 54.0 を下回っている。市町別の分布は以下のとおり。

人口 10 万人当たりの歯科診療所数（市町別）



出典：厚生労働省「平成 26 年医療施設調査」  
第 4 章 II-3-(12)





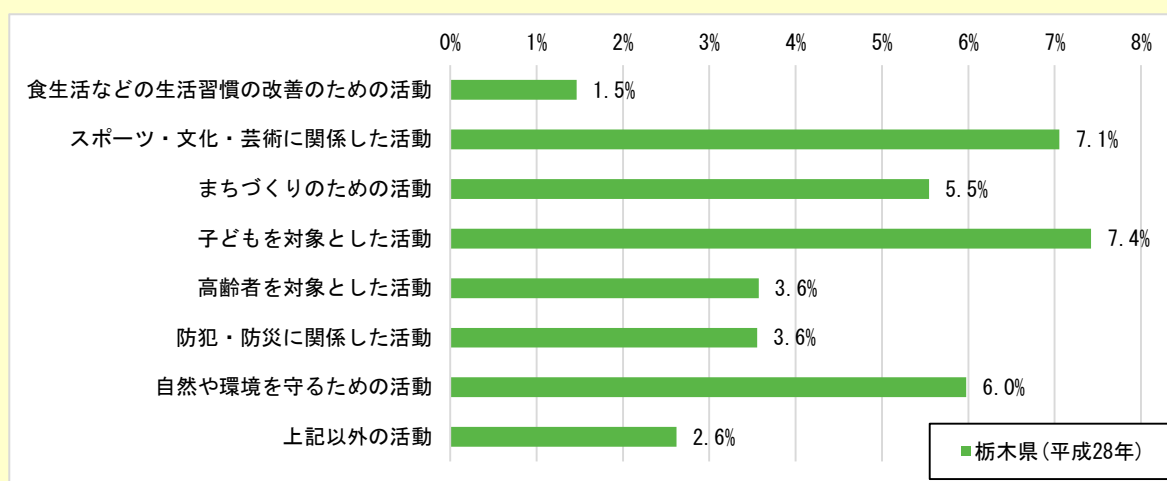
## 第10節 ボランティア活動

### 1 ボランティア活動の状況

この1年間に行ったボランティア活動のうち、健康づくりに関係したものの参加割合では、子どもを対象にした活動が7.4%と最も高い結果となった。

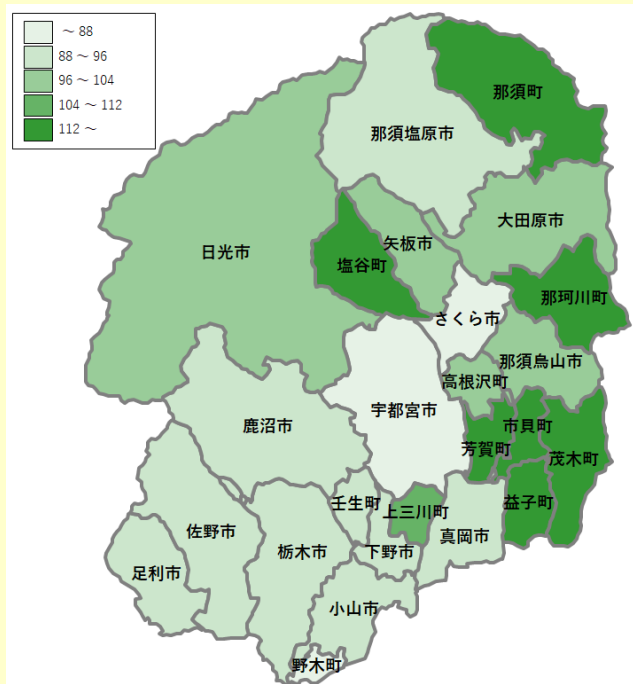
#### 健康づくりに関連したボランティア活動の活動種類別参加割合（20歳～64歳、男女計）

該当設問：問12 この1年間に行ったボランティア活動（近隣の人への手助け・支援を含む）のうち、健康づくりに関係したものはありますか。あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章1-3-(22)

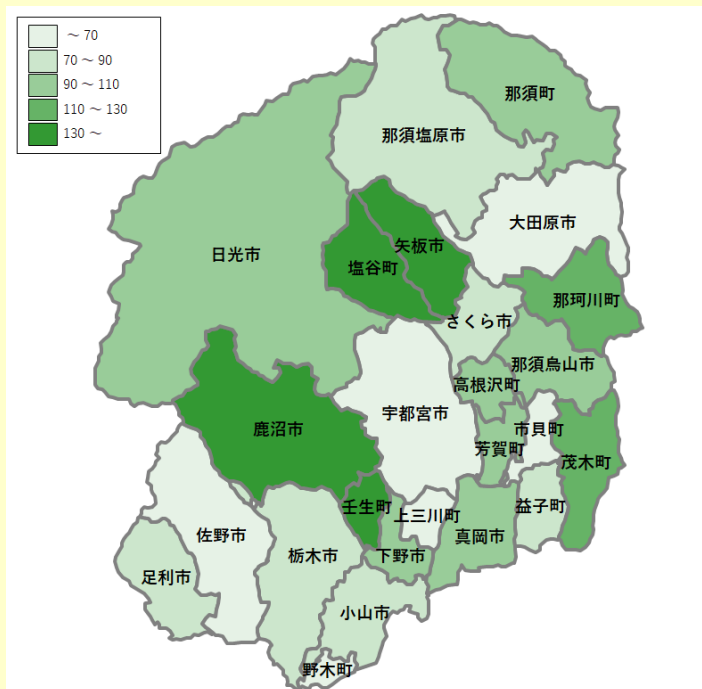
#### ボランティア活動（いずれか1つ）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成28年度生活習慣アンケート」  
第4章1-5-(15)

県全体の回答割合を100とし、ボランティア活動に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

ボランティア活動（食生活などの生活習慣の改善のための活動）に参加した者の市町別割合

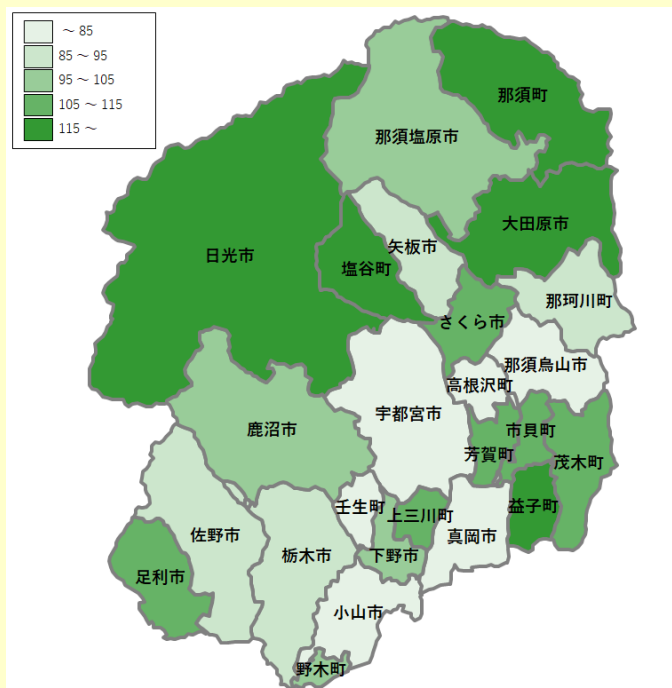


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（食生活などの生活習慣の改善のための活動）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

ボランティア活動（スポーツ・文化・芸術に関するもの）に参加した者の市町別割合

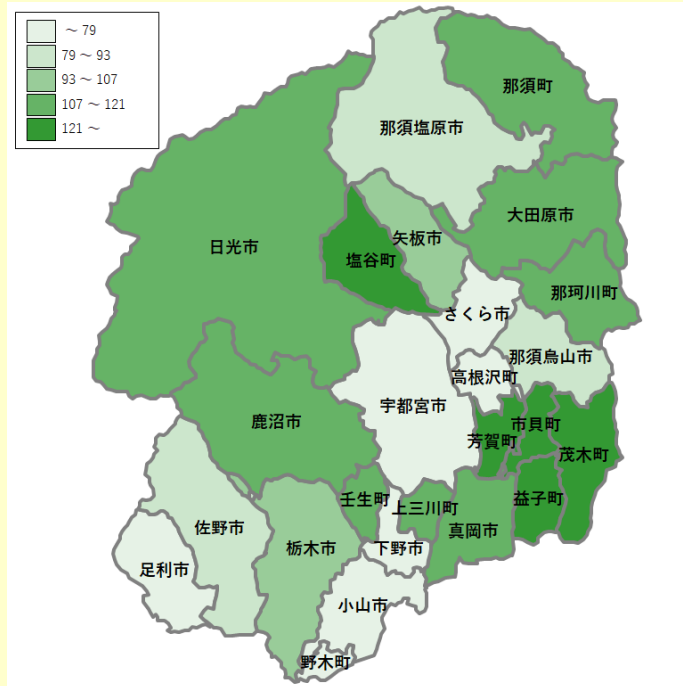


出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（スポーツ・文化・芸術に関するもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

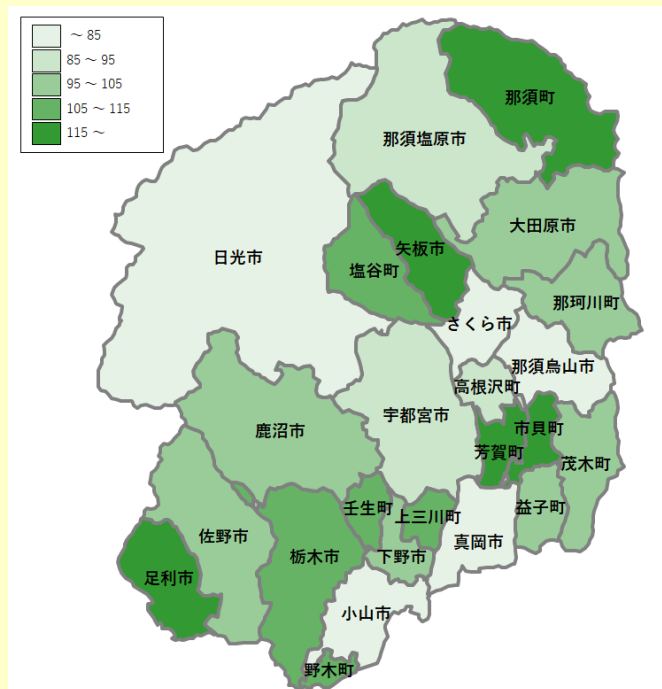
### ボランティア活動（まちづくりに関するもの）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（まちづくりに関するもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

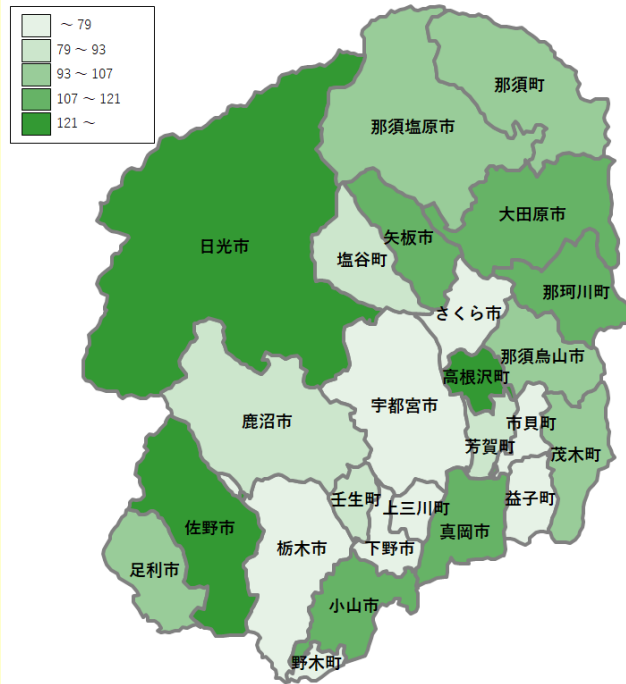
### ボランティア活動（子どもを対象としたもの）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（子どもを対象としたもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

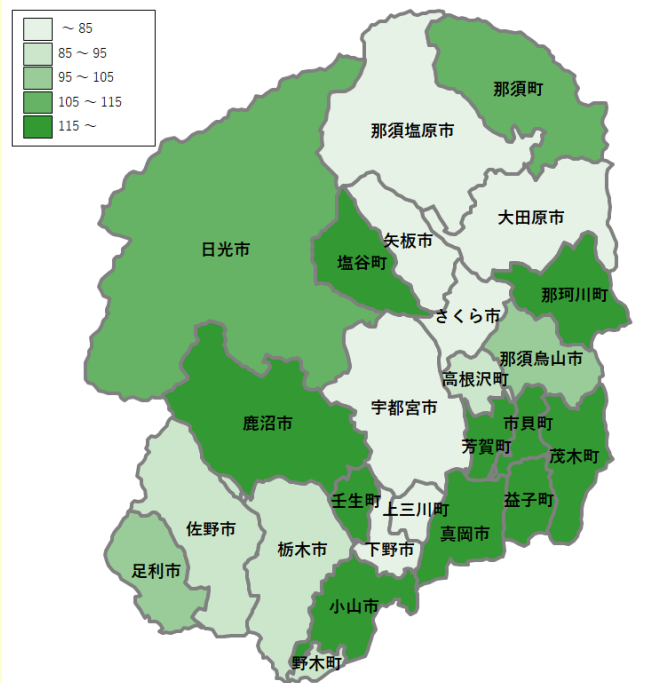
### ボランティア活動（高齢者を対象としたもの）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（高齢者を対象としたもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

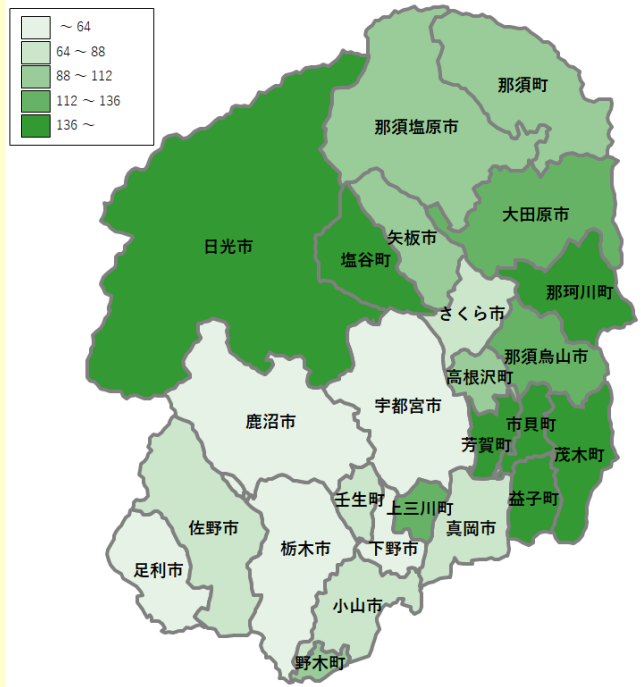
### ボランティア活動（防災・防犯に関するもの）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（防災・防犯に関するもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

ボランティア活動（自然や環境を守るためのもの）に参加した者の市町別割合



出典：栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」  
第 4 章 1-5-(15)

県全体の回答割合を 100 とし、ボランティア活動（自然や環境を守るためのもの）に参加した者の割合が大きいほど色が濃い。

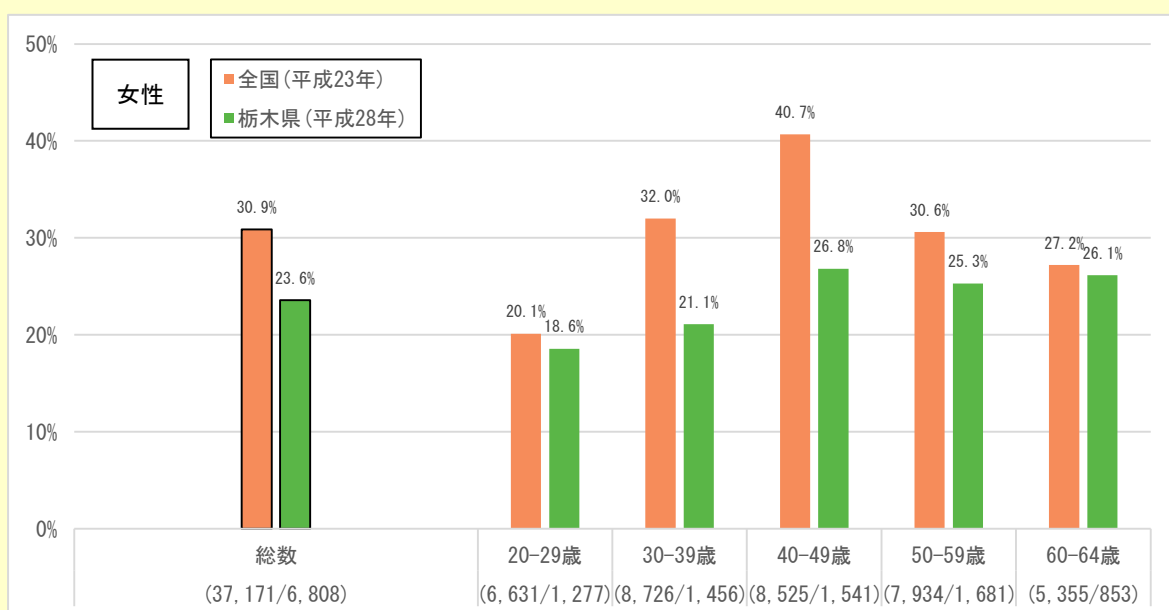
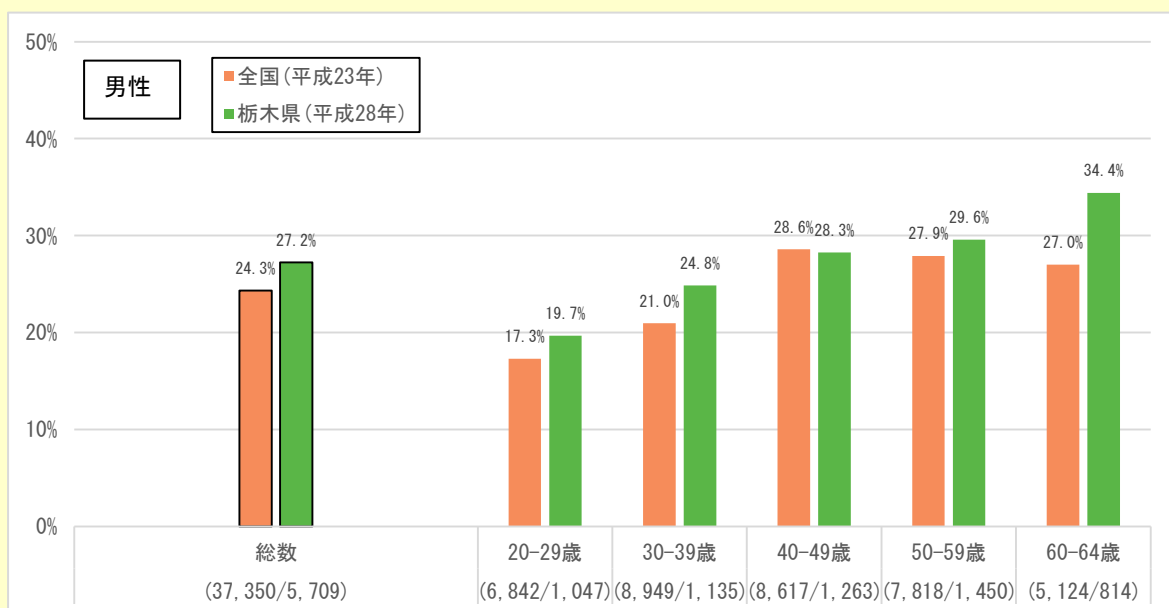


少なくとも 1 つ以上の健康づくりに関連したボランティア活動に参加している者の割合は、男性 27.2%、女性 23.6%という結果となった。これを平成 23 年度社会生活基本調査における一般的なボランティア参加率と比較すると、男性の健康づくりに関連したボランティアの参加割合は、全国の一般的なボランティア参加率よりも高い。

ただし、今回のアンケートでは健康づくりに関連したボランティア活動参加の有無を確認していたが、健康づくりと関連しないボランティア活動に参加した者も参加と誤回答している可能性があることに留意が必要である。

### 全国のボランティア参加率との比較

該当設問：問 12 この 1 年間に行ったボランティア活動（近隣の人への手助け・支援を含む）のうち、健康づくりに関係したものはありますか。  
あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。



出典：総務省統計局「社会生活基本調査」、栃木県「平成 28 年度生活習慣アンケート」

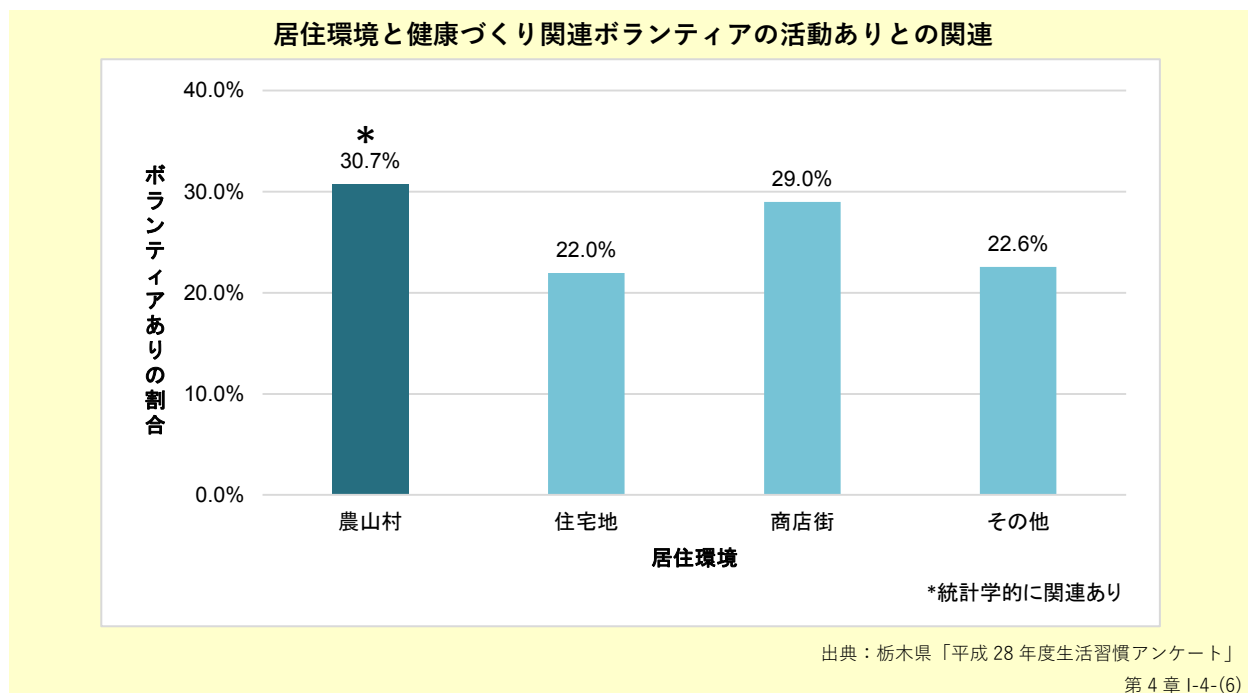
第 4 章 1-3-(23)・II-2-(14)

各グラフの ( ) 内の数字は母数

\*ただし、全国（平成 23 年）の総数は平成 28 年度生活習慣アンケートの対象年代に絞って再集計を行った。

## 2 居住環境と健康づくりに関連するボランティア活動のクロス集計

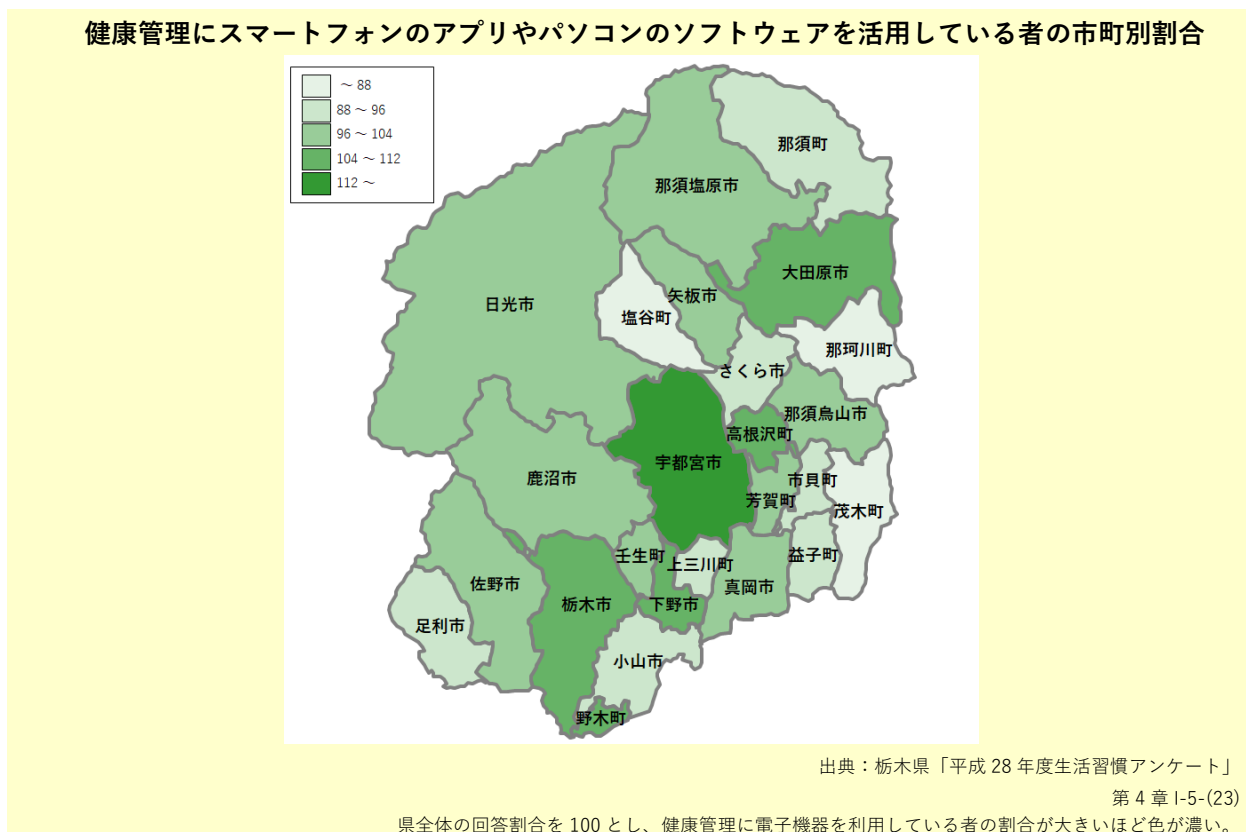
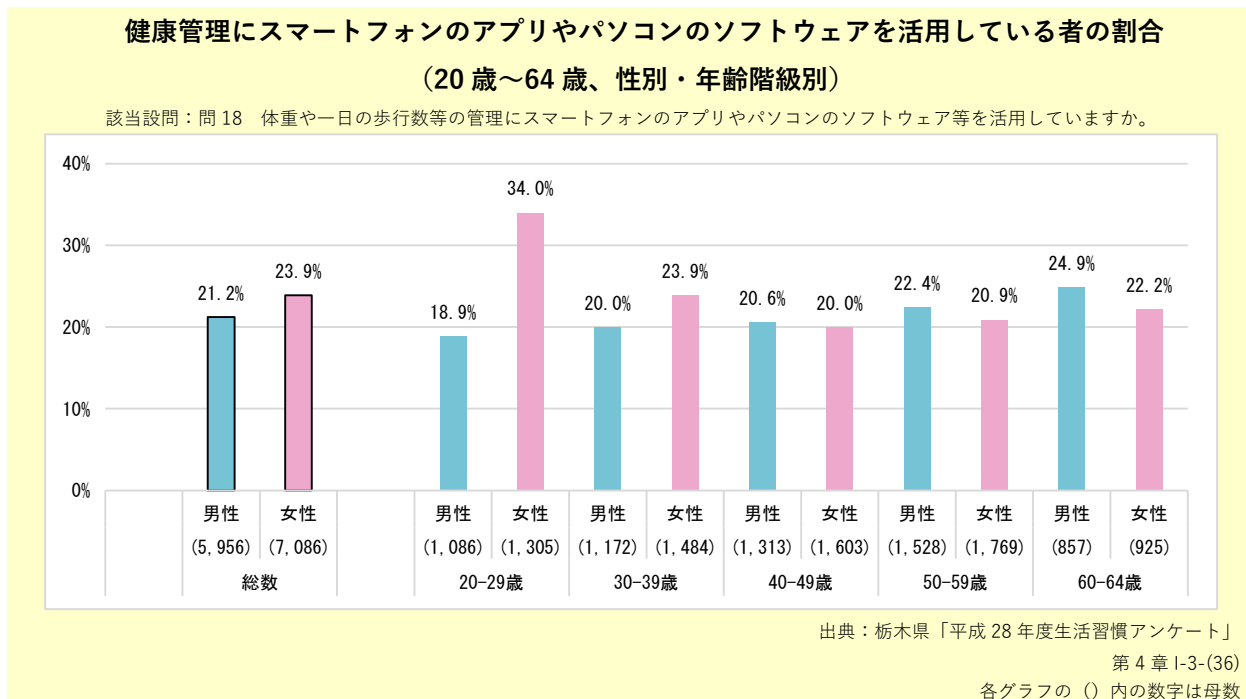
居住環境と健康づくりに関連するボランティア活動の間に統計的に意味のある関連が見られた。農山村では 30.7%がボランティア活動を経験している一方、住宅地のボランティア活動経験は 22.0%であった。



## 第 11 節 IT 活用

### 1 健康管理における IT 活用の状況

健康管理にスマートフォンのアプリやパソコンのソフトウェアを活用している者の割合は、男性においては 21.2%、女性においては 23.9%であった。特に 20 代の女性が 34.0%と高い数値を示している。







## 第 12 節 地域を好きであることと健康状態の関連

平成 28 年度生活習慣アンケートにて、住んでいる地域を「好き」と答えた者と健康状態との関連を検討するため、クロス集計を実施し、統計的に有意な関連があるか分析を行った。

その結果、住んでいる地域を「好き」と答えた者は、健康状態、健診受診率、がん検診受診率、歯科口腔衛生状態、歯の本数、歯科健診受診、生活習慣（食事、運動習慣、睡眠）、ロコモティブシンドローム認知度、ボランティア活動、禁煙意図、健康管理における IT 利用、体型、といった多数の調査項目と、健康状態として望ましい内容と関連していた。ただし、生活習慣病のリスクを高める飲酒（リスク飲酒）を行っている者の割合との関連では住んでいる地域が「好き」とするとリスク飲酒割合が有意に高かった。

### 回答者が住んでいる地域を「好き」と答えた者と各設問との関連

p 値： $p < 0.05$  の時に「有意な関連あり」とした。

該当設問	選択肢	有意な関連	p 値
問 1 現在の健康状態はいかがですか。	「とてもよい」、「よい」	あり	<0.001
問 2 過去 1 年間に、健康診断や人間ドックを受けたことがありますか。	「あり」	あり	<0.001
問 3 過去 1 年間（子宮頸がん、乳がんは過去 2 年間、※女性に限る）に、がん検診を受けましたか。	胃がん検診（40 歳～64 歳）	あり	<0.001
	肺がん検診（40 歳～64 歳）	あり	<0.001
	大腸がん検診（40 歳～64 歳）	あり	<0.001
	子宮頸がん検診（20 歳～64 歳、女性）	あり	<0.001
問 4 歯や口の健康状態について、あてはまる番号をすべて選んで○印をつけてください。	乳がん受診（20 歳～64 歳、女性）	あり	0.001
	「虫歯」なし	あり	<0.001
	「歯ぐきから出血」なし	あり	0.003
	「かめないもの」なし	あり	<0.001
	「飲み込みにくい」なし	あり	<0.001
	「口を大きく開け閉めすると、顎が痛い」なし	あり	0.008
	「口臭が気になる」なし	あり	0.001
「特にない」	あり	<0.001	
問 5 自分の歯（さし歯を含む。）は何本ありますか。	「24 本」以上の回答	あり	<0.001
問 6 過去 1 年間に歯科健康診査（歯周疾患検診を含む。）を受けましたか。	選択肢のいずれかの回答を 1 つでも回答した歯科健康診査を受けた者	あり	<0.001
問 7 主食、主菜、副菜の 3 つを組み合わせる食べることが 1 日に 2 回以上あるのは週に何日ありますか。	「ほとんど毎日」	あり	<0.001

該当設問	選択肢	有意な関連	p 値
問 8 現在、医師等から運動を禁止されていますか。	「禁止されていない」	あり	0.026
問 8-1 医師等から運動を禁止されていない方にお伺いします。運動習慣について、御記入ください。	運動習慣あり (週に2回以上30分以上の運動を1年以上している)	あり	<0.001
問 9 ここ1か月間、睡眠で休養が充分とれていますか。	「充分とれている」、「まあまあとれている」	あり	<0.001
問 10 ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の内容を知っていますか。	「内容を知っている」	あり	0.004
問 11 COPD(慢性閉塞性肺疾患)の内容を知っていますか。	「内容を知っている」	なし	0.785
問 12 この1年間に行ったボランティア活動(近隣の人への手助け・支援を含む)のうち、健康づくりに関係したものはありますか。	選択肢のいずれかの回答を1つでも回答した者	あり	<0.001
問 13-1 問 13 で1、2と答えた方にお聞きします。たばこをやめたいと思いますか。	「本数を減らしたい」	あり	0.006
問 14 この1か月間に自分以外の人が吸っていたたばこの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。	「職場」での受動喫煙がまったくなかった	あり	<0.001
	「医療機関」での受動喫煙がまったくなかった	あり	<0.001
問 15-1 問 15 で1、2、3、4、5と答えた方にお聞きします。お酒を飲む日は1日あたり、どのくらいの量を飲みますか。清酒に換算し、あてはまる番号を1つ選んで○印をつけてください。	リスク飲酒をしている(1日当たりの純アルコール量:男性40g、女性20gを超える選択肢を選んだ者を集計)	あり	0.012
問 16 医師から糖尿病と言われたことがある。(境界域、糖尿病の気がある、糖尿病になりかけている、を含む)	「あり」	なし	0.548
問 18 体重や一日の歩行数等の管理にスマートフォンのアプリやパソコンのソフトウェア等を活用していますか。	「継続的に活用している」、「時々活用している」、「活用したい気持ちはあるが実践していない」	あり	<0.001
問 19 あなたの現在の身長と体重をご記入ください。	身長・体重から計算したBMIが標準(18.5以上25未満)であること	あり	0.003

出典：第4章 I -4-(7)~(36)

